



Quest[®] NetVault[®] 13.0

CLI リファレンス・ガイド



© 2020 日本クエスト・ソフトウェア株式会社

ALL RIGHTS RESERVED.

本書には、著作権によって保護されている機密情報が記載されています。本書に記載されているソフトウェアは、ソフトウェア・ライセンスまたは機密保持契約に基づいて提供されます。本ソフトウェアは、当該契約の条項に準拠している場合限り、使用または複製することができます。本書のいかなる部分も日本クエスト・ソフトウェア株式会社の書面による許可なしに、購入者の個人的な使用以外の目的で、複写や記録などの電子的または機械的ないかなる形式や手段によっても複製または転送することはできません。

本書には、Quest Software 製品に関連する情報が記載されています。明示的、黙示的、または禁反言などを問わず、本書または Quest Software 製品の販売に関連して、いかなる知的所有権のライセンスも付与されません。本製品の使用許諾契約の契約条件に規定されている場合を除き、QUEST SOFTWARE はいかなる責任も負わず、製品に関連する明示的、黙示的または法律上の保証（商品性、特定の目的に対する適合性、権利を侵害しないことに関する黙示的保証を含む）を否認します。QUEST SOFTWARE は、損害が生じる可能性について報告を受けたとしても、本ドキュメントの使用、または使用できないことから生じるいかなる、直接的、間接的、必然的、懲罰的、特有または偶発的な障害（無期限、利益の損失、事業中断、情報の損失も含む）に対しても責任を負わないものとします。Quest Software は、本書の内容の正確性または完全性について、いかなる表明または保証も行わず、通知なしにいつでも仕様および製品説明を変更する権利を有します。Quest Software は、本書の情報を更新する一切の義務を負いません。

本文書の使用に関してご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

日本クエスト・ソフトウェア株式会社
宛先：法律部門
東京都新宿区西新宿 6-10-1
日土地西新宿ビル 13F

日本国内および海外の事業所の情報に関しては、弊社の Web サイト (<https://www.quest.com/jp-ja>) を参照してください。

特許

高度なテクノロジーは Quest Software の誇りです。特許および出願中の特許がこの製品に適用される可能性があります。この製品に適用される特許に関する最新情報については、<https://www.quest.com/jp-ja/legal> の弊社 Web サイトを参照してください。

商標

Quest Software、Quest、Quest ロゴ、QoreStor、および NetVault は、日本クエスト・ソフトウェア株式会社の商標および登録商標です。Quest の商標の詳細な一覧については、<https://www.quest.com/jp-ja/legal/trademark-information.aspx> を参照してください。その他すべての商標および登録商標は各社に帰属します。

凡例

- **警告**：警告アイコンは、潜在的な資産の損害、個人の負傷または死亡の可能性を表しています。
- ! **注意**：注意アイコンは、指示に従わなかった場合に、ハードウェアの損傷やデータの損失につながる可能性があることを表しています。
- i **重要、メモ、ヒント、モバイル、またはビデオ**：情報アイコンは、補足的情報を表しています。

NetVault CLI リファレンス・ガイド
更新 - 2020 年 4 月
ソフトウェア・バージョン - 13.0
NVG-102-13.0-JA-01

目次

はじめに	6
Quest® NetVault® について	6
主な利点	6
機能概要	7
本ガイドについて	8
対象ユーザー	8
参考資料	8
はじめに	9
NetVault コマンド・ライン・インターフェイス	9
Working with command-line utilities	9
前提条件	9
コマンド構文	10
CLI ヘルプ	10
コマンド終了ステータス	11
環境変数	11
NetVault サービスの開始または停止	12
コマンド・ライン・ユーティリティの使用	13
クライアント固有のユーティリティ	13
nvclient	13
nvclientaccess	14
nvclientadd	15
nvclientlist	16
nvclientname	16
nvclientremove	17
デバイス固有のユーティリティ	17
asf_load_media	17
asf_release_drive	18
nvacslsmedia	18
nvaddfiler	19
nvcheckdrive	21
nvcleandrive	21
nvclosedoor	22
nvcloseeeport	22
nvcloseeeportcleaning	23
nvdav	23
nvrda	24
nvddbboost	26
nvdevice	27
nvdeviceeject	28
nvlibrarymodify	29

nvopendoor	31
nvopeneeport	32
nvremovefiler	32
nvresetdrivestats	33
nvscandrives	34
nvsetcleaninglives	35
nvsetdrivecleaning	35
nvsmartdisk	37
nvsvtlgrow	38
メディア固有のユーティリティ	39
nvblankmedia	39
nvsetmedia	40
nvbulkblankmedia	42
nvexportmedia	43
nvlabelmedia	43
nvlistblankmedia	44
nvlistmedia	45
nvloadmedia	46
nvmakemedia	46
nvmediadetails	48
nvremovemedias	49
nvreusemedia	49
nvscanmedia	50
nvsynchronizesilomedia	51
nvupdateserialnumber	52
ジョブ固有のユーティリティ	52
nvexpiresaveset	53
nvjobabort	54
nvjobcreate	55
nvjobdelete	57
nvjobhold	59
nvjoblist	59
nvjobmodify	60
nvjobresume	62
nvjobstart	63
nvpolicy	64
nvrestore	66
nvsetcreate	68
nvsetdelete	79
nvsetexport	79
nvsetimport	80
nvsetmodify	81
nvtrigger	85
ログ固有のユーティリティ	86
nvlogdump	86
nvlogpurge	87
nvreadlog	87

その他のユーティリティ	88
bonedate	88
getmachineid	89
installplugin	89
licenseinstall	89
nvllicenseinfo	89
nvmeddbcheck	90
nvpassword	91
nvpluginpreconfig	92
nvpluginaccess	93
nvpqdbpasswd	94
nvreport	95
nvscheddbcheck	95
nvsendmail	96
nvsendopmsg	96
nvtrace	97
nvreport ユーティリティの使用	98
nvreport ユーティリティについて	98
構文	98
オプション	99
レポート・クラス	99
プレーン・テキストのテンプレート・ファイル	104
レポートの書式設定	105
実際の名前の取得	105
format オプションの使用	106
sort オプションの使用	107
include オプションの使用	107
title オプションの使用	110
外部レポート・ファイルの作成	110
テンプレート・ファイルの選択	110
outputdir の指定	111
appendoutput オプションの指定	111
title オプションの使用	111
HTML テンプレート・ファイル	112
企業情報	121
テクニカル・サポート用リソース	121

前書き

- [Quest® NetVault® について](#)
- [本ガイドについて](#)
- [対象ユーザー](#)
- [参考資料](#)

Quest® NetVault® について

Quest NetVault (NetVault) は、高度なクロスプラットフォームのデータ保護機能を提供します。非常に使いやすく、すぐに導入できる製品であり、拡張に伴う煩雑な作業も必要ありません。

NetVault では、単一の直観的なユーザー・インターフェイスから物理および仮想の両方の環境でデータおよびアプリケーションを保護し、大容量のペタバイト単位のデータを含む多数のサーバーを保護できます。また、NetVault は、異機種混在環境もサポートするため、幅広いオペレーティング・システム、アプリケーション・データベース、プロセッサ・アーキテクチャ、およびネットワーク・ストレージ・デバイスのデータを保護できます。このようなクロスプラットフォームの多様性により、日々成長と変化を続ける IT インフラストラクチャの状況に合わせて、NetVault を容易にカスタマイズできます。

主な利点

- シンプルで、すぐに利用できるシステムによりタイム・トゥ・バリューを短縮できる
- 完全に自動化されたインストール・マネージャにより、Windows クライアントの展開を簡素化
- 物理と仮想両方の環境を保護できるため、コストを削減できる
- 異機種混在のサーバー・サポートで多種多様な IT 環境に幅広く対応
- 広範なアプリケーションのサポート
- ストレージの効率性を大幅に向上させるディスク・ベースのバックアップおよび重複排除
- ソース側の重複排除および WAN 向けに最適化されたレプリケーションを実現するための Quest DR Series システムとのシームレスな統合
- 包括的なネットワーク接続型ストレージ (NAS) の保護により、重要なデータを保護
- 豊富な機能により仮想環境を保護
- ベア・メタル・リカバリによって、障害が発生したサーバーのリカバリ時間を大幅に短縮
- 分散しているバックアップ・ターゲットや作業負荷に対応できる幅広いストレージ接続オプション
- バックアップ・データ転送を最適化し、障害点を削減するデバイスの動的共有
- ハイパフォーマンスなマルチストリーミングによる高速ファイル・システム・バックアップ

機能概要

- **アプリケーション保護** : Oracle、SQL Server、Exchange、SharePoint、MySQL、PostgreSQL、Domino、DB2、Informix、SAP、および Sybase などのビジネスに重要なアプリケーションの可用性をアプリケーションのプラグインによって確保することができます。これらのプラグインは、統合にかかる時間を節約できるようにネイティブ・ソリューションを補完します。バックアップ・ジョブおよびリカバリ・ジョブを実行するために、スクリプトを作成する必要はありません。
- **NAS 保護** : Dell、EMC、HITACHI、IBM、NetApp、Sun のデバイスを含む、NAS アプライアンス上に保管されている情報に対して、高度なデータ保護を実現します。ネットワーク・データ管理プロトコル (NDMP) を使用してデータをバックアップすることで、LAN を介したトラフィックを削減し、パフォーマンスを最大化できます。NetVault は、さまざまなストレージ・トポロジおよび構成をサポートしており、ローカル接続 SCSI デバイス、SAN 接続デバイス、またはネットワーク上に存在するストレージ・デバイスなどに、直接バックアップできます。
- **企業全体の管理** : Web ベースのインターフェイスを使用して、バックアップおよびリカバリ操作の設定、管理、および監視を行います。ウィザードの手順に従って、バックアップ・ジョブの作成、ポリシーの割り当て、ストレージ・デバイスの設定、レポートの生成などの一般的なタスクを実行できます。
- **ディスクおよびテープへのバックアップ** : NAS デバイスやサードパーティ製の重複排除アプライアンスを含む、幅広いストレージ・ターゲットへのディスク・ベースおよびテープ・ベースのバックアップを活用します。また、NetVault では、オフサイト・ストレージおよびディザスタ・リカバリの目的のために、ストレージ・ターゲット間でデータを移動できます。
- **データ重複排除** : 強力な重複排除テクノロジーによりデータ・ストレージのフットプリントを削減します。NetVault は、Quest DR Series システムの重複排除アプライアンスおよび Rapid Data Access (RDA) クライアント側の重複排除テクノロジーとシームレスに統合されているため、ユーザーはアプライアンスの強力な重複排除、圧縮、およびレプリケーションの機能をフル活用できます。また、NetVault は、EMC Data Domain バックアップおよびリカバリ・プラットフォームと、その重複排除用の DD Boost テクノロジーもサポートしています。
- **仮想化のサポート** : 高度なデータ保護を、VMware 環境および Hyper-V 環境にまで拡大します。NetVault では、専門の技術者でなくても、ポイント・アンド・クリックで、仮想環境の整合性のある、信頼性の高いバックアップおよびリストアを実行できます。
- **ハイパフォーマンスなマルチストリーミング** : 同時に複数のワークロードをバックアップすることで、時間を節約し、管理を容易にします。
- **強力なセキュリティ** : CAST-128、CAST-256、および AES-256 アルゴリズムをサポートする暗号化プラグインを使用することで、バックアップ・ウィンドウや重複排除のパフォーマンスを犠牲にすることなく規制要件に適合します。柔軟なジョブ・レベルの暗号化により、暗号化対象のデータを容易に選択できます。
- **単純明快なライセンス** : NetVault は、容量またはコンポーネントごとにライセンスが付与されます。このオプションにより、組織のニーズに最適なモデルを、非常に柔軟に選択できます。コンポーネント・ベースのライセンスでは、必要なモジュールを選択することができます。容量単位で NetVault のライセンスを取得ことができ、クライアントまたはアプリケーション・プラグインの配備数に制限はありません。Quest は、NetVault 向けに 2 種類の容量ベースのライセンス・エディションを提供しています。一方は成長中の企業に高い価値を付与し、もう一方は大企業を包括的に保護します。

本ガイドについて

このガイドでは、NetVault のコマンドライン・ユーティリティの使用方法について説明します。NetVault WebUI の使用方法については、『*Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド*』を参照してください。

i

重要:

- NetVaultでは、NetVaultサーバーに存在するPostgreSQLデータベースにシステム・データが保管されます。Questテクニカル・サポート担当者からの指示がない限り、PostgreSQLツールを使用して、NetVaultデータベースを直接変更しないでください。データベースの変更が間違っていると、回復できないデータ破損が発生する可能性があります。NetVaultデータベースを変更する前に、必ずデータベースのバックアップ・コピーを作成してください。NetVaultデータベースのバックアップについての詳細は、『*Quest NetVaultビルトイン・プラグイン・ユーザーズ・ガイド*』を参照してください。
- NetVaultでは、NetVaultインストール・ディレクトリの**config**ディレクトリに存在する「**.cfg**」ファイルにシステム設定が保管されます。これらのファイルの設定を変更する場合は、必ず、Questテクニカル・サポート担当者の指導の下で実行します。これらのファイルに誤った変更が行われると、エラーやその他の予期しない動作が発生する可能性があります。設定ファイルを変更する前に、必ずファイルのバックアップ・コピーを作成してください。

対象ユーザー

本ガイドは、バックアップ管理者と、組織のバックアップ戦略を設計および実施する責任を担うその他の技術者を対象としています。NetVault サーバーおよびクライアントを実行するオペレーティング・システムについての知識があることを前提としています。

参考資料

- *Quest NetVault インストール・ガイド* : このガイドでは、NetVault サーバーおよびクライアント・ソフトウェアのインストール方法について詳しく説明しています。
- *Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド* : このガイドは、データを保護するためのNetVaultの設定、使用方法を説明しています。NetVaultのすべての特徴と機能に関する総合的な情報を提供しています。
- *Quest NetVault Plug-in for FileSystem ユーザーズ・ガイド* : このガイドでは、Plug-in for FileSystemのインストール、設定および使用方法について説明しています。
- *Quest NetVault ビルトイン・プラグイン・ユーザーズ・ガイド* : 本ガイドは、以下のプラグインの設定および使用方法を説明しています。
 - Quest NetVault Plug-in for Consolidation
 - Quest NetVault Plug-in for Data Copy
 - Quest NetVault Plug-in for Databases
 - Quest NetVault Plug-in for Raw Devices

これらのガイドは、<https://support.quest.com/technical-documents> からダウンロードできます。

はじめに

- NetVault のコマンド・ライン・インターフェイスについて
- コマンドライン・ユーティリティの操作
- NetVault サービスの開始 / 停止

NetVault のコマンド・ライン・インターフェイスについて

NetVault では、コマンド・プロンプトまたはターミナル・セッションから NetVault システムの設定および管理に使用できるコマンド・ライン・インターフェイスを提供しています。NetVault CLI を使って、以下のような各種作業を行うことができます。

- NetVault サービスの開始と停止
- パフォーマンス、セキュリティ、およびその他のオプションの設定
- クライアント、ストレージ・デバイス、およびストレージ・メディアの管理
- バックアップとリストアの実行
- レポートの生成と表示

NetVault CLI は NetVault のサーバー・マシンおよびクライアント・マシンからアクセスすることができます。

i | **メモ** : NetVault コマンド・ライン・インターフェイス (CLI) は、マネージド・サービス・プロバイダ (MSP) 環境ではサポートされません。

コマンドライン・ユーティリティの操作

コマンドライン・ユーティリティは、**util** ディレクトリ (Windows では、<NetVault home>\util、Linux では、<NetVault Home>/util) にあります。また、いくつかの特殊なユーティリティは **bin** ディレクトリ (Windows では、<NetVault home>\bin、Linux では、<NetVault Home>/bin) にあります。CLI コマンドはノンブロッキング処理です。「ノンブロッキング処理」とは、アクションが完了する前にコマンドへの応答が返されることです。これにより、さまざまなコマンドを連続して実行することができます。

前提条件

CLI セッションを開始する前に、以下の必要条件を満たしていることを確認します。

- CLI ユーティリティを使用するには、Windows では管理者権限で、Linux および UNIX ではルート・ユーザー権限でログインする必要があります。

- NetVault ユーザーに CLI ユーティリティにアクセスして使用するための権限が必要です。これらの権限は NetVault WebUI で割り当てられます。詳しくは、『Quest NetVault アドミニストレータズ・ガイド』を参照してください。

コマンド構文

コマンドの構文は次の形式で指定します。

```
Command -option 1 <Value> -option 2 <Value> [-option 3 <Value> | -option 4 <Value>] [-option 5], ...
```

ここで、

- <Value> はオプションのユーザー入力変数です。
- 角括弧 ([]) 内のオプションは省略可能です。
- 2つのオプションの間のパイプ文字 (|) は、コマンドでは、構文に列挙されている複数のオプションのうち1つのみを使用できることを示しています。

重要

- コマンド構文の形式は、特に指定のない限り、1行で入力する必要があります。構文では、オプションの順序は関係ありません。
- スイッチは、その名前の先頭文字のみを使用して指定できます。この場合、この文字が一意であること、つまり、選択したコマンドの他のオプションに同じ文字で始まるコマンドがないことが前提となります。

たとえば、以下は、nvbulkblankmedia ユーティリティのコマンド構文です。

```
nvbulkblankmedia -libraryname <library name> -medialabel <media label> -allmedia -password <NetVault password> -wait
```

このコマンドのオプションはすべて異なる文字で始まります。そのため、このコマンドは以下のように指定することもできます。

```
nvbulkblankmedia -l MyLibrary1 -m MyBackupMedia* -p Mypassword -wait
```

ここで、

- 「-l」は「-libraryname」オプションを表す
- 「-m」は「-medialabel」オプションを表す
- 「-p」は「-password」オプションを表す
- CLI では変数名に含まれるスペースを認識できません。スペースを含む変数は引用符 (“ ”) で囲む必要があります。囲まなければ、コマンドは失敗します。
- CLI では、構文内で使用されているアンダースコアは、スペースの代替文字として認識されます。NetVault サーバー、クライアント、またはバックアップ・デバイスの名前にアンダースコア文字 (_) が含まれ、CLI コマンドで参照されている場合は、競合が発生します。

たとえば、CLI コマンドで「Test_Server」という名前を指定すると、NetVault では「Test Server」という名前のマシンを検索するため、マシンを特定できず、コマンドは失敗します。

アンダースコアを含む変数は引用符 (“ ”) で囲む必要があります。

CLI ヘルプ

コマンドのヘルプにアクセスするには、コマンドに続けて「-help」または「--help」と入力するか、コマンドを入力して、**Enter** キーを押します。たとえば、**nvblankmedia** のヘルプにアクセスするには、以下の方法を使用できます。

```
nvblankmedia -help
nvblankmedia --help
nvblankmedia
```

コマンド終了ステータス

実行すると数値が返される CLI コマンドは多数あります。以下の表に示すように、戻り値はコマンドの実際の終了ステータスを表します。

表1. コマンド終了ステータス

終了ステータス	説明
0	コマンドが正常に完了しました。
1	コマンドが失敗しました。
2	コマンドで指定されている引数が無効です。たとえば、コマンドで指定された変数に誤りがあります。

環境変数

スクリプトで CLI ユーティリティを使用するときは、以下の環境変数を使用できます。

表2. 環境変数

変数	説明
NETVAULTCLIACCOUNT	NetVaultユーザー名を指定します。指定したアカウントにCLIユーティリティを使用する権限が必要です。 NETVAULTCLIACCOUNT=<ユーザー・アカウント名> CLIユーティリティにアクセスするために、この変数はスクリプトに含める必要があります。
NETVAULTCLIPASSWORD	NetVaultユーザー・アカウントのパスワードを指定します。 NETVAULTCLIPASSWORD=<パスワード> ユーザー・アカウントのパスワードを指定するには、スクリプトにこの変数を指定する必要があります。
NV_HOME	NetVaultのインストール・ディレクトリを返します。
NV_JOBCLIENT	ジョブのターゲット・クライアントを指定します。 NV_JOBCLIENT=<NetVaultクライアントの名前>
NV_JOBID	ジョブID番号を指定します。 NV_JOBID=<ジョブID>
NV_JOBTITLE	ジョブの名前を指定します。 NV_JOBTITLE=<ジョブ・タイトル>

表2. 環境変数

変数	説明
NV_JOB_WARNINGS	<p>ジョブが警告とともに完了した場合はTRUEを返し、それ以外の場合はFALSEを返します。</p> <ul style="list-style-type: none"> バックアップが警告を表示して終了した場合: NV_JOB_WARNINGS=TRUE バックアップが正常に完了した場合: NV_JOB_WARNINGS=FALSE <p>この変数は、ポスト・スクリプトでのみ使用できます。この変数は、現在メール・スクリプトが使用していますが、汎用的に使用できます。</p> <p>バックアップが警告を表示して終了した場合、NV_STATUS変数はSUCCEEDEDを返し、NV_JOB_WARNINGS変数はTRUEを返します。</p> <p>このスクリプトの戻り値がローカライズされることはありません。戻り値は英語でTRUEまたはFALSEです。</p>
NV_OUTPUT_FILE	レポート用にユーザー定義出力ファイルを返します。
NV_SERVERNAME	<p>NetVaultサーバー名を指定します。</p> <p>NV_SERVERNAME=<NetVaultサーバーの名前></p>
NV_SESSIONID	<p>ジョブのセッションIDを指定します。</p> <p>NV_SESSIONID=<セッションID></p>
NV_STATUS	<p>ジョブの終了ステータスを返します。SUCCEEDEDまたはFAILEDのいずれかを返します。</p> <ul style="list-style-type: none"> バックアップ・ジョブが正常に完了した場合、または警告を表示して終了した場合: NV_STATUS=SUCCEEDED バックアップ・ジョブが失敗した場合: NV_STATUS=FAILED <p>この変数は、ポスト・スクリプトでのみ使用できます。戻り値がローカライズされることはありません。値は英語でSUCCEEDEDまたはFAILEDです。</p>
NV_USER_ARG	プレスクリプトまたはポストスクリプトで渡されるユーザー定義引数を指定します。

NetVault サービスの開始 / 停止

NetVault サービスは、サーバーおよびクライアント・マシンで自動的に開始されるように設定されています。CLIからこのサービスを手動で停止または起動するには、以下のコマンドを使用します。

- **Linux ベース・システム :**

```
$NV_HOME/etc/startup.sh start
```

```
$NV_HOME/etc/startup.sh stop
```

- **Windows ベース・システム :**

```
C:\> net start "NetVault Process Manager"
```

```
C:\> net stop "NetVault Process Manager"
```

コマンドライン・ユーティリティの使用

- クライアント固有ユーティリティ
- デバイス固有ユーティリティ
- メディア固有ユーティリティ
- ジョブ固有ユーティリティ
- ログ固有ユーティリティ
- その他のユーティリティ

クライアント固有ユーティリティ

- nvclient
- nvclientaccess
- nvclientadd
- nvclientlist
- nvclientname
- nvclientremove

i | **メモ**：仮想クライアントは WebUI からのみ作成できます。コマンドライン・ユーティリティを使用して仮想クライアントを作成することはできません。

nvclient

説明

NetVault サーバーに 1 つ以上の NetVault クライアントを追加して、指定したクライアント・グループに割り当てます。

構文

```
nvclient [-add] [-list] [-password <NetVault Password>]
[-file <Client List File>]
[-group <Client Group Name> ...]
[-log <Log File>] [-failure <Filename to Log Failed Clients List>]
[-quiet] [-verbose] [-abort] [-args] [-timeout <timeout period>]
```

オプション

表3. nvclient

オプション	説明
-add	1つ以上のクライアントをNetVaultサーバーに追加します。
-list	サーバーに追加されたクライアントを一覧表示します。
-password	クライアントのNetVaultパスワードを指定します。クライアントでセキュリティが有効になっている場合、このオプションは必須です。
-file	一括処理用の入力ファイルの名前を指定します。このファイルには、クライアント名、パスワード、グループ名を指定できます。1行に1つのクライアントを指定します。 例: MyClientList Client-A -password mypwd2 -group Group1 Client-B Client-C -password mypwd2
-client	サーバーに追加するクライアントのNetVault名を指定します。
-group	クライアントを追加するクライアント・グループの名前を指定します。クライアントを追加する前に、クライアント・グループが作成されていることを確認します。
-log	ログ・ファイルの名前を指定します。
-failure	失敗したクライアント・リストの名前を指定します。
-quiet	画面への出力メッセージの表示を抑制します。
-verbose	画面にステータス・メッセージおよびエラー・メッセージを表示します。
-abort	ライセンスによって一部のクライアントの追加が許可されていない場合にコマンドを中止します。
-args	プログラムのパラメータを出力します。何も実行せずに終了します。
-timeout	クライアントが「追加」要求を承認するまでのNetVault側の待ち時間を指定します。タイムアウト値は秒単位で指定します。このオプションのデフォルト値は30秒間に設定されています。指定した時間内にクライアントを追加できない場合は、エラー・メッセージが表示されます。

注意

- クライアント名は大文字と小文字が区別されます。
- クライアントをサーバーに追加するには、クライアントが使用可能で、有効な NetVault が稼働している必要があります。
- 使用できないクライアントを特定するには、`nvclientlist -find <ipaddress>` コマンドを使用します。詳細は、「[nvclientlist](#)」を参照してください。
- クライアント・グループは、NetVault WebUI からのみ作成できます。CLI には、クライアント・グループを作成するためのユーティリティは用意されていません。

nvclientaccess

説明

指定した NetVault クライアントに対するアクセスを許可します。

構文

```
nvclientaccess [-client <Client Name>] | [-clients <Client Names>] |  
[-tdclients <Teradata DBS name>] [-password <password>]
```

オプション

表4. nvclientaccess

オプション	説明
-clientまたは-clients	アクセスが許可されるNetVaultクライアントの名前を指定します。
-tdclients	Teradata DBSの名前を指定します。このオプションは、追加されたすべてのクライアントに対するアクセスを許可する場合に使用できます。
-password	クライアントのNetVaultパスワードを指定します。クライアントでセキュリティが有効になっている場合、このオプションは必須です。

nvclientadd

説明

1 つの NetVault クライアントをサーバーに追加します。このユーティリティは、NetVault サーバー上で実行する必要があります。

構文

```
nvclientadd [-client <Client Name> | -clientip <Client IP address>]  
[-clientgroup <Client Group Name>] [-password <password>]  
[-timeout <timeout period>] [-version]
```

オプション

表5. nvclientaddのオプション

オプション	説明
-client	追加するクライアントのNetVault名を指定します。
-clientip	追加するNetVaultクライアントのIPアドレスを指定します。
-clientgroup	クライアントを追加するクライアント・グループの名前を指定します。クライアントを追加する前に、クライアント・グループが作成されていることを確認します。
-password	クライアントのNetVaultパスワードを指定します。クライアントでセキュリティが有効になっている場合、このオプションは必須です。
-timeout	クライアントが「追加」要求を承認するまでのNetVault側の待ち時間を指定します。タイムアウト値は分単位で指定します。指定した時間内にクライアントを追加できない場合は、エラー・メッセージが表示されます。
-version	マシンにインストールされているNetVaultディストリビューションのビルド日付を表示します。

注意

- クライアント名は大文字と小文字が区別されます。

- クライアントをサーバーに追加するには、クライアントが使用可能で、有効な NetVault が稼働している必要があります。
- 使用できないクライアントを特定するには、`nvclientlist -find <ipaddress>` コマンドを使用します。詳細は、「`nvclientlist`」を参照してください。
- クライアント・グループは、NetVault WebUI からのみ作成できます。CLI には、クライアント・グループを作成するためのユーティリティは用意されていません。

nvclientlist

説明

以下の機能を実行します。

- NetVault サーバーに追加されたクライアントを一覧表示します。
- クライアントとして追加できる使用可能な NetVault マシンを一覧表示します。
- 解決可能な名前または IP アドレスを使用して、NetVault マシンを特定します。

構文

```
nvclientlist [-current [-name <Client Name>]] [-available [-name <Client Name>]]
[-find <Resolvable Name or IP address>] [-version]
```

オプション

表6. nvclientlist

オプション	説明
-current	現在NetVaultサーバーに追加されているクライアントを一覧表示します。
-available	クライアントとして追加できる使用可能なNetVaultマシンを一覧表示します。
-name	特定する必要があるクライアントのNetVault名を指定します。
-find	特定する必要があるマシンの解決可能な名前またはIPアドレスを指定します。
-version	マシンにインストールされているNetVaultディストリビューションのビルド日付を表示します。

nvclientname

説明

NetVault クライアントの名前を変更できます。このユーティリティを使用して、NetVault サーバーの名前を変更することはできません。

構文

```
nvclientname -clientname <New NetVault name>
```


オプション

表7. nvclientname

オプション	説明
-clientname	クライアントの新しいNetVault名を指定します。

nvclientremove

説明

NetVault サーバーからクライアントを削除します。このユーティリティは、NetVault サーバー上で実行する必要があります。

構文

```
nvclientremove [-client <NetVault name of the client>] [-version]
```

オプション

表8. nvclientremove

オプション	説明
-client	削除する必要があるクライアントのNetVault名を指定します。このオプションには、クライアント名を1つだけ指定できます。
-version	マシンにインストールされているNetVaultディストリビューションのビルド日付を表示します。

デバイス固有ユーティリティ

- [asf_load_media](#)
- [asf_release_drive](#)
- [nvacslsmedia](#)
- [nvaddfiler](#)
- [nvcheckdrive](#)
- [nvcleandrive](#)
- [nvclosedoor](#)
- [nvcloseeport](#)
- [nvcloseeportcleaning](#)
- [nvдав](#)
- [nvrda](#)
- [nvddboost](#)
- [nvdevice](#)
- [nvdeviceject](#)
- [nvlibrarymodify](#)
- [nvopendoor](#)
- [nvopeneeport](#)
- [nvremovefiler](#)
- [nvresetdrivestats](#)
- [nvscandrives](#)
- [nvsetcleaninglives](#)
- [nvsetdrivecleaning](#)
- [nvsmartdisk](#)
- [nvsvtlgrow](#)

asf_load_media

説明

指定したメディアをドライブにロードし、Windows Advanced System Format (ASF) メディアとしてドライブ内にロックします。

構文

```
asf_load_media -m <Media Label> | -b <Barcode> -d <Device Name>
[-s <Server Name>] [-c <Client Name>] [-wait]
```

オプション

表9. asf_load_media

オプション	説明
-m	ターゲット・メディア・アイテムのラベルを指定します。
-b	ターゲット・メディア・アイテムのバーコードを指定します。
-d	ターゲット・ドライブの名前を指定します。
-s	ターゲット・デバイスがローカルに接続されているNetVaultマシンの名前を指定します。デバイスがクライアント(SmartClient)にローカルに接続されている場合は、このオプションを使用してクライアント名を指定します。
-c	ターゲット・デバイスがローカルに接続されているNetVaultクライアントの名前を指定します。
-wait	タスクが完了するまで待機します。

asf_release_drive

説明

asf_load_media コマンドによって獲得されたロックを解放して、NetVault がドライブおよびメディアを使用できるようにします。

構文

```
asf_release_drive -d <Device Name> [-s <Server Name>] [-c <Client Name>]
```

オプション

表10. asf_release_drive

オプション	説明
-d	ターゲット・ドライブの名前を指定します。

表10. asf_release_drive

オプション	説明
-s	NetVaultサーバーの名前を指定します。 このオプションは、デバイスがサーバーにローカルに接続されている場合に使用します。
-c	NetVaultクライアントの名前を指定します。 このオプションは、デバイスがクライアントまたはリモートNetVaultサーバーに接続されている場合に使用します。

nvacslsmedia

説明

以下の機能を実行します。

- メディアを ACSLS ライブラリに割り当てます。
- 指定したメディアの割り当てを解除します。
- メディアをエジェクトします。

構文

```
nvacslsmedia [-allocate | -deallocate | -eject] [-medialabel <Media Label>]
[-cap <acs>,<lsm>,<cap>] -libraryname <Library Name> [-servername <Server Name>]
[-range <range-media >] [-file <Filename >] [-version]
```

オプション

表11. nvacslsmedia

オプション	説明
-allocate	指定したメディア・アイテムを割り当てます。
-deallocate	指定したメディア・アイテムを割り当て解除します。
-eject	指定したCartridge Access Port (CAP) 経由で、指定したメディア・アイテムをエジェクトします。
-cap	メディア・アイテムをエジェクトするときに使用するCartridge Access Port (CAP) を指定します。 ライブラリのACS番号、ライブラリを管理するロボティック装置のLSM番号、およびCAPの物理番号を指定します。数値を区切るには、カンマを使用します。 例: -cap 0,0,0
-medialabel	割り当て、割り当て解除、またはライブラリからのエジェクトの対象となるメディア・アイテムのラベルまたはバーコードを指定します。複数のラベルまたはバーコードを指定する場合は、カンマ区切りリストを入力します。
-libraryname	ターゲット・ライブラリの名前を指定します。
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。サーバー名では、大文字と小文字を区別します。

表11. nvacslsmedia

オプション	説明
-range	割り当て解除の対象となるメディアに対応するラベルまたはバーコードの範囲を指定します。範囲を示す値の間にはハイフン(前後にスペースなし)を挿入します。
-file	割り当て解除の対象となるメディア・アイテムのセットに対応するメディア・ラベルまたはバーコードのリストが格納されたファイルの名前を指定します。ファイルの各行にメディア・ラベルまたはメディア・バーコードを指定します。
-version	マシンにインストールされているNetVaultディストリビューションのビルド日付を表示します。

nvaddfiler

説明

NetVault サーバーに NDMP ファイラーを追加します。

構文

```
nvaddfiler [-servername <Server Name>] [-clientname <Client Name>]
[-pluginname <Plug-in Name>] -filename <Filer Name> -address <IP address or FQDN>
[-port <Port number>] -account <User Name> -password <Password>
[-description <Description>] [-utf8 <Boolean>]
```

オプション

表12. nvaddfiler

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-clientname	ファイラーが追加されるNetVaultクライアントの名前を指定します。 ファイラーをローカル・マシンに追加する場合、このオプションは省略できます。サーバー・マシン名とクライアント・マシン名が同じであっても、-servernameオプションを指定した場合は、-clientnameオプションも指定する必要があります。
-pluginname	プラグイン名を指定します。「NDMP Client」または「NDMP SnapMirror to Tape」のどちらかを指定できます。デフォルト値は「NDMP Client」です。
-filename	ファイラー名を指定します。 ファイラー名は一意である必要があります。NetVault環境内でファイラーを簡単に識別できるように、ファイラーの実際の名前を割り当てることができます。ファイラー名は一度設定すると、その後変更できません。
-address	ファイラーのIP4アドレスまたはFQDNを指定します。
-port	ファイラーの待機ポートを指定します。デフォルト値は、10000です。 特に必要のない限り、ファイラーの待機ポートは変更しないでください。
-account	ファイラーへのログオンに使用するユーザー・アカウント名を指定します。ユーザー・アカウントには、NDMPのバックアップおよびリストアを実行する権限が付与されている必要があります。

表12. nvaddfiler

オプション	説明
-password	ユーザー・アカウントのパスワードを指定します。
-description	ファイラーのタイプを選択する必要がある場合に、NDMPファイラーの説明を指定します。この説明は、 ndmpversions.cfg ファイルの対応するエントリと一致している必要があります。
-utf8	UTF-8変換が必要かどうかを指定します。 このオプションのデフォルト値は「FASLSE」です。設定したロケールでNetVault WebUIにディレクトリおよびファイル名を正しく表示する必要がある場合は、このオプションを「TRUE」に設定します。このオプションは、ファイルがUTF-8エンコードをサポートしている場合に限り使用できます。この機能を使用するには、次の手順を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ファイラーでUTF-8変換が有効化されていること。 各対象ボリュームで適切な言語タイプが設定されていること。 Plug-in for NDMPの[UTF-8変換のコードページ]オプションを設定します。このオプションについての詳細は、『Quest NetVault Plug-in for NDMPユーザーズ・ガイド』を参照してください。

例

- ファイラー「f740」をローカルのNetVaultマシンに追加します。

```
nvaddfiler -filename f740 -address 10.11.22.53 -account root -password mypassword
```
- ファイラー「f740」をローカルのNetVaultサーバーによって管理されているクライアント「Client-A」に追加します。

```
nvaddfiler -clientname Client-A -filename f740 -address 10.11.22.53 -account root -password mypassword
```
- ファイラー「f740」をリモートのサーバー Win-Server に追加します。

```
nvaddfiler -servername Win-Server -clientname Win-Server -filename f740 -address 10.11.22.53 -account root -password mypassword
```

nvcheckdrive

説明

ドライブのステータスをチェックします。たとえば、何らかの理由でオフラインになったドライブのステータスをチェックするといった目的に使用できます。このコマンドが正常に完了すると、指定したドライブがオンライン状態に戻り、NetVault で以降のジョブに使用できるようになります。

構文

```
nvcheckdrive -servername <Server Name> [-drivename <Drive Name>] [-libraryname <Library Name>] [-drivenumber <Drive Number>]
```

オプション

表13. nvcheckdrive

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。 ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。 サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-libraryname	ターゲット・ライブラリの名前を指定します。
-drivename	チェックするターゲット・ドライブの名前を指定します。
-drivenumber	チェックするターゲット・ドライブのドライブ番号を指定します。

注意

- ターゲット・ドライブを指定する場合は、**-drivename** または **-drivenumber** オプションを**-libraryname** オプションと組み合わせて使用する必要があります。

例

- サーバーにローカルに接続されているスタンドアロン・ドライブ「D-1」のステータスをチェックします。

```
nvcheckdrive -drivename D-1
```

- クライアント「NVCLIENT1」にローカルに接続されているライブラリ「NVLibrary」のドライブ「Drive2」のステータスをチェックします。

```
nvcheckdrive -servername NVCLIENT1 -libraryname NVLibrary -drivename Drive2
```

- リモート・サーバー「NVSERVER2」にローカルに接続されているライブラリ「NVLib2」のドライブ2のステータスをチェックします。

```
nvcheckdrive -servername NVSERVER2 -libraryname NVLib2 -drivenumber 2
```

nvcleandrive

説明

ライブラリ・ドライブをクリーニングします。クリーニング用テープの使用残回数が設定されている場合は、このコマンドで使用されることにより、同回数が1だけ減らされます。

構文

```
nvcleandrive -libraryname <Library Name> -librarydrivenumber <Drive Number>
```

オプション

表14. nvcleandrive

オプション	説明
-libraryname	ターゲット・ライブラリの名前を指定します。
-drivenumber	クリーニングするターゲット・ドライブのドライブ番号を指定します。

例

- 事前定義のクリーニング用メディアを使用して、ライブラリ「SONY LIB-162」のドライブ 1 をクリーニングします。

```
nvcleandrive -libraryname "SONY LIB-162" librarydrivenumber 1
```

nvclosedoor

説明

指定したライブラリのドアを閉じます。

構文

```
nvclosedoor [-servername <Server Name>] -libraryname <Library Name>
```

オプション

表15. nvclosedoor

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。 ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。 サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-libraryname	ターゲット・ライブラリの名前を指定します。

nvcloseeport

説明

指定したライブラリの入口 / 出口 (EEPport) ポートを閉じます。

構文

```
nvcloseeport [-servername <Server Name>] -libraryname <Library Name>  
[-mediatype <Media Type>]
```

オプション

表16. nvcloseeport

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。 ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。 サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-libraryname	ターゲット・ライブラリの名前を指定します。
-mediatype	入口/出口スロットにあるメディアのタイプを指定します。

nvcloseeportcleaning

説明

クリーニング・テープをインポートするために、指定したライブラリの EE ポートを閉じます。

構文

```
nvcloseeportcleaning [-servername <Server Name>] -libraryname <Library Name> [-mediatype <Media Type>]
```

オプション

表17. nvcloseeportcleaning

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。 ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。 サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-libraryname	ターゲット・ライブラリの名前を指定します。
-mediatype	入口/出口スロットにあるメディアのタイプを指定します。

nvdav

説明

Quest NetVault SmartDisk インスタンスの以下の WebDAV 関連機能を実行します。

- WebDAV 認証の詳細を設定します。
- WebDAV 認証の詳細を削除します。
- WebDAV 認証を使用するよう設定されたユーザー名を取得します。

構文

```
nvdav --server <IP address|hostname> [--set|--remove|--user]
```

オプション

表18. nvdav

オプション	説明
--server	Quest NetVault SmartDiskインスタンスのIPアドレスまたは解決可能なホスト名を指定します。
--set	指定したQuest NetVault SmartDiskインスタンスのWebDAV認証情報を設定します。このオプションを指定すると、既存の値が上書きされます。ユーザー名とパスワードは対話形式で要求されます。
--remove	指定したQuest NetVault SmartDiskインスタンスの既存のWebDAV認証情報を削除します。
--user	指定したQuest NetVault SmartDiskインスタンスのWebDAV認証を使用するように設定されたユーザー名を取得します。指定したインスタンスにWebDAV認証情報が設定されていない場合、エラー・メッセージが表示されます。

nvrda

説明

Quest DR Series システムを追加または削除します。

構文

```
nvrda --add --host <Host name or IP Address> [--force]
[--server <NetVault Server Name>] --user <username> --password <password>
--lsu <Container name> [--blocksize <blocksize>]
--storage-group <storage group name>
[--stream-limit <stream limit count>]

--update --device <name> --user <name> --password <password>
[--blocksize <blocksize>] [--server <name>]
[--stream-limit <stream limit count>]

nvrda --remove --device <name> [--force] [--server <name>]
```

オプション

表19. nvrda

オプション	説明
--add	<p>Quest DR Seriesシステムを追加します。--addオプションは、以下のオプションと組み合わせて使用します。</p> <ul style="list-style-type: none">• --host: Quest DR SeriesシステムのDNS名またはIPアドレスを指定します。NetVaultサーバーがホスト名を解決できない場合、デバイスは追加されません。• --force: デバイスが同名の別のNetVaultサーバーにすでに追加されている場合でも、Quest DR Seriesシステムを追加します。 このオプションは、障害復旧でNetVaultサーバーの再構築を行っている場合に役立ちます。• --server: Quest DR Seriesシステムを追加するNetVaultサーバーの名前を指定します。 このコマンドをサーバー上で実行する場合、このオプションは必要ありません。• --user: デバイスへのログオンに使用するユーザー・アカウントを指定します。Quest DR Seriesシステムでは、ユーザー・アカウントは1つしか存在せず、そのアカウントのユーザーIDはbackup_userです。• -password: ユーザー・アカウントのパスワードを指定します。• --lsu: ストレージ・コンテナ名を入力します。 デバイスを追加する前に、コンテナが作成されていることを確認してください。指定したコンテナがデバイス上に存在しない場合、デバイスは追加されません。NetVaultに追加された各Quest DRシリーズ・システムがストレージ・コンテナになります。• --storage-group: コンテナが存在するストレージ・グループ名を指定します。これは追加操作の必須オプションです。 新しいコンテナを追加する際に、それがDRの最初のコンテナであれば、DRはNetVaultにも接続されます。• --blocksize: データ転送のブロック・サイズを入力します。ブロック・サイズはバイト数で指定します。このオプションのデフォルト値は「512KiB」です。• --stream-limit: このオプションのデフォルト値は、256ストリームです。この設定は、コンテナの追加先となるすべてのNetVaultサーバーに適用されます。データ・ストリーム数がコンテナに対して定義されている制限値を超えた場合、メディア・マネージャはエラー「デバイス上のストリームがあまりにも多過ぎます」を報告します。 ソフト・ストリーム制限には、1~512の任意の値を設定することができます。 複数のNetVaultサーバーにコンテナを追加した場合は、すべてのサーバーに同じソフト・ストリーム制限を設定します。

表19. nvrda

オプション	説明
--update	<p>既存のQuest DR Seriesシステムの設定を変更します。--updateオプションは、以下のオプションと組み合わせて使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • --device: デバイス名を指定します。 • --user: デバイスへのログオンに使用するユーザー・アカウントを指定します。 Quest DR Seriesシステムでは、ユーザー・アカウントは1つしか存在せず、そのアカウントのユーザーIDはbackup_userです。このアカウントに対して実行できる操作はパスワードの変更のみです。アカウントの作成や既存のアカウントの削除はできません。 • --password: ユーザー・アカウントのパスワードを指定します。 • --blocksize: データ転送のブロック・サイズを入力します。ブロック・サイズはバイト数で指定します。このオプションのデフォルト値は「512KiB」です。 • --server: Quest DR Seriesシステムを追加するNetVaultサーバーの名前を指定します。 このコマンドをサーバー上で実行する場合、このオプションは必要ありません。 • --stream-limit: このオプションのデフォルト値は、256ストリームです。この設定は、コンテナの追加先となるすべてのNetVaultサーバーに適用されます。データ・ストリーム数がコンテナに対して定義されている制限値を超えた場合、メディア・マネージャはエラー「デバイス上のストリームがあまりにも多過ぎます」を報告します。 ソフト・ストリーム制限には、1～512の任意の値を設定することができます。 複数のNetVaultサーバーにコンテナを追加した場合は、すべてのサーバーに同じソフト・ストリーム制限を設定します。
--remove	<p>Quest DR Seriesシステムを削除します。--removeオプションは、以下のオプションと組み合わせて使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • --device: NetVault WebUI、CLI、およびレポートに表示されるQuest DR Seriesシステムの名前を指定します。 • --force: デバイスにアクセスできないか、その他のエラーが原因で削除操作がブロックされる場合でも、Quest DR Seriesシステムを削除します。 • --server: Quest DR Seriesシステムを削除するNetVaultサーバーの名前を指定します。

nvddboost

説明

EMC Data Domain システムを追加または削除します。

構文

```
nvddboost --add --host <Host name or IP Address> [--force] [--user <username>]
[--password <password>] [--lsu <LSU name>] [--blocksize <Block size>]
[--server <Server Name>]
```

```
nvddboost --remove --device <name> [--force] [--server <name>]
```

オプション

表20. nvddboost

オプション	説明
--add	<p>Data Domainシステムを追加します。-addオプションは、以下のオプションと組み合わせて使用します。</p> <ul style="list-style-type: none">• --host: Data DomainシステムのDNS名またはIPアドレスを指定します。NetVaultサーバーがホスト名を解決できない場合、デバイスは追加されません。• --force: デバイスが同名の別のNetVaultサーバーにすでに追加されている場合でも、Data Domainシステムを追加します。 このオプションは、障害復旧でNetVaultサーバーの再構築を行っている場合に役立ちます。• --user: バックアップおよびリストア目的でデバイスにログオンするために使用する、DD Boostユーザー・アカウントを指定します。 デバイスをサーバーに追加する前に、Data Domainシステム上にユーザー・アカウントが作成されていることを確認します。• -password: ユーザー・アカウントのパスワードを指定します。• --isu: Data Domainシステムのコンテナの名前を指定します。指定したコンテナがData Domainシステム上に存在しない場合、サーバーにデバイスを追加するときにNetVaultによって自動的に作成されます。1つのData Domainシステム上に複数のコンテナを構成できます。 NetVaultに追加された各Data Domainシステムが、コンテナを表しています。 このオプションのデフォルト値は「NV」です。• --blocksize: データ転送のブロック・サイズを入力します。ブロック・サイズはバイト数で指定します。このオプションのデフォルト値は「131,072」です。• --server: Data Domainシステムを追加するNetVaultサーバーの名前を指定します。このコマンドをサーバー上で実行する場合、このオプションは必要ありません。
--remove	<p>Data Domainシステムを削除します。-removeオプションは、以下のオプションと組み合わせて使用します。</p> <ul style="list-style-type: none">• --device: NetVault WebUI、CLI、およびレポートに表示されるData Domainシステムの名前を指定します。• --force: デバイスにアクセスできないか、その他のエラーが原因で削除操作がブロックされる場合でも、Data Domainシステムを削除します。

注意

- Data Domain システムを追加すると、NetVault によって、デバイス上に複数のメタデータ・ファイルが作成されます。Data Domain システムを追加した各 NetVault サーバーは、それぞれ独自のメタデータ・ファイル・セットを作成します。NetVault では、**stats.stnz** ファイルにデータ転送統計情報も出力します。このファイルは **nvstatsmgr** プロセスによって使用されるため、定期的に更新されるようにしておく必要があります。ただし、あまり頻繁に更新すると、システムのパフォーマンスが大幅に低下する可能性があります。デフォルトでは、NetVault は 5 秒ごと、または 10 ブロックのデータが転送されるたびにファイルを更新します。デフォルトの設定を変更する方法については、『*Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド*』を参照してください。

nvdevice

説明

以下のタスクを実行します。

- ドライブをチェックする
- ドライブをクリーニングする
- メディアをエジェクトする
- ドライブをオンラインにする
- ドライブをオフラインにする

構文

```
nvdevice [-status] [-library <Library Name>] -drive <Drive Name>]
```

```
nvdevice [-status] [-check] [-clean] [-eject] [-online] [-offline]  
[-library <Library Name>] -drive <Drive Name>
```

```
nvdevice -version
```

オプション

表21. nvdevice

オプション	説明
-status	指定したドライブのステータスを表示します。ターゲット・ドライブを指定するには、 -library オプションと -drive オプションを使用します。 ライブラリとドライブを指定しない場合は、マシンに接続されたすべてのデバイスのステータスが表示されます。
-check	指定したドライブのステータスをチェックします。たとえば、何らかの理由でオフラインになったドライブのステータスをチェックするといった目的に使用できます。このコマンドが正常に完了すると、指定したドライブがオンライン状態に戻り、NetVaultで以降のジョブに使用できるようになります。ターゲット・ドライブを指定するには、 -library オプションと -drive オプションを使用します。
-clean	指定したドライブのクリーニング要求を送信します。クリーニング用テープの使用残回数設定されている場合は、このコマンドで使用されることにより、同回数が1だけ減らされます。ターゲット・ドライブを指定するには、 -library オプションと -drive オプションを使用します。
-eject	指定したドライブからメディアをエジェクトします。ターゲット・ドライブを指定するには、 -library オプションと -drive オプションを使用します。
-online	ドライブをオンラインに戻します。ターゲット・ドライブを指定するには、 -library オプションと -drive オプションを使用します。
-offline	ドライブをオフラインにします。ターゲット・ドライブを指定するには、 -library オプションと -drive オプションを使用します。
-library	ターゲット・ライブラリの名前を指定します。
-drive	ターゲット・ドライブのドライブ名を指定します。
-version	CLIツールのバージョン番号を表示します。

ドライブがスタンドアロン・ドライブでない限り、ドライブで **-offline**、**-online**、および **-check** 操作の実行中に、ターゲット・ドライブを指定するには、**-library** オプションおよび **-drive** オプションを使用します。

注意

- テープ・ライブラリ/VTLの場合、`nvdevice -online`、`-offline`、および `-check` パラメータにはライブラリ名が必須となります。

nvdeviceeject

説明

指定したドライブからメディアをエジェクトします。

構文

```
nvdeviceeject -devicename <Device Name> [-servername <Server Name>]  
[-librarydrivenumber <Drive Number>] [-wait]
```

オプション

表22. nvdeviceeject

オプション	説明
-devicename	ターゲット・デバイスまたはライブラリの名前を指定します。
-servername	デバイスが追加されるNetVaultサーバーの名前を指定します。 サーバー上でこのコマンドを実行する場合、このオプションは省略できます。 サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-librarydrivenumber	ライブラリ内のターゲット・ドライブのドライブ番号
-wait	タスクが完了するまで待機します。

注意

- ターゲット・ドライブを指定する場合は、`-librarydrivenumber` オプションを `-devicename` オプションと組み合わせて使用する必要があります。
- デバイス名を確認するには、バックアップ・ジョブのログを調べてください。

nvlibrarymodify

説明

このユーティリティを使用すると、以下のタスクを実行できます。

- ドライブのステータスをオンラインまたはオフラインに変更する
- ライブラリを削除する
- ドライブをマップまたはマップ解除する
- すべてのライブラリ・ドライブを一覧表示する
- ドライブまたは共有ドライブを追加する

構文

```
nvlibrarymodify [-servername <server_name>] -libraryname <library_name>
[-online "DRIVE <drive_number>"] [-offline "DRIVE <drive_number>"]
[-remove "DRIVE <drive_number>"]
[-map "DRIVE <drive_number> <lsm>,<panel>,<drive>" [-name "<Drive_Name>"] ]
[-unmap "DRIVE <drive_number>" ] [-list]
```

```
nvlibrarymodify [-servername <server_name>] -libraryname <library_name>
[-librarymachine <library_machine>] [-drivemachine <drive_machine>]
-drivepath <drive_path> -add "DRIVE <drive_number>"
-addshared "DRIVE <drive_number>"
```

オプション

ドライブ・ステータスの変更、ドライブのマッピングまたはマッピング解除、ライブラリ・ドライブの表示、およびライブラリの削除を実行するには、以下のオプションを使用します。

表23. nvlibrarymodify — 1

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-libraryname	変更するライブラリの名前を指定します。ライブラリ名は必須です。
-online	ドライブをオンラインに戻します。ターゲット・ドライブを指定するには、「DRIVE <drive_number>」オプションを使用します。
-offline	ドライブをオフラインにします。ターゲット・ドライブを指定するには、「DRIVE <drive_number>」オプションを使用します。
-remove	ドライブを削除します。ターゲット・ドライブを指定するには、「DRIVE <drive_number>」オプションを使用します。
-map	ドライブを適切なLSM、パネル、およびドライブにマッピングします。ターゲット・ドライブを指定するには、「DRIVE <drive_number>」オプションを使用します。-nameオプションを使用して、ドライブ名を指定することもできます。 例: -name "ACSLDrive-1"
-unmap	ドライブをマッピング解除します。ターゲット・ドライブを指定するには、「DRIVE <drive_number>」オプションを使用します。
-list	指定したライブラリのすべてのドライブを表示します。

既存のライブラリ構成にドライブまたは共有ドライブを追加するには、次のオプションを使用します。

表24. nvlibrarymodify — 2

オプション	説明
-servername	ターゲット・サーバーの名前を指定します。
-libraryname	変更するライブラリの名前を指定します。
-librarymachine	ライブラリが存在するNetVaultサーバーまたはクライアントの名前を指定します。サーバーに限らず、任意のNetVaultマシンを指定できます。ACSLDriveが3番目のマシンに接続されたNetVaultクライアントを指定することもできます。

表24. nvlibrarymodify — 2

オプション	説明
-drivemachine	ドライブが存在するNetVaultサーバーまたはクライアントの名前を指定します。ACSL環境では、ドライブはクライアント上に配置できます。NetVaultサーバーもクライアントも、ACSLライブラリを管理することはありません。
-drivepath	追加するドライブの名前またはパスを指定します。ドライブのパスには、ドライブ・タイプに応じて、VTLディレクトリまたはSCSIターゲットを指定できます。 nvscandives ユーティリティを使用して、ローカルまたはリモートのNetVaultクライアント上で使用可能なドライブの一覧を取得できます。このコマンドの出力には、NetVault WebUIに表示されるとおりのドライブのパスが含まれます。詳細は、「 nvscandives 」を参照してください。
-add	ドライブを追加します。ターゲット・ドライブを指定するには、「 DRIVE <drive_number> 」オプションを使用します。
-addshared	共有ドライブを追加します。ターゲット・ドライブを指定するには、「 DRIVE <drive_number> 」オプションを使用します。

注意

- **nvlibrarymodify** ユーティリティを使用してドライブを追加すると、ライブラリ設定が次のように変更されます。
 - 1つ以上のジョブが実行されている場合、ドライブは既存のライブラリ設定の末尾に追加され、実行中のジョブが影響を受けることはありません。
 - ジョブが実行されていない場合、既存のライブラリ設定は削除され、ライブラリが再追加されます。
- このユーティリティを使用して、ライブラリ内の既存のドライブを変更することはできません。このユーティリティで実行できるのは、既存のライブラリ設定にドライブを追加することだけです。
- オプション "-servername"、"librarymachine" および "drivemachine" を省略すると、デフォルトでは、ターゲット・サーバーのデフォルトとしてローカル・マシンが使用されます。

例

- Linux ベースの NetVault サーバー「tstserver」上の /home/qauser1/ ディレクトリにある「NewLibrary」という名前の VTL にドライブを追加します。


```
nvlibrarymodify -servername tstserver -libraryname "/home/qauser1/NewLibrary"
-librarymachine tstserver -drivemachine tstserver
-drivepath "/home/qauser1/NewLibrary/drives/2" -add "DRIVE 2"
```
- Windows ベースの NetVault Backup サーバー「winserver」に接続された SCSI ライブラリ「winserver: Windows ベースの NetVault サーバー「winserver」に接続された SCSI ライブラリ「winserver:2-0.4.0 (SONY LIB-304)」にドライブを追加します。


```
nvlibrarymodify -servername winserver -libraryname "2-0.4.0 (SONY LIB-304)"
-librarymachine winserver -drivemachine winserver
-drivepath "2-0.2.0 (SONY SDX-500C)" -add "DRIVE 2"
```
- NDMP ファイラー接続デバイスにドライブを追加します。デバイス名は「Device f880:mc9(OVERLAND LXB)」で、NetVault サーバー名は tstserver です。


```
nvlibrarymodify -servername tstserver
-libraryname "Device f880:mc9(OVERLAND LXB)" -librarymachine tstserver
-librarymachine tstserver -drivemachine winserver
-drivepath "Tape f880:nrst17a(HP Ultrium 3-SCSI)"
-add "DRIVE 2"
```


- Windows ベースの NetVault クライアント「winclient」に SCSI ドライブを追加します。ACSL5 ライブラリは、Linux ベースの NetVault サーバー「tstserver」に接続されています。

```
nvlibrarymodify -servername tstserver
-libraryname "ACS0(StorageTek ACSLS/LibStation)"
-librarymachine tstserver -drivemachine winclient
-drivepath "2-0.2.0 (SONY SDX-500C)" -add "DRIVE 2"
```

- Windows ベースの NetVault クライアント「winclient」に SCSI ドライブを追加します。ACSL5 ライブラリは、Windows ベースの NetVault クライアント「client2」に接続されており、NetVault サーバー「tstserver」によって管理されています。

```
nvlibrarymodify -servername tstserver
-libraryname "ACS0(StorageTek ACSLS/LibStation)"
-librarymachine client2 -drivemachine winclient
-drivepath "2-0.2.0 (SONY SDX-500C)" -add "DRIVE 2"
```

nvopendoor

説明

指定したライブラリのドアを開きます。

構文

```
nvopendoor [-servername <server name>] -libraryname <library name>
```

オプション

表25. nvopendoor

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。 ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。 サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-libraryname	ターゲット・ライブラリの名前を指定します。

nvopeneport

説明

入口 / 出口 (EEP) ポートを開きます。

構文

```
nvopeneport [-servername <server name>] -libraryname <library name>
```

オプション

表26. nvopeneeport

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。 ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。 サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-libraryname	ターゲット・ライブラリの名前を指定します。

nvremovefiler

説明

指定したファイラーのファイラー接続ドライブを削除します。

構文

```
nvremovefiler [-servername <server name >] -filename <filer name> [-wait]
```

オプション

表27. nvremovefiler

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。 ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。 サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-filename	ターゲット・ファイラーの名前を指定します。
-wait	タスクが完了するまで待機します。

注意

- このコマンドは、アイドル状態またはオフライン状態のドライブのみ削除します。ドライブを削除すると、「Device removed DRIVE <#>:<Drive Name>」というメッセージが画面および WebUI の [\[ログ参照\]](#) ページに表示されます。
- ファイラー接続ドライブの削除は 1 回のみ試行されます。ターゲット・ドライブがビジーの場合は、「Failed to delete busy device DRIVE <#>:<ドライブ名>」というメッセージが画面に表示され、次のドライブから処理が続行されます。
- ライブラリ内のすべてのドライブが削除されると、ライブラリ・アームを表すノードも削除されます。

nvresetdrivestats

説明

ドライブの統計情報をリセットします。

構文

```
nvresetdrivestats -servername <server name> [-libraryname <library name>]  
[-drivename <drivename>] [-drivenumber <drivenumber>] -action <action>
```

オプション

表28. nvresetdrivestats

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。 ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。 サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-libraryname	ターゲット・ライブラリの名前を指定します。
-drivename	ターゲット・ドライブの名前を指定します。
-drivenumber	ターゲット・ドライブのドライブ番号を指定します。
-action	実行するアクションを指定します。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none">• drive:ドライブの統計情報のみリセットします。• clean:ドライブのクリーニング統計情報のみリセットします。• all:指定したドライブのすべての統計情報をリセットします。

注意

- ターゲット・ドライブを指定する場合は、**-drivename** または **-drivenumber** オプションを **-libraryname** オプションと組み合わせて使用する必要があります。

例

- NetVault サーバーにローカルに接続されているスタンドアロン・ドライブ「TstDrive1」の統計情報をリセットします。

```
nvresetdrivestats -drivename TstDrive1 -action drive
```
- NetVault クライアント「NVCLIENT1」にローカルに接続されているライブラリ「NVLibrary」のドライブ「Drive 1」のクリーニング統計情報をリセットします。

```
nvresetdrivestats -servername NVCLIENT1 -libraryname NVLibrary  
-drivename "Drive 1" -action clean
```
- リモートの NetVault サーバー「NVSERVER2」に接続されているライブラリ「NVLib2」のドライブ「Drive 2」のすべての統計情報をリセットします。

```
nvresetdrivestats -servername NVSERVER2 -libraryname NVLib2 -drivenumber 2  
-action all
```

nvscandrives

説明

ローカルまたはリモートの NetVault サーバー / クライアントで使用可能なドライブを表示します。共有デバイスとして追加されているドライブは出力に含まれません。

このコマンドの出力には、NetVault WebUI に表示されるとおりのドライブのパスが含まれます。この出力は、**nvlibrarymodify** ユーティリティを使用して既存のライブラリ構成にドライブを追加するときに使用できます。このユーティリティの詳細については、「**nvlibrarymodify**」を参照してください。

構文

```
nvscandrives [-servername <server name>] [-clientname <client name>]  
[-filename <filer name>]
```

オプション

表29. nvscandrives

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-clientname	このオプションは、NetVaultクライアントに接続されているドライブを表示するときに使用します。クライアント名を指定しないと、サーバー上の使用可能なドライブが表示されます。
-filename	このオプションは、NDMPファイラーに接続されているドライブを表示するときに使用します。

nvsetcleaninglives

説明

指定したライブラリ内のクリーニング用テープの使用残回数を設定します。

nvsetcleaninglives コマンドを実行する前に、使用するスロットがクリーニング・スロットとして設定されていること、およびクリーニング用テープがスロットに設置されていることを確認します。クリーニング・スロットの設定についての詳細は、『*Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド*』を参照してください。

構文

```
nvsetcleaninglives [-servername <server name>] -libraryname <library name>  
[-slotnumber <slot number>] [-lives <lives>]
```

オプション

表30. nvsetcleaninglives

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。 ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。 サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-libraryname	ターゲット・ライブラリの名前を指定します。
-slotnumber	ライブラリ内のクリーニング用スロット番号を指定します。
-lives	クリーニング用テープの使用残回数を設定します。

例

- NVSERVER にローカル接続されているライブラリ「ADIC_Library_6」のスロット 6 に装着されているクリーニング用メディアの使用残回数を 7 に設定します。

```
nvsetcleaninglives -server NVSERVER -libraryname ADIC_Library_6 -slotnumber 6  
-lives 7
```

nvsetdrivecleaning

説明

指定したライブラリのクリーニング・サイクルを設定します。

構文

```
nvsetdrivecleaning -libraryname <library name> -librarydrivenumber <drive number>  
-days <number of days> -dataxfersize <data transfer size> -hours <number of hours>  
-rwwerrors <number of read/write errors> [-displayonly [-selectionstate]]
```

オプション

表31. nvsetdrivecleaning

オプション	説明
-libraryname	ターゲット・ライブラリの名前を指定します。
-librarydrivenumber	クリーニング・サイクルを設定する必要があるドライブのドライブ番号を指定します。
-days	1回のクリーニング・サイクル間のドライブの最大使用可能日数を指定します。
-dataxfersize	1回のクリーニング・サイクル間に転送可能な最大データ量を指定します。
-hours	1回のクリーニング・サイクル間のドライブの最大使用可能時間を指定します。
-rwwerrors	1回のクリーニング・サイクル間に発生することが許される読み取り/書き込みエラーの最大数を指定します。

表31. nvsetdrivecleaning

オプション	説明
-displayonly	<p>指定したドライブの現在の設定を表示します。</p> <p>-selectionstate オプションを指定しないと、-displayonly オプションを指定しても、設定の現在の使用状況は表示されません。</p> <p>例:</p> <pre>nvsetdrivecleaning -libraryname "LIB1" -librarydrivenumber 2 -displayonly</pre> <p>出力:</p> <pre>Days = 22 Data Transferred (Gb) = 22 Hours of Use = 40 Soft Read/Write Errors (x100) = 1</pre>
-selectionstate	<p>オプションの選択状態(つまり、オプションがWebUIで選択されているかどうか)に応じて、TRUEまたはFALSE)を表示します。このオプションは、-displayonly オプションとともに使用する必要があります。</p> <p>例:</p> <pre>nvsetdrivecleaning -libraryname "LIB1" -librarydrivenumber 2 -displayonly -selectionstate</pre> <p>出力:</p> <pre>TRUE Days = 22 FALSE Data Transferred (Gb) = 22 TRUE Hours of Use = 40 FALSE Soft Read/Write Errors (x100) = 1</pre>

注意

- オプションを無効にするには「-1」を指定します。

例

- ライブラリ "SONY LIB-162" のドライブ 1 を、データ転送量 200GB、ドライブの使用時間 100 時間、または読み取り / 書き込みエラーの発生回数 100,000 回以上の間隔でクリーニングするよう設定します。

```
nvsetdrivecleaning -libraryname "SONY LIB-162" -librarydrivenumber 1 -days -1
-dataxfersize 200 -hours 100 -rwwerrors 100000
```

nvsmartdisk

説明

以下の機能を実行します。

- NetVault サーバーに Quest NetVault SmartDisk を追加します。
- Quest NetVault SmartDisk を削除します。
- NetVault サーバーに追加されている Quest NetVault SmartDisk インスタンスのマシン名を一覧表示します。

構文

```
nvsmartdisk --add --host <Host name or IP Address> [--force] [--port <Port Number>] [--server <Server Name>]
```

```
nvsmartdisk --remove --device <name> [--force] [--server <name>]
```

```
nvsmartdisk --list
```

オプション

表32. nvsmartdisk

オプション	説明
--add	Quest NetVault SmartDiskを追加します。 --add オプションは、以下のオプションと組み合わせて使用します。 <ul style="list-style-type: none">• --host: Quest NetVault SmartDiskがインストールされているホストのDNS名またはIPアドレスを指定します。このオプションは、NetVaultサーバー上にデバイスを配備する場合でも設定する必要があります。NetVaultサーバーがホスト名を解決できない場合、デバイスは追加されません。• --force: デバイスが同名の別のNetVaultサーバーにすでに追加されている場合でも、Quest NetVault SmartDiskを追加します。このオプションは、障害復旧でNetVaultサーバーの再構築を行っている場合に役立ちます。• --port: Quest NetVault SmartDiskインスタンスとの通信用ポートを指定します。このオプションは、デバイスがデフォルト以外のポートを使用するように設定されている場合のみ指定します。• --server: デバイスを追加するNetVaultサーバーの名前を指定します。このコマンドをサーバー上で実行する場合、このオプションは必要ありません。
--remove	Quest NetVault SmartDiskを削除します。 --remove オプションは、以下のオプションと組み合わせて使用します。 <ul style="list-style-type: none">• --device: NetVault WebUI、CLI、およびレポートに表示されるQuest NetVault SmartDiskの名前を指定します。• --force: デバイスにアクセスできないか、その他のエラーが原因で削除操作がブロックされる場合でも、Quest NetVault SmartDiskを削除します。
--list	NetVaultサーバーに追加されているすべてのQuest NetVault SmartDiskインスタンスのマシン名を一覧表示します。

nvsvtlgrow

説明

以下の機能を実行します。

- 現在のシステム上の特定の SVTL またはすべての SVTL のステータスと使用状況の詳細を表示します。
- 指定したサイズのメディア・アイテムを指定した数だけ使用して、SVTL の拡張をテストします（ダミー拡張）。
- 指定したサイズのメディア・アイテムを指定した数だけ使用して、SVTL を実際に拡張します。

このユーティリティは <NetVault home>\bin ディレクトリにあります。

構文

```
nvsvtlgrow display [-device <SVTL Device>]
nvsvtlgrow test -device <SVTL Device> -size <Media Size> -count <Media Count>
nvsvtlgrow grow -device <SVTL Device> -size <Media Size> -count <Media Count>
```

オプション

表33. nvsvtlgrow

オプション	説明
display	マシン上のすべてのSVTLを表示します。 マシン上の単一のSVTLのステータスを表示するには、以下のコマンドを使用します。 <code>nvsvtlgrow display -device <svtl-device></code>
test	テスト拡張を実行します。 test オプションは、以下のオプションと組み合わせて使用します。 <ul style="list-style-type: none">• -device: ターゲットSVTLの名前を指定します。• -size: メディアのサイズを指定します (例: 800MBの場合は800m、40GBの場合は40g、2TBの場合は2t)。• -count: 追加するメディア・アイテム数を指定します。 これらの値が空き領域と比較され、これらのメディア・アイテムが作成可能かどうかを示すレポートが作成されます。SVTLが実際に変更されることはありません。
grow	SVTL容量を拡張します。 grow オプションは、以下のオプションと組み合わせて使用します。 <ul style="list-style-type: none">• -device: ターゲットSVTLの名前を指定します。• -size: メディアのサイズを指定します (例: 800MBの場合は800m、40GBの場合は40g、2TBの場合は2t)。• -count: 追加するメディア・アイテム数を指定します。 nvsvtlgrow ユーティリティは、オプションをチェックし、ユーザーからの確認応答があり次第、新しいメディア・アイテムを追加して、SVTLサイズを拡張します。追加されたメディアを使用するには、SVTLを再追加するか、NetVaultサービスを再起動します。

メディア固有ユーティリティ

- `nvblankmedia`
- `nvsetmedia`
- `nvbulkblankmedia`
- `nvexportmedia`
- `nvlabelmedia`
- `nvlistblankmedia`
- `nvlistmedia`
- `nvloadmedia`
- `nvmakemedia`
- `nvmediadetails`
- `nvremovemedias`
- `nvreusmedias`
- `nvscanmedia`
- `nvsynchronizesilomedia`
- `nvupdateserialnumber`

重要

- CLI コマンドでメディアを識別するには、バーコード、メディア・ラベル、ライブラリ内でのスロット位置を使用できます。
- メディア・ラベルにスペースが含まれている場合は、二重引用符 ("") で囲みます。
- オペレーティング・システムによっては、メディアのラベルに含まれる特殊文字がサポートされていないことがあります。

: ! @ # \$ % ^ & * () > < \ [] { } " "

このため、これらの文字をラベルに含むメディアを呼び出すために CLI コマンドを発行すると、エラー・メッセージが表示され、コマンドが失敗することがあります。上記の特殊文字を含むメディア・ラベルは、WebUI でしか管理できません。

nvblankmedia

説明

メディアをブランクにします。

構文

```
nvblankmedia [-servername <Server Name>] [-libraryname <Library Name>]
-barcode <Barcode> | -medialabel <Media Label> |
-slotspec <Library Name::Slot Number> [-drivename <Standalone Drive Name>] [-wait]
```

オプション

表34. nvblankmedia

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。 ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。 サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-libraryname	ターゲット・メディア・アイテムを含むライブラリの名前を指定します。
-barcode	ターゲット・メディア・アイテムのバーコードを指定します。

表34. nvblankmedia

オプション	説明
-medialabel	<p>ターゲット・メディア・アイテムのラベルを指定します。</p> <p>このオプションは、メディア・ラベルで検索する場合のみ使用します。メディア・ラベルにスペースが含まれている場合は、二重引用符("")で囲みます。</p> <p>例: "Full DB Backups"</p> <p>メディア・ラベルが、すべての使用可能なデバイス内のメディア中で一意でない場合は、このオプションを、-librarynameまたは-drivenameオプションと組み合わせて使用します。</p>
-slotspec	<p>ターゲット・メディア・アイテムが存在するライブラリの名前とスロット番号を指定します。この2つの値は、二重コロン区切り文字(::)を使用して区切る必要があります。このオプションは、ライブラリ・スロットで検索する場合のみ使用します。</p>
-drivename	<p>ターゲット・メディア・アイテムを含むドライブの名前を指定します。</p> <p>このオプションは、ドライブにすでにターゲット・メディアがロードされている場合は無視されます。間違ったドライブを指定しても、当該メディア・アイテムはブランクになります。</p>
-wait	<p>タスクが完了するまで待機します。</p>

注意

- ブランク処理により、テープから NetVault ヘッダが削除され、メディア・ラベルとグループ関連付けも削除されます。ブランク処理されたテープは、NetVault が以降のバックアップを格納するために使用できるようになります。
- ブランク処理を実行すると、そのテープ上に存在するバックアップ・データは削除または消去されます。テープに格納されているデータを意図的に破棄する場合は、NetVault でそのテープをブランク処理してから、専用のツールを使用してデータを確実に削除します。
- ブランク処理を実行すると、選択したテープ上に保管されているバックアップのインデックスが NetVault データベースから削除されます。
- 指定したライブラリとメディアのペアが間違っていると、次のエラー・メッセージが表示されます。

```
Blank request failed! - 'Unable to identify media'
```

例

- クライアント「NVCLIENT1」にローカルに接続されているライブラリ「NV_Library_Large」のスロット 21 にあるメディアをブランクにします。


```
nvblankmedia -servername NVCLIENT1 -slotspec 21::"NV_Library_Large"
```
- クライアント「NVCLIENT2」に接続されているライブラリ「Lib-2」の「DB-Backup」というラベルの付いたメディアをブランクにします。


```
nvblankmedia -libraryname "NVCLIENT2: Lib-2" -medialabel "DB-Backup"
```

nvsetmedia

説明

メディアを選択または選択解除して、読み取り専用、再使用可能、読み取り / 書き込みの操作を指定します。

i | **メモ** : Nvsetmedia コマンドが受け取るのは、1 度に 1 つの操作のみです。

構文

```
nvsetmedia [-readonly | -readwrite | -usable | -unusable]
[-servername servername] [-libraryname libraryname]
[-drivename drivename]
-barcode | -medialabel | -slotspec
```

オプション

表35. nvsetmedia

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。サーバー名は、大文字と小文字を区別しません。
-libraryname	ターゲット・メディア・アイテムを含むライブラリの名前を指定します。
-drivename	ターゲット・メディア・アイテムを含むドライブの名前を指定します。
-barcode	ターゲット・メディア・アイテムのバーコードを指定します。
-medialabel	ターゲット・メディア・アイテムのラベルを指定します。 このオプションは、メディア・ラベルで検索する場合のみ使用します。メディア・ラベルにスペースが含まれている場合は、二重引用符(“)で囲みます。 例: “Full DB Backups” メディア・ラベルが、すべての使用可能なデバイス内のメディアで一意的でない場合は、このオプションに -libraryname または -drivename を付けて使用します。
-slotspec	ターゲット・メディア・アイテムが存在するライブラリの名前とスロット番号を指定します。 この2つの値は、二重コロン区切り文字(::)を使用して区切る必要があります。このオプションは、ライブラリ・スロットで検索する場合のみ使用します。

注意

Nvsetmedia では、読み取り専用、使用不能、使用可能、読み取り / 書き込みなど各種の操作を実行できます。

- -readonly の操作は、メディア・アイテムに読み取り専用モードのマークを付けるため、書き込み操作では許可されません。ただし、バックアップ・ジョブの復元は可能です。
- -unusable の操作は、メディアが破損しているか使用に適していない場合、メディアに使用不可のマークを付けます。表示することはできますが、操作は行えません（読み取りまたは書き込み）。
- -usable の操作は、メディア・アイテムに使用可能のマークを付けます。メディアの以前の状態は変わりません（readonly または readwrite）。
- -readwrite の操作は、メディア・アイテムに読み取り / 書き込みのマークを付けます。いずれの操作も実行できます。

例

「VM-WIN2012-R2」サーバーにローカルに接続されている「Windows_Library」ライブラリのメディアに readonly のマークと CHK2Y005 のバーコードを付けます。

```
./nvsetmedia -servername "VM-WIN2012-R2" -readonly -barcode "CHK2Y005"
```

NetVault サーバーにローカルに接続されている「TapeLibrary」ライブラリのメディアに readwrite のマークと「Media5」のラベルを付けます。

```
./nvsetmedia -readwrite -medialabel "Media5"
```

NetVault サーバーにローカルに接続されている「VTL」ライブラリのスロット 5 のメディアに usable のマークを付けます。

```
nvsetmedia.exe -usable -slotspec "VTL::5"
```

nvbulkblankmedia

説明

指定したライブラリの 1 つ以上のメディア・アイテムをブランクにします。

構文

```
nvbulkblankmedia -libraryname <Library Name> -medialabel <Media Label>  
[-allmedia] -password <Password> [-wait]
```

オプション

表36. nvbulkblankmedia

オプション	説明
-libraryname	ターゲット・メディア・アイテムを含むライブラリの名前を指定します。
-barcode	ターゲット・メディア・アイテムのバーコードを指定します。
-medialabel	ターゲット・メディア・アイテムのラベルを指定します。 このオプションでは、任意の長さの文字列を表すワイルド・カード文字 "*" を使用できます。メディア・ラベルに "*" 文字が含まれている場合は、バックスラッシュ文字 (\) を使用して "*" をエスケープします。たとえば、「media*star」というラベルの付いたメディア・アイテムを空にするには、-medialabel オプションを次のように指定します。 -medialabel "media*star"
-allmedia	指定したライブラリのすべてのメディア・アイテムをブランクにします。
-password	NetVaultサーバーのパスワードを指定します。 NetVaultサーバーにパスワードが設定されていない場合は、システムのrootまたは管理者パスワードを指定します。
-wait	タスクが完了するまで待機します。

注意

- ブランク処理により、テープから NetVault ヘッダが削除され、メディア・ラベルとグループ関連付けも削除されます。ブランク処理されたテープは、NetVault が以降のバックアップを格納するために使用できるようになります。

- ブランク処理を実行すると、そのテープ上に存在するバックアップ・データは削除または消去されます。テープに格納されているデータを意図的に破棄する場合は、NetVault でそのテープをブランク処理してから、専用のツールを使用してデータを確実に削除します。
- ブランク処理を実行すると、選択したテープ上に保管されているバックアップのインデックスが NetVault データベースから削除されます。
- このコマンドは、セキュリティが無効になっているサーバー上でも使用できます。
- ライブラリ名とメディア・ラベルは、大文字と小文字が区別されます。

例

- ライブラリ「ADICLib_1」にあるすべてのメディアをブランクにして、「Full Backup Group 7」というラベルを使用します。

```
nvbulkblankmedia -libraryname ADICLib_1 -medialabel "Full Backup Group 7"
-password ServerPwd
```

- ライブラリ「ADICLib_1」にあるすべてのメディアをブランクにして、「C2-Backups」で始まるラベルを使用します。

```
nvbulkblankmedia -libraryname ADICLib_1 -medialabel "C2-Backups*"
-password ServerPwd
```

nvexportmedia

説明

テープ・ライブラリから 1 つのメディアをその入口 / 出口ポート (EEPport) にエクスポートします。

構文

```
nvexportmedia -servername <Server Name> -barcode <Barcode> |
-medialabel <Media Label> | -slotspec <Library Name::Slot Number> [-wait]
```

オプション

表37. nvexportmedia

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-barcode	ターゲット・メディア・アイテムのバーコードを指定します。
-medialabel	ターゲット・メディア・アイテムのラベルを指定します。 このオプションは、メディア・ラベルで検索する場合のみ使用します。メディア・ラベルにスペースが含まれている場合は、二重引用符("")で囲みます。 例: "Full DB Backups"

表37. nvexportmedia

オプション	説明
-slotspec	ターゲット・メディア・アイテムが存在するライブラリの名前とスロット番号を指定します。この2つの値は、二重コロン区切り文字 (::) を使用して区切る必要があります。このオプションは、ライブラリ・スロットで検索する場合のみ使用します。
-wait	タスクが完了するまで待機します。

nvlabelmedia

説明

このユーティリティを使用して、新しいメディア・アイテムにラベルを付けたり、既存のメディア・アイテムのラベルを付け直します。

構文

```
nvlabelmedia [-servername <Server Name>] -barcode <Barcode> |
-medialabel <Media Label> | -slotspec <Library Name::Slot Number>
-newlabelname <New Media Label> [-newgroupname <New Media Group Name>]
[-newoffsitelocation <New Offsite Location Name>] [-wait]
```

オプション

表38. nvlabelmedia

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-barcode	ターゲット・メディア・アイテムのバーコードを指定します。
-medialabel	ターゲット・メディア・アイテムのラベルを指定します。 このオプションは、メディア・ラベルで検索する場合のみ使用します。メディア・ラベルにスペースが含まれている場合は、二重引用符 ("") で囲みます。 例: "Full DB Backups"
-slotspec	ターゲット・メディア・アイテムが存在するライブラリの名前とスロット番号を指定します。この2つの値は、二重コロン区切り文字 (::) を使用して区切る必要があります。このオプションは、ライブラリ・スロットで検索する場合のみ使用します。
-newlabelname	選択したメディアの新しいラベルを指定します。新しいメディア・ラベルにスペースが含まれている場合は、スペースの代わりにアンダースコア (_) を使用します。 例: "new_label_1"
-newgroupname	選択したメディアの新しいメディア・グループを指定します。新しいメディア・グループのラベルにスペースが含まれている場合は、スペースの代わりにアンダースコア (_) を使用します。 例: "new_group_1"
-newoffsitelocation	選択したメディアの新しいオフサイトの場所を指定します。
-wait	タスクが完了するまで待機します。

注意

- 既存のバックアップを含むメディア・アイテムのラベルを付け替えるには、まず、**nvblankmedia** コマンドを使用してそのラベルをブランクにするか、**nvreusemedia** コマンドを使用してそのラベルを再利用可能としてマークします。
- メディアのオフサイトの場所は、ラベルをブランクにしたり、再利用可能としてマークしたりすることなく変更できます。このプロパティは、**-newoffsitelocation** オプションを使用して設定または変更しません。

nvlistblankmedia

説明

指定したライブラリでブランクのメディア・アイテムを含むスロットを表示します。

構文

```
nvlistblankmedia -servername <Server Name> -libraryname <Library Name>
```

オプション

表39. nvlistblankmedia

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。 ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。 サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-libraryname	ターゲット・ライブラリの名前を指定します。

nvlistmedia

説明

以下のタグを使用してマークされているメディア・アイテムを一覧表示します。

- Reuse
- 読み取り専用
- 使用不可
- 不良
- 要インポート
- 要リカバリ
- 任意のメディア・グループ・タグ

構文

```
nvlistmedia [-servername <Server Name>] -libraryname <Library Name>  
-readonly | -reusable | -unusable | -needsimport | -needsrecovery | -bad -group
```

オプション

表40. nvlistmedia

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。 ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。 サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-libraryname	ターゲット・ライブラリの名前を指定します。
-readonly	読み取り専用のメディア・アイテムを一覧表示します。
-reusable	再利用可能としてマークされているメディア・アイテムを一覧表示します。
-unusable	「unusable」タグが指定されているメディア・アイテムを一覧表示します。
-bad	「bad」タグが指定されているメディア・アイテムを一覧表示します。
-needsimport	インポートする必要があるメディア・アイテムを一覧表示します。
-needsrecovery	リカバリする必要があるメディア・アイテムを一覧表示します。
-group	メディア・グループに属すメディア・アイテムを一覧表示します。

nvloadmedia

説明

このコマンドを使用して、メディア・ヘッダを読み取るドライブへ特定のメディア・アイテムをロードしたり、CLI やスクリプト内からメディア・アイテムの使用を継続します。 **nvdeviceject** コマンドを使用すると、メディア・アイテムをホーム・スロットに戻すことができます。

構文

```
nvloadmedia [-servername <Server Name>] -barcode <Barcode> |  
-medialabel <Media Label> | -slotspec <Library Name::Slot Number> [-wait]
```

オプション

表41. nvloadmedia

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。 ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。 サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-barcode	ターゲット・メディア・アイテムのバーコードを指定します。

表41. nvloadmedia

オプション	説明
-medialabel	<p>ターゲット・メディア・アイテムのラベルを指定します。</p> <p>このオプションは、メディア・ラベルで検索する場合のみ使用します。メディア・ラベルにスペースが含まれている場合は、二重引用符("")で囲みます。</p> <p>例: "Full DB Backups"</p>
-slotspec	<p>ターゲット・メディア・アイテムが存在するライブラリの名前とスロット番号を指定します。この2つの値は、二重コロン区切り文字(::)を使用して区切る必要があります。このオプションは、ライブラリ・スロットで検索する場合のみ使用します。</p>
-wait	<p>タスクが完了するまで待機します。</p>

nvmakemedia

説明

追加のメディア・ファイルを作成して、仮想テープ・ライブラリ (VTL) の容量を増やします。

VTLには、以下のディレクトリおよびファイルが含まれます。

表42. VTLディレクトリおよびファイル

Windows	LinuxおよびUNIX	説明
...\<vt>	.../<vtl>	VTLルート・ディレクトリ。
...\<vtl>\drives	.../<vtl>/drives	仮想ドライブが格納されているVTLルート・ディレクトリの下にあるディレクトリ。NetVaultでは、このディレクトリ内に各仮想ドライブ用のサブ・ディレクトリが作成されます。
...\<vtl>\media	.../<vtl>/media	仮想メディア・アイテムが格納されているVTLルート・ディレクトリの下にあるディレクトリ。
...\<vtl>\slots	.../<vtl>/slots	仮想スロットが格納されているVTLルート・ディレクトリの下にあるディレクトリ。NetVaultでは、このディレクトリ内に各仮想スロット用のサブ・ディレクトリが作成されます。
...\<vtl>\.serial	.../<vtl>/serial	<p>VTLルート・ディレクトリ内にあるファイル。このファイルには、メディア・バーコードとドライブ番号のリストが含まれます。</p> <p>たとえば、「404HR-2」(ここで、「404HR」はバーコードで、「2」は仮想ドライブ番号)、「404HR-2」(ここで、「404HR」はバーコードで、「2」は仮想ドライブ2)です。</p>
...\<vtl>\drives\<x>\.serial	.../<vtl>/drives/<x>/serial	各ドライブのサブ・ディレクトリにあるファイル。このファイルには、個々のメディア・バーコードおよびドライブ番号が含まれます。

表42. VTLディレクトリおよびファイル

Windows	LinuxおよびUNIX	説明
...\vtl>\slots<x>\.serial	.../<vtl>/slots/<x>/.serial	各スロットのサブ・ディレクトリにあるファイル。このファイルには、個々のメディア・アイテムのバーコードが含まれます (「...\404HR001」など。ここで、「404HR」はバーコードで、「001」は仮想メディア・アイテムです)。
...\vtl>\media<mediafile>	.../<vtl>/media/<mediafile>	実際の仮想メディア(...\vtl1\media\404HR001など)。

メディア・アイテムを追加するには、以下の手順に従います。

- 1 VTL が配置されているマシンで NetVault サービスを停止します。
- 2 **slots** ディレクトリで、既存の最大番号の仮想スロット・ディレクトリより番号が 1 大きいサブ・ディレクトリを作成します。
- 3 仮想スロット・ディレクトリの 1 つから、上記の手順で作成された仮想スロット・ディレクトリに、**.media** ファイルをコピーします。
- 4 新規に作成した仮想スロット・ディレクトリにある **.media** ファイルを、“**1Y2NY00***” から “**1Y2NY00X**” (X は新しい仮想メディア番号を表す) に変更します。
- 5 メディア・ファイルを作成するには、**nvmakemedia** コマンドを使用します。
- 6 NetVault サービスを再開します。

構文

```
nvmakemedia <file-size> poplib <library>
```

```
nvmakemedia <file-size> mediafiles <filename>
```

オプション

表43. nvmakemedia

オプション	説明
<file-size> poplib <library>	<p>このコマンド形式では、指定した<library>内のすべてのメディア参照ファイルを確認し、該当するメディア・データ・ファイルが存在しない場合は、そのファイルを作成するかどうかを確認します。メディア・ファイルの作成を確定する場合は、「Y」または「y」を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none">• <file-size>:ファイル・サイズの整数値に続けて、キロバイトの場合は「k」、メガバイトの場合は「m」、ギガバイトの場合は「g」、テラバイトの場合は「t」を指定できます(102400k、50m、4g、2tなど)。使用可能な最小ファイル・サイズは50mです。• <library>:ターゲットVTL名へのフル・パス。 <p>例: nvmakemedia 50M poplib c:\tst-vtl</p>
<file-size> mediafiles <filename>	<p>このコマンド形式では、指定したサイズのメディア・ファイルが作成されます。</p> <ul style="list-style-type: none">• <file-size>:ファイル・サイズの整数値に続けて、KBの場合は「k」、MBの場合は「m」、GBの場合は「g」、TBの場合は「t」を指定できます(102400k、50m、4g、2tなど)。使用可能な最小ファイル・サイズは50mです。• <filename>:新しいメディア・ファイルへのフル・パス。ファイル名は、メディア・アイテムのバーコードとして使用されます。 <p>例: nvmakemedia 50M mediafiles c:\tst-vtl\1Y2NY006</p>

注意

- Windows ペースのシステムでこのユーティリティを使用するには、管理者権限でログインする必要があります。

このユーティリティは、どのドメインにも追加されていないシステム、またはプライマリ・ドメインまたはプライマリ・ドメインとの信頼関係のあるドメインに追加されているシステムでのみ使用できます。

nvmediadetails

説明

メディア・アイテムおよびメディア・グループに関する詳細を表示します。

構文

```
nvmediadetails [-label <Media Label>] [-group <Group Label>] [-all] [-listlabels] [-listgroups] [-version]
```

オプション

表44. nvmediadetails

オプション	説明
-label	ターゲットのメディア・アイテムのメディア・ラベルを指定します。 最初の数文字を指定することで、それに一致するラベルを持つメディア・アイテムを検索できます。
-group	ターゲットのメディア・アイテムのメディア・グループのラベルを指定します。
-all	すべてのメディア・アイテムの詳細を表示します。
-listlabels	メディア・ラベルに割り当てられているすべてのメディア・アイテムの詳細を表示します。このオプションと「-group」オプションを併用すると、特定のメディア・グループのメディアの詳細を表示できます。
-listgroups	使用可能なメディア・グループを一覧表示します。
-version	マシンにインストールされているNetVaultディストリビューションのビルド日付を表示します。

例

- 「MyTape」というラベルのメディアの詳細を表示します。

```
nvmediadetails -label MyTape
```
- メディア・グループ「MyGroup」に属しているすべてのメディア・アイテムの詳細を表示します。

```
nvmediadetails -group MyGroup -all
```

nvremovemedias

説明

メディアに関するすべての情報を NetVault データベースから削除します。

i | **メモ:** このコマンドを発行する前に、ターゲットのメディア・アイテムをオフラインにする必要があります。

構文

```
nvremovemedias [-medialabel <Media Label>] [-displaymedialist] [-version]
```

オプション

表45. nvremovemedias

オプション	説明
-label	ターゲットのメディア・アイテムのメディア・ラベルを指定します。
-displaymedialist	メディア・ラベルのあるメディア・アイテムのリストを表示します。
-version	マシンにインストールされているNetVaultディストリビューションのビルド日付を表示します。

nvreusemedia

説明

メディアを再利用可能にします。

構文

```
nvreusemedia [-servername <Server Name>] -barcode <Barcode> |  
-medialabel <Media Label> | -slotspec <Library Name::Slot Number>
```

オプション

表46. nvreusemedia

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-barcode	ターゲット・メディア・アイテムのバーコードを指定します。
-medialabel	ターゲット・メディア・アイテムのラベルを指定します。 このオプションは、メディア・ラベルで検索する場合のみ使用します。メディア・ラベルにスペースが含まれている場合は、二重引用符("")で囲みます。 例: "Full DB Backups"
-slotspec	ターゲット・メディア・アイテムが存在するライブラリの名前とスロット番号を指定します。この2つの値は、二重コロンの区切り文字(::)を使用して区切る必要があります。このオプションは、ライブラリ・スロットで検索する場合のみ使用します。

注意

- このコマンドは、選択されたメディアでのバックアップのすべてのバックアップ・インデックスをNetVaultから削除します。
- このユーティリティでは、ACSL5/ADIC DAS ライブラリ・システムはサポートされていません。
- このユーティリティでは、Quest NetVault SmartDisk、Quest DR Series システム、Data Domain システムなどのディスク・ベースのストレージ・システムはサポートされていません。

nvscanmedia

説明

メディア・アイテムをスキャンします。

このユーティリティを使用すると、テープに保存されているすべてのバックアップを照会して、特定のNetVaultサーバーのデータベースでインデックス付けされていないバックアップをインポートできます。[スキャン]を使用して、「Foreign」テープをNetVaultデータベースにインポートすることもできます。

バックアップをデータベースにインポートするには、NetVaultサーバーのNetVaultマシン名を、バックアップを実行した元のサーバーと同じにする必要があります。テープのスキャンに要する時間は、インポートするパッ

クアッパ数およびバックアップ・インデックスのサイズによって異なります。スキャン・プロセスでは、テープのデータは読み取られず、バックアップの先頭と末尾の間がスキップされて、バックアップ・セーブセットごとにインデックスが読み取られます。

NetVault がそのアイテムに関する情報を NetVault データベースで検索できないと、テープには「Foreign」というマークが付きます。これは、テープがライブラリ間で交換されたとき、NetVault サーバーから削除されたとき、または異なる NetVault サーバーが管理しているデバイスにロードされたときに発生します。NetVault は、テープがスキャンされ、NetVault データベースにメディア情報がインポートされるまでは、Foreign テープに保管されているデータを処理できません。スキャン・プロセスにより、テープからヘッダー情報が取得され、その情報が NetVault データベースに追加されます。

構文

```
nvscanmedia [-servername <Server Name>]
             -barcode <Barcode> | -medialabel <Media Label> |
             -slotspec <Library Name::Slot Number> | -rasdevice <Device name>
             -scanall | -force -minlifedays <Minimum Life> [-wait]
```

オプション

表47. nvscanmedia

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-scanall	メディア・アイテムのすべてのラベルとドライブをスキャンします。このオプションでは、テープ・ライブラリ/VTLのマシン名は必須です。たとえば、次のようになります。 nvscanmedia.exe -servername HIPUNP57176 -scanall "HIPUNP57176:C:\vtl".
-barcode	ターゲット・メディア・アイテムのバーコードを指定します。
-medialabel	ターゲット・メディア・アイテムのラベルを指定します。 このオプションは、メディア・ラベルで検索する場合のみ使用します。メディア・ラベルにスペースが含まれている場合は、二重引用符(“)で囲みます。 例: "Full DB Backups"
-slotspec	ターゲット・メディア・アイテムが存在するライブラリの名前とスロット番号を指定します。この2つの値は、二重コロン区切り文字(::)を使用して区切る必要があります。このオプションは、ライブラリ・スロットで検索する場合のみ使用します。
-rasdevice	スキャンするディスク・ベースのデバイスの名前を指定します。
-force	NetVaultに強制的に不明なメディア・アイテムのスキャン操作を実行させます。このオプションはディスク・ベース・ストレージ・デバイスでは使用できません。

表47. nvscanmedia

オプション	説明
-minlifedays	<p>NetVaultデータベースにインポートされたバックアップ・データの保存期間を指定します。このオプションは、NetVaultデータベース内で使用可能でないバックアップのみに適用されます。</p> <p>保存期間は日数で指定します。</p> <p>このオプションに設定された値に応じて、インポートされたバックアップのリタイア時間が次のように変更されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> バックアップがすでにリタイアされている場合、そのリタイア時間は指定された保存期間に設定されます。ゼロに指定すると、リタイアされたセーブセットのリタイア時間は1時間に設定されます。 指定された期間の前にリタイアするようにバックアップがスケジュールされている場合、そのリタイア時間は指定された保存期間に設定されます。 指定された期間の後にリタイアするようにバックアップがスケジュールされている場合、そのリタイア時間は変更されません。このようなバックアップの場合、バックアップの保存期間の設定によってリタイア時間が決まります。 <p>メモ: ディスクベースのストレージ・デバイスに保管されているバックアップがリタイアした場合、そのバックアップはデバイスから削除されます。デバイスをスキャンして、削除されたバックアップをインポートすることはできません。</p>
-wait	<p>タスクが完了するまで待機します。</p>

nvsyncronizesilomedia

説明

指定した ACSLS ライブラリに既知のすべてのメディアを割り当てます。

構文

```
nvsyncronizesilomedia [-servername <Server Name>] -libraryname <Library Name>
```

オプション

表48. nvsyncronizesilomedia

オプション	説明
-servername	<p>ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。</p> <p>このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。サーバー名では、大文字と小文字を区別します。</p>
-libraryname	<p>ターゲット・ライブラリの名前を指定します。</p>

nvupdateserialnumber

説明

指定したライブラリ内のドライブのシリアル番号を元の番号に更新します。

構文

```
nvupdateserialnumber [-servername <Server Name>] -libraryname <Library Name>
[-bayname <Bay Name>] [-checkonly]
```

オプション

表49. nvupdateserialnumber

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。 ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。 サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-libraryname	ターゲット・ライブラリの名前を指定します。
-bayname	ターゲット・ドライブが配置されているドライブ・ベイの名前を指定します。
-checkonly	メディアのシリアル番号を確認します。

ジョブ固有ユーティリティ

- nvexpiresaveset
- nvjobabort
- nvjobcreate
- nvjobdelete
- nvjobhold
- nvjoblist
- nvjobmodify
- nvjobresume
- nvjobstart
- nvpolicy
- nvrestore
- nvsetcreate
- nvsetdelete
- nvsetexport
- nvsetimport
- nvsetmodify
- nvtrigger

i | **メモ:** コマンドライン・ユーティリティを使用して仮想クライアントのジョブまたはセットを作成することはできません。

i | **重要:** このセクションで説明する複数のユーティリティは、**nvsetmodify.cfg**という名前のファイルを参照します。この設定ファイルには、バックアップ・ジョブの定義に使用するオプションとCLIでオプションの特定に使用できる、関連付けられているコード番号のリストが含まれます。**nvsetmodify.cfg**は、Windowsでは<NetVault home>\config、Linuxでは<NetVault home>/configにあります。このファイルを使用する場合は、コンテンツを一切変更しないでください。このファイルをプリントアウトし、参照目的で使用することはできません。これは、経験豊富なユーザー向けの機能です。この設定ファイルで指定されている値の使用を試みる場合は、テクニカル・サポートの指導の下で行う必要があります。

nvexpiresaveset

説明

以下の機能を実行します。

- 指定したセーブセットを削除します。オプションで、指定したセーブセットの複製を削除します。セーブセットは即座に削除されます。

- 複数のセーブセットを削除対象としてマークします。オプションで、指定したセーブセットの複製を含むことができます。マークしたセーブセットは、Media Manager で次回「リタイア・チェック」が実行されると、削除されます。

構文

```
nvexpiresaveset [-duplicates] [-duplicateonly] -savesetid <Saveset ID>
nvexpiresaveset [-duplicates] [-duplicateonly] [-success] -markforexpiry -infile
<input file>
-outfile <output file>
nvexpiresaveset [-version]
```

オプション

特定のセーブセットとその複製を削除するには、以下のオプションを使用します。

表50. nvexpiresaveset — 特定のセーブセットとその複製を削除するためのオプション

オプション	説明
-savesetid	削除するセーブセットのIDを指定します。このコマンド形式では、単一のセーブセットIDのみをサポートします。 指定したセーブセットは即座に削除されます。また、セーブセットに存在する依存関係にある増分および差分バックアップも、リタイア日に達していない場合であっても即座に削除されます。
-duplicates	指定したセーブセットの複製を削除します。このオプションは、フェーズ1またはフェーズ2のデータ・コピー・バックアップのセーブセットのみを削除するためにも使用されます。これは、セーブセットIDが異なるためです。したがって、必要なセーブセットIDをnvexpiresavesetへの入力として指定できます。
-duplicateonly	フェーズ2のセーブセットのみを削除するかどうかを指定します。このオプションは、フェーズ2の複製コピーを削除する場合のみに限定して使用してください。

以下のオプションを使用して、削除対象として複数のセーブセットとその複製をマークします。

表51. nvexpiresaveset — 複数のセーブセットとその複製をマークするためのオプション

オプション	説明
-markforexpiry	削除対象として入力ファイル(infile)で指定されたセーブセットをマークします。 依存関係にある増分または差分バックアップがセーブセットに存在しない場合、このセーブセットは、メディア・マネージャで次回「リタイア・チェック」が実行されると削除されます。デフォルトでは、これらのチェックは、60分間隔で実行されます。チェックの間隔を変更するには、mediamgr.cfgファイルのRetirement Check Granularity in Mins設定で設定します。この設定についての詳細は、『Quest NetVault アドミニストレータズ・ガイド』を参照してください。 依存関係にある増分バックアップまたは差分バックアップがバックアップに存在する場合、セーブセットは、依存関係にあるすべてのバックアップがリタイア日に達した後で削除されます。
-duplicates	指定したセーブセットの複製を削除対象としてマークします。このオプションは、フェーズ1またはフェーズ2のデータ・コピー・バックアップのセーブセットのみを削除するためにも使用されます。これは、セーブセットIDが異なるためです。したがって、必要なセーブセットIDをnvexpiresavesetへの入力として指定できます。
-success	出力ファイルに正常なセーブセットのID番号を含めます。このオプションを指定しない場合、このユーティリティでは、失敗したセーブセットのID番号を出力ファイルに含めます。

表51. nvexpiresaveset — 複数のセーブセットとその複製をマークするためのオプション

オプション	説明
-infile	入力ファイルの名前を指定します。 入力ファイルには、削除対象としてマークするセーブセットのID番号が含まれます。このファイルは、任意のテキスト・エディタを使用して作成できます。1行に1つのセーブセットIDを指定します。入力ファイルがユーティリティの実行元のディレクトリにない場合は、このファイルの完全パスを指定します。
-outfile	出力ファイルの名前を指定します。 デフォルトでは、このファイルは、ユーティリティの実行元のディレクトリに作成されます。このファイルを他の場所に保存する場合は、完全なパスを指定します。

以下のオプションを使用して、NetVault ディストリビューションのバージョンを表示します。

- -version : マシンにインストールされている NetVault ディストリビューションのビルド日付を表示します。

例

- セーブセット ID 120 を削除します。
`nvexpiresaveset -savesetid 120`
- セーブセット ID 150 およびその複製を削除します。
`nvexpiresaveset -duplicates -savesetid 150`
- 削除対象の入力ファイル「C:\deletelist.txt」に含まれるセーブセットをマークします。デフォルト出力を「C:\failedlist.txt」に送信します。
`nvexpiresaveset -markforexpiry -infile "c:\deletelist.txt"
-outfile "c:\failedlist.txt"`
- 削除対象の入力ファイル「deletelist.txt」とその重複に含まれるセーブセットをマークします。出力ファイル「marked.txt」に成功したセーブセットのリストを送信します。
`nvexpiresaveset -duplicates -success -markforexpiry -infile deletelist.txt
-outfile marked.txt`

nvjobabort

説明

アクティブなジョブを中止します。

構文

```
nvjobabort [-servername <NetVault Server Name>] -jobid <Job ID>
[-instanceid <Instance ID>]
```

オプション

表52. nvjobabort

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-jobid	中止するジョブのIDを指定します。
-instanceid	中止するインスタンスのIDを指定します。このオプションのデフォルト値は1です。

nvjobcreate

説明

バックアップ・ジョブまたはリストア・ジョブを作成してスケジュールを設定します。また、このユーティリティを使用すると、スケジュールすることなく、ジョブの定義を保存できます。

nvjobcreate ユーティリティでは、リストア・オプションを設定するためのオプションがありません。これらのオプションは、リストア・セレクション・セットで指定する必要があります。**nvsetcreate** ユーティリティには、リストア・オプションをリストア・セレクション・セットに組み込むために使用できるオプションが用意されています。詳細は、「[nvsetcreate](#)」を参照してください。

構文

```
nvjobcreate [-servername <NetVault Server Name>] -jobtitle <Job Title> [-type <Job Type>] -selectionsetname <Backup or Restore Selection Set Name> [-selectionoptionssetname <Backup Options Set Name>] [-schedulesetname <Schedule Set Name>] [-backupoption <Backup Option>=<value>] [-targetsetname <Target Set Name>] [-advoptssetname <Advanced Options Set Name>] [-jobidfile <Output Filename>] -submit -parameters <Parameter Filename> [-version]
```

オプション

表53. nvjobcreate

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-jobtitle	ジョブの名前を指定します。
-type	ジョブ・タイプ(backupまたはrestore)を指定します。このオプションのデフォルト値は backup です。
-selectionsetname	バックアップまたはリストア・セレクション・セット名を指定します。NetVault WebUI または nvsetcreate ユーティリティを使用すると、このセットを作成できます。

表53. nvjobcreate

オプション	説明
-selectionoptionsset name	<p>バックアップ・オプション・セット名を指定します。バックアップ・ジョブを作成するときは、このオプションを指定する必要があります。</p> <p>バックアップ・ジョブの作成時にこのオプションを指定しなくても、ジョブは正常に作成されます。ただし、CLIまたはWebUIからジョブを実行しようとする、エラーが表示されジョブは失敗します。WebUIからジョブ定義を表示しようとしても、[ジョブ定義管理 - ジョブの表示]ページに詳細情報が表示されません。</p>
-schedulesetname	<p>スケジュール・セット名を指定します。このオプションを省略すると、ジョブがすぐに実行されるようにスケジュールされます。NetVault WebUIまたはnvsetcreateユーティリティを使用すると、このセットを作成できます。</p>
-backupoption	<p>ジョブのバックアップ・オプションを指定します。</p> <p>このオプションを使用するには、設定するオプションの「タグID」が必要です。タグIDには、CLIが認識するバックアップ・オプション名か、NetVaultによってオプションに割り当てられている数値のいずれかを指定できます。これらの値はどちらも、nvsetmodify.cfgファイルの[プラグイン・オプション]セクションでグループ分けされています。</p> <p>このオプションの指定時の形式は、以下のとおりです。</p> <pre>-backupoption <Tag ID>=<value></pre> <p>例:</p> <pre>-backupoption <Tag ID>=True/False</pre>
-targetsetname	<p>ターゲット・セット名を指定します。NetVault WebUIまたはnvsetcreateユーティリティを使用すると、このセットを作成できます。ターゲット・セットを指定しない場合、NetVault WebUIで表示されているデフォルトのターゲット・オプションが使用されます。</p>
-adoptssetname	<p>バックアップまたはリストア詳細設定オプション・セットの名前を指定します。NetVault WebUIまたはnvsetcreateユーティリティを使用すると、このセットを作成できます。詳細設定オプション・セットを指定しない場合、NetVault WebUIに表示されているデフォルトのターゲット・オプションが使用されます。</p>
-jobidfile	<p>ジョブIDを保存している出力ファイルの名前を指定します。</p> <p>このオプションは、nvjobcreateユーティリティがジョブIDではなく終了ステータスを返すように設定されている場合に役立ちます。設定オプションについての詳細は、『<i>Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド</i>』を参照してください。</p> <p>ファイルの絶対パスまたは相対パスを指定できます。このファイルでは、ジョブIDを文字列として保存しています。スクリプトを使用すると、この文字列を読み取ることができます。このファイルは、使用后、手動で削除する必要があります。</p>
-submit	<p>ジョブをスケジュールし、アクティブなジョブとして一覧表示します。</p> <p>このオプションを省略すると、ジョブ定義の保存のみが行われ、実行はスケジュールされません。このジョブは、後でnvjobmodifyユーティリティを使用してスケジュールできます。</p>

表53. nvjobcreate

オプション	説明
-parameters	<p>パラメータ・ファイルからオプションを読み取ります。</p> <p>パラメータ・ファイルは、任意のテキスト・エディタを使用して作成できます。1行に1つのオプションとその値を指定し、オプションの前の「-」は省略します。オプションと値を区切るには、スペースまたはタブを使用します。コメントを含めるには、その行の先頭に「#」文字を付けます。</p> <p>例:</p> <pre># nvjobcreate example file jobtitle cli job 1 selectionsetname cliselset</pre> <p>このファイルは、次のように、-parametersオプションと併用できます。</p> <pre>./nvjobcreate -parameters example.txt</pre>
-version	<p>マシンにインストールされているNetVaultディストリビューションのビルド日付を表示します。</p>

注意:

ジョブの作成に **nvjobcreate** コマンドを使用した後、次の **nvreport** コマンドを実行すると、スケジューラがクラッシュする可能性があります。

```
nvreport -class "Defined Jobs" -format "%SelectionOptions"
```

対処法: NetVault WebUI から、編集するジョブを開いて、変更することなくジョブを保存します。

例

- バックアップ・セレクション・セット「CLIENT 1 Full Data Backup」およびスケジュール・セット「Repeating 1」を使用して増分バックアップ・ジョブを作成します。ジョブ名は、「Incremental Backup of CLIENT1」で、このジョブは、ローカルの NetVault サーバーによって管理されます。

```
nvjobcreate -jobtitle "Incremental Backup of CLIENT1" -type backup
-selectionsetname "CLIENT 1 Full Data Backup"
-backupoption ntfsopt_typeincr=true -schedulesetname "Repeating 1" -submit
```

- リストア・セレクション・セット「RestoreFull」を使用してリストア・ジョブを作成したら、そのジョブを直ちに送信して実行します。ジョブ名は「Restore of Full Backup」で、このバックアップ・ジョブは、リモートの NetVault サーバー「SERVER2」によって管理されます。

```
nvjobcreate -jobtitle "Restore of Full Backup" -servername SERVER2
-type restore-selectionsetname RestoreFull -submit
```

nvjobdelete

説明

指定した条件に一致するジョブを削除します。

構文

```
nvjobdelete [-servername <NetVault Server Name>]
[-jobid <Job ID>] [-type <Job Type>]
```

```
[-jobrange <Job ID-Job ID>] [-jobtitle <Job Title>] [-client <Client Name>]
[-plugin <Plug-in Name>] [-selectionsetname <Selection Set Name>]
[-schedulesetname <Schedule Set Name>] [-targetsetname <Target Set Name>]
[-advoptsetname <Advanced Options Set Name>] [-force] [-scheduleonly] [-version]
```

オプション

表54. nvjobdelete

オプション	説明
-servername	ターゲットNetVaultサーバーの名前を指定します。
-jobid	削除するジョブのIDを指定します。このオプションで指定できるジョブIDは1つのみです。
-type	削除するジョブのタイプ(backupまたはrestore)を指定します。 このオプションは、特定のジョブ・タイプを削除する場合に使用します。すべてのジョブ・タイプを削除する場合は、このオプションを使用しないでください。
-jobrange	削除する必要がある一連のジョブに該当するジョブID番号の範囲を指定します。開始ジョブID番号と終了ジョブID番号の間はハイフンで区切ります。 例: -jobrange 30-45
-jobtitle	削除するジョブの名前を指定します。フルネームを指定し、引用符で囲む必要があります。 例: -jobtitle "Full_Backup_1" -jobtitle オプションは1つのジョブを削除します。 -jobrange オプションと -jobtitle オプションを併用すると、同じジョブ・タイトルを使用する複数のジョブを削除できます。
-client	ジョブのターゲットとしての役割を果たすNetVaultクライアント名を指定します。指定したクライアントのすべてのジョブを削除するには、このオプションを使用します。 例 -client "NV_Client_MKTG"
-plugin	ジョブの実行に使用するプラグイン名を指定します。特定のプラグインを使って実行されたすべてのジョブを削除する場合は、このオプションを使用します。プラグイン名は、引用符で囲む必要があります。 例: -plugin "File System"
-selectionsetname	ジョブの作成で使用したバックアップまたはリストア・セレクション・セット名を指定します。
-schedulesetname	ジョブの作成で使用したスケジュール・セット名を指定します。
-targetsetname	ジョブの作成で使用したターゲット・セット名を指定します。
-advoptsetname	ジョブの作成で使用した詳細設定オプション・セット名を指定します。
-force	実行がスケジュールされている、一致するジョブを削除します。 他のオプションが設定した条件に一致するジョブがキュー内にある(後で実行するようにスケジュールされている)場合、削除を試みるとすべて失敗します。このようなジョブを削除するには、「-force」オプションを使用します。
-scheduleonly	NetVaultデータベースからジョブを削除することなく、ジョブ・キューからジョブを削除します。このオプションは、 -force の代わりに使用します。
-version	マシンにインストールされているNetVaultディストリビューションのビルド日付を表示します。

注意

- この注意事項は、**nvjobdelete** コマンドで以下のオプションを使用する場合に該当します。
 - client
 - plugin
 - selectionsetname
 - schedulesetname
 - targetsetname
 - advoptsetname

これらのオプションのいずれかが構文で単独で使用されていると、設定パラメータを満たすジョブのすべてのインスタンスが削除されます。たとえば、以下のコマンドでは、Plug-in for File System のすべてのジョブが削除されます。

```
nvjobdelete -plugin "File System"
```

特定のジョブを削除するには、オプションを組み合わせで使用します。たとえば、**-jobrange** オプションを **-plugin** オプションと共に指定すると、指定したジョブ ID の範囲に該当するジョブのみが削除されません。

例

- 以下のコマンドでは、ジョブ ID 番号が 1、5、および 7 ~ 12、15 ~ 19 の範囲にあるジョブが削除されます。

```
nvjobdelete -jobid 1 -jobid 5 -jobrange 7-12 -jobrange 15-19
```

- 以下のコマンドでは、ジョブ名が「Backup of Client-A」でジョブ ID 番号が 70 ~ 100 のバックアップ・ジョブがすべて削除されます。

```
nvjobdelete -type backup -jobtitle "Backup of Client-A" -jobrange 70-100
```

- 以下のコマンドでは、スケジュール・セット「FirstTuesday」を使用するクライアント「Client-A」で、すべてのジョブが削除されます。

```
nvjobdelete -client Client-A -schedulesetname FirstTuesday -force
```

nvjobhold

説明

ジョブを保留します。**nvjobresume** ユーティリティを使用すると、ジョブを後で再開できます。

構文

```
nvjobhold [-servername <NetVault Server Name>] -jobid <Job ID>  
[-phaseid <Phase ID>] [-version]
```

オプション

表55. nvjobhold

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-jobid	保留するジョブのIDを指定します。このオプションで指定できるジョブIDは1つのみです。
-phaseid	フェーズIDを指定します。 このオプションは、特定のフェーズを保留にする場合に使用します。このオプションを省略すると、指定したジョブのすべてのスケジュール・フェーズが保留されます。
-version	マシンにインストールされているNetVaultディストリビューションのビルド日付を表示します。

nvjoblist

説明

すべてのアクティブなジョブを表示します。出力は、固定列の形式で表示されます。

構文

```
nvjoblist [-servername <NetVault Server Name>] [-delimiter <Delimiter>]  
[-title <Job Title>] [-noheader] [-runinfo] [-version]
```

オプション

表56. nvjoblist

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-delimiter	区切り文字として使用する文字を指定します。デフォルトでは、区切り文字として空白文字が使用されます。
-title	ジョブの名前を指定します。指定した名前のすべてのジョブを表示するには、このオプションを使用します。フルネームを指定し、引用符で囲む必要があります。 例： -title "Full_Backup_1"
-noheader	ヘッダ行を表示しないようにします。
-runinfo	出力に実行ステータスおよび次回の実行時刻を含めます。
-version	CLIツールのバージョン番号と、マシンにインストールされているNetVaultディストリビューションのビルド日付を表示します。

nvjobmodify

説明

ジョブ定義を変更します。

構文

```
nvjobmodify -jobid <Job ID> -jobname <Job Title> -type <Job Type>
[-change <Change Description>] [-submit] [-parameters <Parameter File>]
[-assign <Assignment Character>] [-delimit <Delimiter Character>] [-version]
```

オプション

表57. nvjobmodify

オプション	説明
-jobid	変更するジョブのIDを指定します。 例 -jobid 56
-jobname	-jobnameオプションを指定する場合、このオプションは不要です。 変更するジョブの名前を指定します。ジョブ名は、引用符で囲む必要があります。 NetVaultサーバー上の複数のジョブの名前が同じ場合、このコマンドは失敗します。このような場合は、-jobidオプションを使用する必要があります。
-type	変更するジョブのタイプ (backupまたはrestore)を指定します。
-change	ジョブ定義をどのように変更するかを指定します。このオプションでは、値を何個でも指定できます。変更することなく、ジョブを開始する場合は、このオプションを省略できます。 -changeオプションの<Change description>変数の形式は次のとおりです。 <item>[:<field>]=<value> <item>では、Title、Set、Optionsのいずれかの値を取ることができます。 <field>では、変更対象のアイテム内の特定のフィールドを呼び出します。 <value>は選択したフィールドの新しい設定です。 以下のアイテムを変更します。 <ul style="list-style-type: none">• タイトル: ジョブ名を変更します。• Set: ジョブの定義に使用するセットを変更します。<value>では、新しいセット名を指定します。<field>では、以下のいずれかの値を取ることができます。 BS: バックアップ・セレクション・セット BO: バックアップ・オプション・セット S: スケジュール・セット BT: バックアップ・ターゲット・オプション・セット AB: バックアップ詳細設定セット RS: リストア・セレクション・セット AR: リストア詳細設定セット

表57. nvjobmodify

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> オプション: ジョブのバックアップ・オプションを変更します。 このオプションを使用するには、設定するオプションの「タグID」が必要です。タグIDには、CLIが認識するバックアップ・オプション名か、NetVaultによってオプションに割り当てられている数値のいずれかを指定できます。これらの値はどちらも、<code>nvsetmodify.cfg</code>ファイルの[プラグイン・オプション]セクションでグループ分けされています。 このオプションの指定時の形式は、以下のとおりです。 <code>Options:<Tag ID>=<value></code> 例: <code>Options:<Tag ID>=True/False</code> <p>メモ: 他のジョブで使用されているトリガ名を指定した場合、ジョブを保存または開始しようとする、エラー・メッセージ(「The Trigger Name is Already in Use.Redefine this Job if this was not Intended.このトリガ名はすでに使用中です。これを意図していなかった場合はこのジョブを再定義してください。」)が表示されます。これは情報提供目的のみのメッセージであるため、ジョブの保存または実行は停止されません。</p>
-submit	<p>ジョブをスケジュールします。このオプションは作成されたものの、スケジュールされていないジョブを単独でスケジュールする場合にも使用できます。</p>
-parameter	<p>パラメータ・ファイルからオプションを読み取ります。 パラメータ・ファイルは、任意のテキスト・エディタを使用して作成できます。1行に1つのオプションとその値を指定し、オプションの前の「-」は省略します。オプションと値を区切るには、スペースまたはタブを使用します。コメントを含めるには、その行の先頭に「#」文字を付けます。</p> <p>例</p> <pre># nvjobmodify example file jobname Backup File System 10-15 type backup change Set:BS=selectionsetcli</pre> <p>このファイルは、次のように、-parameterオプションと併用できます。</p> <pre>./nvjobmodify -parameter example.txt</pre>
-assign	<p>変更の説明で使用する代入演算子を指定します。デフォルトの代入演算子は「=」文字です。古い値または新しい値に「=」文字が含まれている場合、このオプションを指定する必要があります。</p>
-delimiter	<p>変更の説明で区切り文字として使用する文字を指定します。デフォルトの区切り文字は「:」文字です。古い値または新しい値に「:」文字が含まれている場合、このオプションを指定する必要があります。</p>
-version	<p>マシンにインストールされているNetVaultディストリビューションのビルド日付を表示します。</p>

例

- 以下のコマンドでは、*Plug-in for FileSystem* を使用して、フル・バックアップではなく増分バックアップを実行するようにジョブ「Backup File System 10-15」が変更されます。

```
nvjobmodify -jobname "Backup File System 10-15"
-change Options:ntfsopt_typeincr=true
```

nvjobresume

説明

以前に保留されたジョブを再開します。このコマンドの1回の実行で再開できるジョブは1つのみです。

構文

```
nvjobresume [-servername <NetVault Server Name>] -jobid <Job ID>
[-phaseid <Phaseid>] [-version]
```

オプション

表58. nvjobresume

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-jobid	再開するジョブのIDを指定します。このオプションで指定できるジョブIDは1つのみです。
-phaseid	フェーズIDを指定します。 このオプションは、特定のジョブ・フェーズを再開する場合に使用します。このオプションを省略すると、指定したジョブの既知のすべてのフェーズが再開されます。
-version	マシンにインストールされているNetVaultディストリビューションのビルド日付を表示します。

nvjobstart

説明

ジョブ ID、フェーズ番号、およびインスタンス番号を使用してジョブを実行します。

構文

```
nvjobstart [-servername <NetVault Server Name>] -jobid <Job ID>
-phase <Phase number> -instance <Instance number> [-wait] [-version]
```

オプション

表59. nvjobstart

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-jobid	実行するジョブのIDを指定します。
-phase	開始するフェーズ番号を指定します。このオプションのデフォルト値は1です。
-instance	開始するインスタンス番号を指定します。 このオプションが指定されていないか、指定したインスタンスが存在しない場合は、ジョブの最後のインスタンスが実行されます。
-wait	タスクが完了するまで待機します。
-version	マシンにインストールされているNetVaultディストリビューションのビルド日付を表示します。

注意

- **nvjobstart** ユーティリティでは、デフォルトで、ジョブ終了コードに応じて以下のメッセージを返します。

表60. デフォルトのジョブ終了コードとステータス・メッセージ

終了コード	ステータス・メッセージ
0	Job completed successfully (ジョブが正常に終了しました)
1	Job Failed with error (ジョブがエラーで終了しました) Job Failed (ジョブが失敗しました) このメッセージは、以下のジョブ終了状態の場合に返されます。 <ul style="list-style-type: none">• Job failed (ジョブが失敗しました)• Job completed with warnings (警告付きでジョブが完了しました)• Job aborted (ジョブが中断されました)• Job stopped (ジョブが停止しました)• Job died (ジョブが異常終了しました)

nvjobstart Enhanced Job Completion Status オプションを有効にすると、このユーティリティで、以下のコードおよびメッセージが返されます。

表61. 拡張ジョブ終了コードとステータス・メッセージ

終了コード	ステータス・メッセージ
0	Job completed successfully (ジョブが正常に終了しました)
1	Job Failed (ジョブが失敗しました)
2	Job Completed with Warnings (警告付きでジョブが完了しました)
3	Job Aborted (ジョブが中断されました)
4	Job Stopped (ジョブが停止しました)

表61. 拡張ジョブ終了コードとステータス・メッセージ

終了コード	ステータス・メッセージ
5	Job Died (ジョブが異常終了しました)
-1	Job Failed with Undefined Error (ジョブが未定義のエラーで終了しました)

このオプションについての詳細は、『Quest NetVault アドミニストレータズ・ガイド』を参照してください。

nvpolicy

説明

以下のタスクを実行します。

- ポリシー定義の作成
- ポリシー・ジョブの表示
- ポリシーの削除
- ポリシー・ジョブの存在の有無の確認
- ポリシー・ジョブのクライアントの定義
- ポリシーを休止状態にする

構文

```
nvpolicy -list [<Policy Name>] -delete <Policy Name> -ack <Policy Name>
-addclient <Policy Name> <Client name> [ <Client Name> ...] -addgroup <Policy Name>
<Group Name> [ <Group Name> ...] create <Policy Definition File>
-state <Policy Name> -quiesce <Policy Name>
```

オプション

表62. nvpolicy

オプション	説明
-list	既存のポリシーを表示します。ポリシーに定義されているジョブのリストを表示するには、ポリシー名を指定してこのオプションを使用します。たとえば、以下のコマンドでは、ポリシー「p1」に定義されているすべてのジョブが一覧表示されます。 <code>nvpolicy -list p1</code>
-delete	指定したポリシーを削除します。
-ack	エラーを確認します。
-addclient	クライアントをポリシー定義に追加します。たとえば、以下のコマンドでは、クライアント「Client-A」と「Client-B」がポリシー「p1」に追加されます。 <code>nvpolicy -addclient p1 Client-A Client-B</code>
-addgroup	クライアント・グループをポリシー定義に追加します。たとえば、以下のコマンドでは、クライアント・グループ「Group-A」と「Group-B」がポリシー「p1」に追加されます。 <code>nvpolicy -addgroup p1 Group-A Group-B</code>

表62. nvpolicy

オプション	説明
-create	<p>ポリシー定義ファイルで指定した詳細を使用してポリシーを作成します。このファイルは、以下の形式で作成する必要があります。</p> <p>例:</p> <pre>[Policy] Title=policy3 EvtWarn=Event-Warn-1 EvtFail=Event-Fail-1 Clients=client-1,client-2,client-3,client-4 [Job] Title=MyJob Selection=MySelection Options=MyOption Target=MyTarget Source=MySource Schedule=MySchedule Advanced=MyAdvanced Active=TRUE</pre> <p>メモ: Sourceオプションは、Plug-in for ConsolidationまたはPlug-in for Data Copy、あるいはその両方のジョブを定義する場合に限り必要です。ポリシーには1つ以上のジョブ定義を含むことができます。ジョブが複数ある場合は、以下の例に示すように、各ジョブに[Job]セクションを含めます。</p> <p>例:</p> <pre>[Policy] Title=policy3 EvtWarn=Event-Warn-1 EvtFail=Event-Fail-1 Clients=client1,client2,client3,client4 [Job] Title=MyJob Selection=MySelection Options=MyOption Target=MyTarget Source=MySource Schedule=MySchedule Advanced=MyAdvanced Active=TRUE [Job] Title=MyJob-2 Selection=MySelection-2 Options=MyOption-2 Target=MyTarget-2 Schedule=MySchedule-2 Advanced=MyAdvanced-2 Active=TRUE</pre>
-state	ポリシーの現在の状態(非アクティブ、アクティブ、休止中)を表示します。
quiesce	アクティブなポリシーを休止状態にします。

nvrestore

説明

以下のタスクを実行します。

- リストア・ジョブを表示します。ジョブで使用されている日付、クライアント、プラグイン、またはバックアップ・セレクション・セットでリストをフィルタリングできます。
- リストア・ジョブを作成します。このユーティリティを使用すると、リストア時にデータの場所や名前を変更することもできます。

構文

```
nvrestore -list [-client <NetVault Client Name>] [-plugin <Plug-in Name> |  
-select <Selection Set Name>] [-startdate <DD/MM/YY>] [-enddate <DD/MM/YY>]  
  
nvrestore -create <Saveset> -title <Job Title> -path <Path> [-relocate <Path>]  
[-rename <Path>] [-run [-wait]]  
  
nvrestore -create <Saveset> -definition <Restore Definition File> [-run [-wait]]
```

オプション

NetVault サーバーによって管理されているリストア・ジョブを一覧表示するには、以下のオプションを使用します。

表63. nvrestore - リストア・ジョブをリストするためのオプション

オプション	説明
-list	NetVaultサーバーによって管理されているすべてのリストア・ジョブを表示します。
-client	ターゲットNetVaultクライアントの名前を指定します。指定したクライアントでリストをフィルタリングするには、このオプションを使用します。
-plugin	プラグイン名を指定します。指定したプラグインでリストをフィルタリングするには、このオプションを使用します。
-select	リストア・セレクション・セット名を指定します。指定したセットでリストをフィルタリングするには、このオプションを使用します。 メモ: -plugin オプションおよび -select オプションは、相互に排他的であるため、 <code>nvrestore -list</code> コマンドの同じインスタンスで併用することはできません。
-startdate	開始日を指定します。開始日から終了日までの間に実行されたジョブを表示するには、このオプションを使用します。終了日が指定されていない場合、開始日から最後のジョブまでに開始したすべてのジョブが一覧表示されます。開始日の有効なフォーマットはDD/MM/YYです。
-enddate	終了日を指定します。開始日から終了日までの間に実行されたジョブを表示するには、このオプションを使用します。開始日が指定されていない場合、最初のジョブから指定した終了日までに開始したすべてのジョブが一覧表示されます。開始日の有効なフォーマットはDD/MM/YYです。

リストア・ジョブを作成するには、以下のオプションを使用します。

表64. nvrestore - リストア・ジョブを作成するためのオプション

オプション	説明
-create	<p>リストア・ジョブを作成し、必要に応じて、スケジュールします。</p> <p>リストアするバックアップ・セーブセットのIDを指定します。セーブセット番号の他、ターゲットのクライアント名と使用するプラグイン(これらの間はコロンで区切る)をセーブセット番号の前に指定します。</p> <p>例:</p> <pre>59:NVSERVER:filesystem</pre> <p>これにより、セーブセットの特定にかかる時間を短縮できます。</p>
-title	ジョブの名前を指定します。
-path	リストアするディレクトリまたはファイルを指定します。アイテムへのフル・パスを指定します。
-relocate	選択したアイテムの場所を指定したパスまたはディレクトリに変更します。リストア・ジョブの実行前に、指定したパスが作成されていることを確認します。
-rename	選択したアイテムの名前を変更します。このオプションは、既存のファイルまたはディレクトリが上書きされないようにする場合に使用できます。
-run	ジョブを実行します。このオプションを選択しない場合は、リストア・ジョブは作成および保存されますが、実行はスケジュールされません。
-wait	<p>タスクが完了するまで待機します。</p> <p>このオプションを指定すると、ユーティリティが、追加のコマンドのプロンプトが表示される前に、「job succeeded」または「job failed」という結果を返します。</p>

ジョブ定義ファイルからリストア・ジョブを作成するには、以下のオプションを使用します。

表65. nvrestore - ジョブ定義ファイルからジョブを作成するためのオプション

オプション	説明
-create	<p>リストア・ジョブを作成し、必要に応じて、スケジュールします。</p> <p>リストアするバックアップ・セーブセットのIDを指定します。セーブセット番号の前に、ターゲットのクライアント名と使用するプラグインも指定できます(これらの間はコロンで区切ります)。</p> <p>例:59:NVSERVER:filesystem</p> <p>これにより、セーブセットの特定にかかる時間を短縮できます。</p>
-definition	<p>ジョブ定義ファイルの名前を指定します。ファイルのフル・パスを指定します。</p> <p>定義ファイルには、含めるまたは除外するファイルまたはディレクトリのリストが含まれます。このオプションは、次の形式で使用する必要があります。</p> <pre>[Restore] Title=<Job Title> Schedule=<Schedule Set name> Advanced=<Advanced Options Set name> [Include] Path=<Full path to restore items> Relocate=<Relocation path>(ジョブの実行前にパスが作成されていることを確認します)。 Rename=<New name for the item>(既存のファイルまたはディレクトリが上書きされないようにする場合に、このオプションを使用できます)。</pre>

表65. nvrestore - ジョブ定義ファイルからジョブを作成するためのオプション

オプション	説明
-run	ジョブを実行します。このオプションを選択しない場合は、リストア・ジョブは作成および保存されますが、実行はスケジュールされません。
-wait	タスクが完了するまで待機します。 このオプションを指定すると、ユーティリティが、追加のコマンドのプロンプトが表示される前に、「job succeeded」または「job failed」という結果を返します。

注意

リストア定義ファイルには、以下のルールが適用されます。

- 特定のスケジュールまたはリストア詳細設定オプション・セットが不要な場合でも、「Schedule」および「Advanced」エントリを [Restore] スタンザに含める必要があります。NetVault WebUI または **nvsetcreate** ユーティリティを使用して、これらのセットを作成できます。
- [Include] スタンザでは、1 行に 1 アイテムのみを指定できます。

```
[Include]
```

```
C:\data
```

```
C:\new
```

```
C:\Program Files
```

- **Rename** オプションおよび **Relocate** オプションでは、各アイテムに個別の [Include] スタンザを作成する必要があります。**正しい例**

```
[Include]
```

```
path=C:\data\files
```

```
relocate=C:\data\new
```

```
[Include]
```

```
path=C:\Program Files
```

```
relocate=C:\Old Program Files
```

誤っている例

```
[Include]
```

```
path=C:\data\files
```

```
path=C:\Program Files
```

```
relocate=C:\data\new
```

```
relocate=C:\Old Program Files
```

- **Rename** オプションおよび **Relocate** オプションを [Include] スタンザの同一のインスタンス内に指定すると、1 つのファイルまたはディレクトリで両方の操作を実行できます。

```
[Include]
```

```
path=C:\data\new (リストア対象のデータとその元のパス)
```

```
relocate=C:\saved\data (移動先のパス)
```

```
rename=C:\saved\data\old (新しいディレクトリ名を使用した移動先のパス)
```

- 移動先のディレクトリは、リストア・ジョブが実行される前に、ターゲット・システムに存在している必要があります。このコマンドでは、**-run** パラメータを使用しないで、ジョブを作成して保存し、移動先の新しいディレクトリを作成できます。ただし、ジョブを実行する場合は、ターゲットの移動先のディレクトリが存在している必要があります。

nvsetcreate

説明

セットを作成します。

構文

```
nvsetcreate [-setname <Set Name>] -type <set type> <Set Type Specific Options>  
-assign <Assignment Character> -delimiter <Delimiter Character>  
-parameters <Parameter Filename>] [-version]
```

オプション

表66. nvsetcreate

オプション	説明
-setname	作成する必要があるセットの名前を指定します。
-type	セット・タイプとセット固有のオプションを指定します。 セット・タイプは、以下のいずれかを使用できます。 <ul style="list-style-type: none">• BS: バックアップ・セレクション・セット• BO: バックアップ・オプション・セット• S: スケジュール・セット• BT: バックアップ・ターゲット・セット• AB: バックアップ詳細設定セット• RS: リストア・セレクション・セット• AR: リストア詳細設定セット 任意のセット・タイプで使用可能なオプションの一覧を取得するには、次のコマンドを使用します。 <code>nvsetcreate -type <set type> -- help</code> 例: <code>nvsetcreate -type BS -- help</code> セット固有のオプションについての詳細は、次の各セクションを参照してください。 <ul style="list-style-type: none">• バックアップ・セレクション・セット• リストア・セレクション・セット• バックアップ・オプション・セット• スケジュール・セット• バックアップ・ターゲット・セット• バックアップ詳細設定セット• リストア詳細設定セット
-assign	変更の説明で使用する代入演算子を指定します。デフォルトの代入演算子は「=」文字です。古い値または新しい値に「=」文字が含まれている場合、このオプションを指定する必要があります。

表66. nvsetcreate

オプション	説明
-delimiter	変更の説明で区切り文字として使用する文字を指定します。デフォルトの区切り文字は「:」文字です。古い値または新しい値に「:」文字が含まれている場合、このオプションを指定する必要があります。
-parameters	<p>パラメータ・ファイルからオプションを読み取ります。</p> <p>パラメータ・ファイルは、任意のテキスト・エディタを使用して作成できます。1行に1つのオプションとその値を指定し、オプションの前の「-」は省略します。オプションと値を区切るには、スペースまたはタブを使用します。コメントを含めるには、その行の先頭に「#」文字を付けます。</p> <p>例:</p> <pre># nvsetcreate example file setname workbackup type BS client WinClient</pre> <p>このファイルは、次のように、-parametersオプションと併用できます。</p> <pre>./nvsetcreate -parameters example.txt</pre>

注意

- Plug-in for NDMP では、**nvsetcreate** ユーティリティを使用してバックアップ・セレクション・セットのみを作成できます。
- Plug-in for NDMP のセットの作成時に、既存のセット名を指定すると、**nvsetcreate** ユーティリティではセットを上書きします。**nvsetmodify** の代わりに **nvsetcreate** ユーティリティを使用すると、このプラグインのセットを変更できます。

バックアップ・セレクション・セット

オプション

表67. バックアップ・セレクション・セット

オプション	説明
-client <クライアント>	バックアップするNetVaultクライアントの名前を指定します。
-plugin <プラグイン名>	<p>バックアップに使用するプラグインの名前を指定します。NetVault WebUIに表示されるプラグイン名を指定する必要があります。</p> <p>例: <code>-plugin "File System"</code></p>
-include <パス>	<p>バックアップ・パスを指定します。</p> <p>ツリー内の選択したアイテムの下位の各ノードの名前を、NetVault WebUIに表示されるとおりに指定します。各ノードは、クライアント・オペレーティング・システムに応じて、"/"または"\で区切ります。</p>
-exclude <パス>	バックアップ時に除外するパスを指定します。このパスは、バックアップ時に含めるパス(include/パス)と同じように指定する必要があります。このオプションは、すでに包含対象として指定されているアイテムの下位に表示されているアイテムを除外するときのみ使用します。

表67. バックアップ・セレクション・セット

オプション	説明
-info <パス=値[:値 [:...]]>	<p>セレクション・ツリー内のノードに結合されるプラグイン情報オブジェクトを指定します。</p> <p>プラグインはバックアップ時にこの情報を使用できません。このオプションは、プラグインによって常にデフォルト値が追加されるノードに対してのみ指定できます。値のタイプと順序は、プラグインによって異なります。詳細については、テクニカル・サポートにお問い合わせください。</p>
-browsesetting <エン トリ>	<p>タグ名と選択したオプションの設定を指定します。このオプションを使用して、参照機能制限付きまたは制限なしのファイラーのセレクション・セットを作成できます。</p> <p>タグを一覧表示するには、次のように入力します。</p> <pre>nvsetcreate -type BS -helpndmptags</pre> <p>使用可能なタグは次のとおりです。</p> <p>LEVEL – NDMPC_TAG_LEVEL HIST – NDMPC_TAG_GET_FILE_INFO UPDATE – NDMPC_TAG_UPDATE DIRECT – NDMPC_TAG_DIRECT_IF_POSSIBLE</p>

注意

- NetVault Plug-in for *FileSystem* を使用してルート・ディレクトリのバックアップ用セレクション・セットを作成する際には、末尾の「\」文字を含めないでください。ドライブ文字のみ指定します。したがって、パスは C:\ ではなく C: となります。

例：

```
nvsetcreate -setname testset -type BS -client WINCLIENT1 -plugin "File System"
-include "Fixed Drives\C:"
```

- Plug-in for *Consolidation*、Plug-in for *Data Copy*、Plug-in for *Raw Devices* で使用するバックアップ・セレクション・セットで **-include** オプションを使用するときは、NetVault WebUI に表示されるフル・ファイル・パスを指定します。

- ツリー・アイテムを区切るには、"/" を使用します。使用するオペレーティング・システムに関係なく、区切り文字として順スラッシュ ("/") を使用できます。
- パスを二重引用符で区切ります。
- 完全なセーブセット・タイトルを含めます。

```
/JobTitle(Savesetnum) hh:mm DD MM YYYY
```

例：

```
nvsetcreate -setname DataCopy1 -type BS -client ukwk1115 -plugin "Data Copy"
-include "Backups/ukwk1115/File System/spanningTapes (Saveset 106) 11:00 31 jul
2011"
```

例

- Plug-in for *FileSystem* を使用して "C:\work" ディレクトリにあるすべてのファイル（ただし、"a.zip" ファイルを除く）をバックアップする、Windows ベースのクライアント "WinClient" のバックアップ・セレクション・セットを作成します。

```
nvsetcreate -setname workbackup -type BS -client WinClient
-plugin "File System" -include "Fixed Drives\C:\work" -exclude "C:\work\a.zip"
```

- ディレクトリ「Isilon/ifs/data/testdata/small」内のデータのレベル1バックアップを実行する、Isilon ファイラー（参照機能なし）のバックアップ・セレクション・セットを作成します。

```
nvsetcreate -setname Isilon_Dump1 -type BS -client Interop_r14
-plugin "NDMP Client" -browsesetting NDMPC_TAG_LEVEL=1
-include "Isilon/ifs/data/testdata/small"
```

リストア・セレクション・セット

オプション

表68. リストア・セレクション・セット

オプション	説明
-client <クライアント>	データのバックアップ元のNetVaultクライアントの名前を指定します。
-plugin <プラグイン名>	バックアップに使用したプラグインの名前を指定します。NetVault WebUIに表示されるプラグイン名を指定する必要があります。 例: <code>-plugin "File System"</code>
-saveset <ID>	リストアするセーブセットのIDを指定します。 このオプションは、特定のセーブセットをリストアする場合に使用します。代わりに -title オプションを使用すると、バックアップの最新のセーブセットからデータをリストアできます。
-title <タイトル>	リストアするバックアップの名前を指定します。 セーブセット名にタグ(バックアップ・タイプ識別子)が含まれる場合、そのタグがジョブ名(「-」で区切られています)に含まれることを確認します。 例: ジョブ名が「Test Backup」であり、タグまたはバックアップ・タイプ識別子が「VSS Full」である場合、次のように指定します。 <code>-title "Test Backup - VSS FULL"</code> ジョブに複数のセーブセットが存在する場合は、最新のセーブセットが使用されます。特定のセーブセットからデータをリストアするには、 -saveset オプションを使用します。
-timestamp <HH:MM DD MMM YYYY>	リストアするセーブセットのタイムスタンプを指定します。このオプションを -title オプションと組み合わせて使用すると、セーブセットIDを指定せずにリストア・セレクション・セットを作成できます。 月名はMMM形式で指定します(たとえば、「January(1月)」は「Jan」になります)。これらの名前は英語で指定します。 例: <code>-timestamp "19:25 21 Apr 2016"</code>
-include <パス>	リストアするパスを指定します。ツリー内の選択したアイテムの下位の各ノードの名前を、NetVault WebUIに表示されるとおりに指定する必要があります。各ノードは、クライアント・オペレーティング・システムに応じて、「/」または「\」で区切る必要があります。 メモ: リストア・セレクション・セットに -include と -rename の両オプションを使用する場合は、前者を最初に指定する必要があります。
-exclude <パス>	リストア時に除外するパスを指定します。このパスは、バックアップ時に含めるパス(include/パス)と同じように指定する必要があります。このオプションは、すでに包含対象として指定されているアイテムの下位に表示されているアイテムを除外するときのみ使用します。

表68. リストア・セレクション・セット

オプション	説明
-rename <パス> =<新しい名前またはパス>	<p>リストア・アイテムの名前変更または移動を実行します。</p> <p>名前変更と移動を組み合わせたこともできますし、一方だけを単独で使用することもできます。場所を変更せずにアイテム名を変更する場合は、新しい名前のみを指定します。アイテムを移動する場合は、フル・パスを指定します。</p> <p>データを別のパスに移動する場合は、コマンドを実行する前に、ターゲット・マシン上に移動先のパスが存在していることを確認します。</p> <p>例:</p> <ul style="list-style-type: none"> 名前変更のみ: -rename /usr/joe/diary=diary.old 移動のみ: -rename /usr/joe/diary=/home/joe/diary 名前変更と移動: -rename /usr/joe/diary=/home/joe/diary.old
-restoreoption <オプション=値>	<p>ジョブの リストア・オプションを指定します。</p> <p>このオプションを使用するには、設定するオプションの「タグID」が必要です。タグIDには、CLIが認識するバックアップ・オプション名か、NetVaultによってオプションに割り当てられている数値のいずれかを指定できます。これらの値はどちらも、nvsetmodify.cfgファイルの[プラグイン・オプション]セクションでグループ分けされています。</p> <p>このオプションの指定時の形式は、以下のとおりです。</p> <p>-restoreoption <Tag ID=value></p>
-restoretargt <クライアント>	<p>ターゲット・クライアントの名前を指定します。</p> <p>デフォルトでは、アイテムはバックアップ元と同じクライアントにリストアされます。別のクライアントへデータをリストアする場合は、選択したプラグインがそのクライアントにインストールされていることを確認します。</p>
-info <パス=値[:値[:...]]>	<p>セレクション・ツリー内のノードに結合されるプラグイン情報オブジェクトを指定します。値のタイプと順序は、プラグインによって異なります。詳細については、テクニカル・サポートにお問い合わせください。</p>

例

- 次の例では、*Plug-in for FileSystem* を使用して、セーブセット ID 「320」 からデータをリストアするリストア・セレクション・セット「restorebig」を作成しています。データは、クライアント「isp9039」からバックアップされたものです。このセットには、リストア対象としてディレクトリ「/a1」を除くボリューム全体が含まれます。また、ファイル「document」は「/usr/var」ディレクトリから「usr/tmp」ディレクトリに移動されます。最後に、[最新ファイルを上書き] リストア・オプションを有効にしています。

```
nvsetcreate -setname restorebig -type RS -client isp9039 -plugin "File System"
-saveset 320 -include "/" -exclude /a1
-rename /usr/var/document=/usr/tmp/document
-restoreoption NVFSOPT_OVERNEW=TRUE
```

- 次の例では、**-timestamp** オプションを使用して、リストア・セレクション・セットを作成しています。

```
nvsetcreate -setname fs_time -client Client-A -type RS -plugin "File System"
-title fs_full -timestamp "19:25 21 Apr 2016" -include c:\testdata\small\data
```

バックアップ・オプション・セット

オプション

表69. バックアップ・オプション・セット

オプション	説明
-client <クライアント>	バックアップするNetVaultクライアントの名前を指定します。
-plugin <プラグイン名>	バックアップに使用するプラグインの名前を指定します。NetVault WebUIに表示されるプラグイン名を指定する必要があります。 例: <code>-plugin "File System"</code>
-backupoption <option=value>	ジョブのバックアップ・オプションを指定します。 このオプションを使用するには、設定するオプションの「タグID」が必要です。タグIDには、CLIが認識するバックアップ・オプション名か、NetVaultによってオプションに割り当てられている数値のいずれかを指定できます。これらの値はどちらも、 nvsetmodify.cfg ファイルの[プラグイン・オプション]セクションでグループ分けされています。 このオプションの指定時の形式は、以下のとおりです。 <code>-backupoption <Tag ID>=<Value></code> 複数バックアップ・オプションを指定する方法: <code>-backupoption <Tag ID>=<Value> -backupoption <Tag ID>=<Value> ...</code> 例: <code>-backupoption NTFSOPT_SHADOW_COPY=true -backupoption NTFSOPT_TYPEFULL=true -backupoption NTFSOPT_RESTARTABLE=true</code>
-backupoptionspath <パス>	バックアップ・オプション・パスを指定します。 このオプションは、プラグイン内のセクション・パスに応じて、プラグインで異なるバックアップ・オプション・ページを指定できる場合にのみ適用されます。このオプションは、セクション・パスから特定のバックアップ・オプション・ページを指定する場合に使用できます。

例

- Plug-in for *FileSystem* を使用して増分バックアップを実行するバックアップ・オプション・セットを作成します。

```
nvsetcreate -setname FSOptions -type BO -client WinClient  
-plugin "File System" -backupoption NTFSOPT_TYPEINCR=true
```

- Plug-in for *FileSystem* を使用してフル・バックアップを実行するバックアップ・オプション・セットを作成します。バックアップは再開可能として設定する必要があります。

```
nvsetcreate -setname FSOptions2 -type BO -client WinClient  
-plugin "File System" -backupoption NTFSOPT_TYPEFULL=true -backupoption  
NTFSOPT_RESTARTABLE=true
```

スケジュール・セット

オプション

表70. スケジュール・セット

オプション	説明
-schedule <値>	スケジュール・タイプを指定します。サポートされている値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• immediate• once• repeating• triggered
-time <hh:mm>	ジョブの開始時刻を指定します。
-date <DD-MMM-YYYY>	スケジュールが有効になる日付を指定します。
-weekdays <ddd[,ddd[,...]]>	ジョブを実行する曜日を指定します。 例: -weekdays Mon, Tue, Wed, Thu, Fri
-weeks <n[,n[,...]]>	ジョブを実行する月の週を指定します。月の最後の週を指定するには、「L」を使用します。 例: -weeks 1, 3 L
-monthdays <n[,n[,...]]>	ジョブを実行する月の日を指定します。月の最後の日を指定するには、「L」を使用します。 例: -monthdays 7, 14, 21, L
-every <n-期間>	ジョブを実行する間隔を指定します。時間数、日数、週数、または月数で指定します。数値と期間を区切るには、ハイフン(-)を使用します。 例: -every 12-month
-trigger <トリガ>	トリガ設定されたジョブを実行するトリガの名前を指定します。
-priority <数値>	ジョブの優先度レベルを指定します。このオプションは、2つ以上のジョブを同時に実行するようスケジュールするとき、リソース割り当ての優先度付けに使用します。優先度レベルは、1(最高優先度)~100(最低優先度)の任意の値に設定できます。優先度レベル0を指定すると、ジョブをバックグラウンド・タスクとして実行するように設定されます。このオプションのデフォルト値は30です。
-retry <ブール値>	ジョブの最初の実行に失敗した後のジョブの再試行を有効または無効にします。ジョブの再試行を有効にするには、「TRUE」に設定します。このオプションのデフォルト値は「FALSE」に設定されています。
-retries <数値>	ジョブの最大再試行回数を指定します。1~10の任意の値に設定できます。このオプションは、-retryが「TRUE」に設定されている場合のみ有効です。このオプションのデフォルト値は1です。
-retrydelay <hh:mm>	再試行の間の遅延時間を指定します。0:00~23:59の任意の値に設定できます。このオプションは、-retryが「TRUE」に設定されている場合のみ有効です。デフォルトでは、-retryが「TRUE」に設定されており、このオプションが設定されていなければ、ジョブは即座に実行されるようスケジュールされます。

例

- 毎月、最終火曜日の午後 11:30 にジョブを起動するスケジュール・セット「EveryLastTuesday」を作成します。

```
nvsetcreate -type S -setname EveryLastTuesday -schedule repeating -time 23:30 -weekdays tue -weeks L
```


バックアップ・ターゲット・セット

オプション

表71. バックアップ・ターゲット・セット

オプション	説明
-device <device>	ターゲット・デバイスまたはライブラリの名前を指定します。このオプションは、コマンド内で2回以上使用できます。このオプションのデフォルト値は「Any Device」です。
-librarydrivenumber <n>	ターゲット・ドライブを指定します。このオプションの前に -device オプションを指定する必要があります。 -librarydrivenumber オプションを使用して、別々に使用できる各ドライブを指定します。
-anymedia	メディア・グループの関連付けに関係なく、任意のメディアを使用します。このオプションを指定しない場合は、グループに属するメディア・アイテムのみが使用されます。
-mid <MID>	指定したメディアIDを持つメディアを使用します。
-group <media group>	指定したメディア・グループに関連付けられたメディアを使用します。
-autolabel <value>	ブランクのメディアにラベルを付けます。使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。このオプションのデフォルト値は「TRUE」に設定されています。
-bestfordedupe <value>	最適な重複排除のためにターゲットの選択を最適化します。使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。このオプションのデフォルト値は「TRUE」に設定されています。
-reusemedia <value>	メディアの再利用について指定します。このオプションに使用できる値は、次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none">• never: メディアを再利用しません• any: 任意のメディアを再利用します• group: グループに属する任意のメディア・アイテムを再利用します
-minimumspace <value>	バックアップに使用するために、メディア・アイテムに必要な最小限の空き領域を指定します。MB単位で指定します。
-protectmedia <value>	メディアを書き込み禁止にします。使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。このオプションのデフォルト値は「FALSE」に設定されています。
-firstonmedia <value>	メディア上の最初のバックアップかどうかを管理します。使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。このオプションのデフォルト値は「FALSE」に設定されています。
-localdrivesonly <value>	ローカルに接続されたデバイスのみ許可します。使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。このオプションのデフォルト値は「FALSE」に設定されています。
-mediarequesttime out <value>	メディア要求タイムアウトの設定を可能にします。使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。このオプションのデフォルト値は「FALSE」に設定されています。
-mediarequesttime outvalue <hh:mm>	メディア要求のタイムアウト間隔を指定します。0:05~23:59の任意の値に設定できます。このオプションは、 -mediarequesttime out が「TRUE」に設定されている場合のみ有効です。 設定可能な最小タイムアウト間隔は5分です。00:05分未満の値を指定すると、エラーが表示されます。指定した値は、5分間隔で最も近い値に自動的に切り上げられます。たとえば、7分は10分に、22分は25分に、自動的に変更されます。

例

- ライブラリ「MyDltLib」のドライブ 3 またはドライブ 4 を使用するバックアップ・ターゲット・セットを作成します。このセットは、グループに関係なく、任意のメディアに書き込み、必要に応じて、自動的にメディアのラベル付けまたは再利用を実行します。

```
nvsetcreate -type BT -setname Drive4 -device MyDltLib -librarydrivenumber 3
-librarydrivenumber 4 -anymedia -autolabel TRUE -reusemedia any
```

バックアップ詳細設定セット

オプション

表72. バックアップ詳細設定セット

オプション	説明
-backuptype <value>	バックアップ・タイプ(バックアップまたはアーカイブ)を指定します。
-discardtime <interval>	バックアップを保持する期間を指定します。指定期間が経過すると、バックアップは自動的に破棄されます。この期間は、日数、週数、または年数で指定できます。 例: -discardtime 26-weeks
-backuplife <value>	ジョブ用に保持するフル・バックアップの数を指定します。古いバックアップは自動的に破棄されます。
-encryption <value>	バックアップの暗号化を有効にします。使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。このオプションのデフォルト値は「FALSE」に設定されています。
-verify <value>	バックアップの検証を実行します。使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。このオプションのデフォルト値は「FALSE」に設定されています。
-deduplicate <value>	バックアップ・データの重複を排除します。使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。このオプションのデフォルト値は「FALSE」に設定されています。
-netcompress <value>	NetVaultクライアントとサーバー間で転送されるデータのネットワーク圧縮を有効にします。使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。このオプションのデフォルト値は「FALSE」に設定されています。
-dontcatalog <value>	選択したセーブセットのバックアップをカタログ化から除外します。使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。このオプションのデフォルト値は「FALSE」に設定されています。
-secondarycopy <value>	セカンダリ・コピーを作成します。使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。このオプションのデフォルト値は「FALSE」に設定されています。
-duplicate <value>	複製方式を使用してセカンダリ・コピーを作成します。使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。このオプションのデフォルト値は「FALSE」に設定されています。
-datacopy <value>	データ・コピー方式を使用してセカンダリ・コピーを作成します。使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。このオプションのデフォルト値は「FALSE」に設定されています。
-encryptsecondary copy <value>	セカンダリ・コピーを暗号化します。使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。このオプションのデフォルト値は「FALSE」に設定されています。
-migrate <value>	セカンダリ・コピーが作成された後、元のバックアップを削除します。使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。このオプションのデフォルト値は「FALSE」に設定されています。

表72. バックアップ詳細設定セット

オプション	説明
-usereplication <value>	<p>データ・コピー操作または複製操作の際に、同一タイプのデバイス間で、複製したデータの転送を有効にします。使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。このオプションのデフォルト値は「TRUE」に設定されています。</p> <p>レプリケーションによりセカンダリ・コピーを効率的に作成することができます。また、以下の利点があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 重複排除形式でデータをコピーします。これにより、ネットワーク経由で転送されるデータ量が大幅に軽減されます。 NetVaultサーバーのリソースを使用せずに、レプリケーション元からレプリケーション先に直接データをコピー可能です。 <p>以下のストレージ・デバイスが、最適レプリケーションをサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> Quest NetVault SmartDiskデバイス:レプリケーションの最適化を実行するには、NetVault SmartDisk 2.0以降が必要です。 <p>レプリケーション元およびレプリケーション先のQuest NetVault SmartDiskサーバーに設定されているログイン認証情報が一致しないと、レプリケーションに失敗します。レプリケーションを成功させるには、次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 両方のQuest NetVault SmartDiskサーバーでWebDAV認証を無効にします。 ソースのみWebDAV認証を有効にします。 両方のサーバー上で同じログイン認証情報を設定します。 <p>メモ: Quest NetVault SmartDiskから他のデバイス・タイプ(例: VTL、Quest DR Series システム、またはData Domainシステム)にバックアップをコピーする際には、このチェック・ボックスを選択解除する必要があります。このチェック・ボックスを選択解除しないと、データ・コピーまたは複製ジョブは、失敗するか応答しくなくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> Quest DR Seriesシステム:最適化したレプリケーションを実施するには、ソースおよびターゲットのQuest DR Seriesシステムの両方で、同じリリース・バージョンのDR OSが稼働している必要があります。異なるリリースのOSが稼働しているシステム間でのレプリケーションはサポートされていません。 <p>たとえば、DR OS 2.1.xが稼働しているソース・システムからデータをレプリケートするには、ターゲット・システムでも同じリリースのOSが稼働している必要があります。ターゲット・システムでDR OSリリース2.0.xまたは3.0.xが稼働している場合、レプリケーションは失敗します。</p> <p>メモ: Quest DR Seriesシステム上で最適化されたレプリケーションとバックアップを同時に実行すると、バックアップのスループットが低下します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Quest QoreStor DD Boost対応のData Domainシステム:2つのDD Boost対応Data Domainシステム間でのセカンダリ・コピー・バックアップで、DD Boostが提供する管理ファイル・レベルの複製機能を使用します。 <p>ファイル・レベルのレプリケーションには、DD Boost Replicatorライセンスが必要です。このライセンスは、レプリケーション元およびレプリケーション先の両方のData Domainシステムにインストールする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ソースとターゲットのData Domainシステムで稼働しているData Domain OSのバージョンが異なる場合にレプリケーションを成功させるには、ターゲット・システム側で上位バージョンのOSを稼働する必要があります。
-duplicateclient <value>	<p>セカンダリ・コピー・ジョブを実行するNetVaultクライアントの名前を指定します。Server、Original、または任意のNetVaultクライアントを指定できます。</p>
- duplicatescheduleset <set name>	<p>セカンダリ・コピーのスケジュール・セットの名前を指定します。</p>
-duplicateclient <set name>	<p>セカンダリ・コピーのターゲット・セットの名前を指定します。</p>

表72. バックアップ詳細設定セット

オプション	説明
-duplicatesource <set name>	セカンダリ・コピーのソース・セットの名前を指定します。
-allowstreamstoshare media <value>	ストリームによるメディアの共有を可能にします。使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。このオプションのデフォルト値は「FALSE」に設定されています。このオプションは、 -secondarycopy が「TRUE」に設定されている場合のみ有効です。
-duplicatelife <interval>	セカンダリ・コピーの保存期間を指定します。このオプションを省略すると、(-discardtime オプションで指定した)オリジナルの保存期間が使用されます。
-offlineindexafter <interval>	オンライン・インデックスの保存期間を指定します。指定期間が経過すると、バックアップ・インデックスは自動的にNetVaultデータベースから削除されます。この期間は、日数、週数、または年数で指定できます。 例: -offlineindexafter 2-days -offlineindexafter 24-weeks
-prescript <script name>	ジョブを開始する前に実行するスクリプトの名前を指定します。このファイルはNetVaultの「scripts」ディレクトリに格納しておく必要があります。
-prescriptarg <arg>	スクリプトの実行時パラメータを指定します。
-postscript <script name>	ジョブが完了する前に実行するスクリプトの名前を指定します。このファイルはNetVaultの「scripts」ディレクトリに格納しておく必要があります。
-postscriptarg <arg>	スクリプトの実行時パラメータを指定します。
-eventsuccess <arg>	ジョブが正常に完了したときに発生させるイベント。
-eventwarning <arg>	ジョブが警告付きで終了したときに発生させるイベント。
-eventfailure <arg>	ジョブが失敗したときに発生させるイベント。
-secmediatimeout <mins>	メディア要求のタイムアウト間隔を指定します。 このオプションのデフォルト値は、10分です。
-maxstreams <n>	生成可能なパラレル・ストリームの最大数。 このオプションのデフォルト値は1です。

例

- バックアップ寿命が5回のフル・バックアップに設定された詳細設定セット「AdvOptBU」を作成します。以下のコマンドは、ネットワーク圧縮とバックアップの検証を有効にし、「jobdone」というタイトルの後処理スクリプトを実行します。

```
nvsetcreate -type AB -setname AdvOptBU -backuplife 5 -netcompress TRUE
-verify TRUE -postscript jobdone
```

リストア詳細設定セット

オプション

表73. リストア詳細設定セット

オプション	説明
-netcompress <value>	NetVaultクライアントとサーバー間で転送されるデータのネットワーク圧縮を有効にします。使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。このオプションのデフォルト値は「FALSE」に設定されています。
-prescript <script name>	ジョブを開始する前に実行するスクリプトの名前を指定します。このファイルはNetVaultの「scripts」ディレクトリに格納しておく必要があります。

表73. リストア詳細設定セット

オプション	説明
-prescriptarg <arg>	スクリプトの実行時パラメータを指定します。
-postscript <script name>	ジョブが完了する前に実行するスクリプトの名前を指定します。このファイルはNetVaultの「scripts」ディレクトリに格納しておく必要があります。
-postscriptarg <arg>	スクリプトの実行時パラメータを指定します。
-eventsuccess <arg>	ジョブが正常に完了したときに発生させるイベント。
-eventwarning <arg>	ジョブが警告付きで終了したときに発生させるイベント。
-eventfailure <arg>	ジョブが失敗したときに発生させるイベント。

nvsetdelete

説明

セットを削除します。

構文

```
nvsetdelete -setname <Set Name> [-type <Set Type>] [-version]
```

オプション

表74. nvsetdelete

オプション	説明
-setname	削除するセットの名前を指定します。
-type	セット・タイプを指定します。以下のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • BS: バックアップ・セレクション・セット • BO: バックアップ・オプション・セット • S: スケジュール・セット • BT: バックアップ・ターゲット・セット • AB: バックアップ詳細設定セット • RS: リストア・セレクション・セット • AR: リストア詳細設定セット
-version	マシンにインストールされているNetVaultディストリビューションのビルド日付を表示します。

nvsetexport

説明

セットを出力ファイルにエクスポートします。

構文

```
nvsetexport [-setname <Set Name>] -type <Set Type> -file <Output File> [-version]
```

オプション

表75. nvsetexport

オプション	説明
-setname	エクスポートするセットの名前を指定します。
-type	セット・タイプを指定します。以下のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none">• BS: バックアップ・セレクション・セット• BO: バックアップ・オプション・セット• S: スケジュール・セット• BT: バックアップ・ターゲット・セット• AB: バックアップ詳細設定セット• RS: リストア・セレクション・セット• AR: リストア詳細設定セット
-file	出力ファイルの名前を指定します。
-version	マシンにインストールされているNetVaultディストリビューションのビルド日付を表示します。

例

- 以下のコマンドは、すべてのスケジュール・セットをファイル「schedules.nss」にエクスポートします。

```
nvsetexport -type S -file schedules.nss
```
- 以下のコマンドは、バックアップ・セレクション・セット「Blackbird」と「Robin」をファイル「bandr.nss」にエクスポートします。

```
nvsetexport -type BS -setname Blackbird -setname Robin - file bandr.nss
```

nvsetimport

説明

指定したセットを入力ファイルから NetVault サーバーにインポートします。

構文

```
nvsetimport -file <Input Filename> [-setname <Set Name>[=<new name>]]  
[-assign <Assignment Character>] [-version]
```

オプション

表76. nvsetimport

オプション	説明
-file	入力ファイルの名前を指定します。
-setname[=<newname>]	入力ファイルからインポートするセットの名前を指定します。複数のセットをインポートする場合は、 -setname オプションを使用して各セット名を個別に指定します。NetVaultへのインポート時に、各セットの名前を変更できます。 このオプションを省略すると、入力ファイルに記述されているすべてのセットがオリジナルのセット名のままインポートされます。 同名のセットが存在する場合は、上書きされます。
-assign	変更の説明で使用する代入演算子を指定します。デフォルトの代入演算子は「=」文字です。値に「=」文字が含まれる場合、このオプションを指定する必要があります。
-version	マシンにインストールされているNetVaultディストリビューションのビルド日付を表示します。

例

- 以下のコマンドは、ファイル「schedules.nss」からすべてのセットをインポートします。

```
nvsetimport -file schedules.nss
```
- 以下のコマンドは、ファイル「bandr.nss」からセット「Robin」をインポートし、インポートされたセットの名前を「Ptarmigan」に変更します。

```
nvsetimport -file bandr.nss -setname Robin=Ptarmigan
```
- 以下のコマンドは、ファイル「bandr.nss」からセット「Blackbird」をインポートし、インポートされたセットの名前を「b=k」に変更します。

```
nvsetimport -file bandr.nss -assign @ -setname Blackbird@b=k
```

nvsetmodify

説明

セットを修正します。

構文

```
nvsetmodify -setname <set name> -type <set type> -change <change description> [-parameters <parameter file>] [-assign <assignment character>] [-delimit <delimiter character>] [-version]
```

オプション

表77. nvsetmodify

オプション	説明
-setname	修正するセットの名前を指定します。
-type	セット・タイプを指定します。以下のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none">• BS: バックアップ・セレクション・セット• BO: バックアップ・オプション・セット• RS: リストア・セレクション・セット <p>nvsetmodifyユーティリティは、以下のセット・タイプをサポートしていません。</p> <ul style="list-style-type: none">• S: スケジュール・セット• BT: バックアップ・ターゲット・セット• AB: バックアップ詳細設定セット• AR: リストア詳細設定セット 上記のセットを修正するには、以下の方法を使用します。 <ul style="list-style-type: none">• nvsetcreateユーティリティを使用して、同じ名前で作成します。このユーティリティにより、既存のセットが上書きされます。• NetVault WebUIを使用してセットを修正します。
-change	変更内容を指定します。このオプションは、複数回使用できます。 <change description> 変数の書式は次のとおりです。 <pre><item>[:<field>][:<old value>]=<new value></pre> <p><item>には、次のいずれかの値を設定できます。</p> <p><field>には、アイテム内の修正するフィールドを指定します。</p> <p><old value>には、選択したアイテムの古い設定を指定します。</p> <p><new value>には、選択したアイテムの新しい設定を指定します。</p> <p>以下のアイテムを変更します。</p> <ul style="list-style-type: none">• tree: セレクション・ツリー内のアイテムを変更します。treeアイテムは、バックアップ・セレクション・セットとリストア・セレクション・セットにのみ適用されます。treeアイテムの場合、<field>変数には次のいずれかの値を設定できません。<ul style="list-style-type: none">– path: 詳細は、「path」を参照してください。– rename: 詳細は、「rename」を参照してください。– info: 詳細は、「info」を参照してください。– 含める<ノード名>または<ID>: 詳細は、「<Node Name>または<ID>」を参照してください。

表77. nvsetmodify

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> オプション: リストア・オプションを追加または修正します(プラグインでリストア・オプションが提供されている場合)。 <p>このオプションを使用するには、設定するオプションの「タグID」が必要です。タグIDには、CLIが認識するバックアップ・オプション名か、NetVaultによってオプションに割り当てられている数値のいずれかを指定できます。これらの値はどちらも、<code>nvsetmodify.cfg</code>ファイルの[プラグイン・オプション]セクションでグループ分けされています。</p> <p>このオプションの指定時の形式は、以下のとおりです。</p> <pre>Options:<Tag ID>=True/False</pre> Target: ターゲット・ツリー内のアイテムを変更します(リストア・セレクション・セットのみ)。 <p><field>変数を使用して、変更するタイプを指定します。指定可能な値は、有効なNetVaultクライアント名のみです。<new value>には、新しいターゲット・クライアントを指定します。</p>
	<p>メモ: <new value>変数を指定しないと、<old value>で選択または省略されている値はすべて、コマンドの実行時に選択解除されているものと見なされます。</p>
	<p>path</p> <p>クライアント名、プラグイン名、またはセレクション・パス内の単一のノードを変更します。パスを変更するには、<old value>変数と<new value>変数を次のように設定する必要があります。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> クライアント: <p><old value> = 現在のNetVaultクライアントの名前</p> <p><new value> = 新規のNetVaultクライアントの名前クライアントがNetVaultサーバーに追加されていることを確認します。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> プラグイン: <p><old value> = 現在のNetVaultプラグインの名前</p> <p><new value> = 新規のNetVaultプラグインの名前。セットが定義されているNetVaultサーバーまたはクライアントに新規のプラグインがインストールされていることを確認します。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> セレクション・パス: <p><old value> = プラグインのルート・ノードから変更するノードまでのフル・パス。パス区切り文字には、クライアントOSによって、バックスラッシュ(\)文字(Windowsの場合)またはスラッシュ(/)文字(Linux/UNIXの場合)を使用します。</p> <p><new value> = 新規ノードの名前</p>

表77. nvsetmodify

オプション	説明
	<p>例:</p> <p>Plug-in for <i>FileSystem</i>のバックアップ・セレクション・セットには、Windowsの次のセレクション・パスが含まれます。</p> <pre>Fixed Drives\C:\work\t1\dump\a</pre> <p>このパス内のディレクトリ「t1」を「t2」に変更する場合は、2つの変数を次のように設定します。</p> <pre><old value> = Fixed Drives\C:\work\t1 <new value> = t2</pre> <p>Linuxクライアントでは、Plug-in for <i>FileSystem</i>には事前定義のレベル3ノード（“Fixed Drives”や“Removable Drives”など）は含まれません。したがって、Linux/UNIXクライアント上の同様のセレクションには、次のノードが含まれません。</p> <pre>/work /t1/dump/a</pre> <p>このパス内のディレクトリ「t1」を「t2」に変更する場合は、2つの変数を次のように設定します。</p> <pre><old value> =/work/t1 <new value> =t2</pre>
	<p>rename</p> <p>リストア・セレクション・セットに対して、名前変更または移動コマンドの追加または変更を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 名前変更または移動コマンドを追加するには、2つの変数を次のように設定します。 <pre><old value> = 名前変更または移動ターゲットの現在の名前またはパス <new value> = 名前変更または移動ターゲットの新規の名前またはパス</pre> 既存の名前変更または移動コマンドを変更するには、2つの変数を次のように設定します。 <pre><old value> = 現在の名前変更/移動構文 <new value> = 新規の名前変更/移動構文</pre>
	<p>info</p> <p>セレクション・ツリーのノードに結合されるプラグイン情報オブジェクトを変更します。このオプションを使用するには、2つの変数を次のように設定します。</p> <pre><old value> = プラグインのrootノードからアプリケーション・アイテムまでのフル・パス。 <new value> = コロン(:)で区切られた、プラグイン情報オブジェクトの新規の値。変更しないフィールドがある場合は、新規の値として二重コロン(::)を指定します。</pre>
	<p><Node Name>または<ID></p> <p>バックアップまたはリストア・ジョブにアイテムを含めます。CLIによって認識される「ノード名」またはNetVaultによってノードに割り当てられた数値「ID」のどちらかを指定します。どちらの値もnvsetmodify.cfgファイルの[Tree Nodes]セクションの下にまとめて記述されています。</p> <p>このオプションを使用するには、2つの変数を次のように設定します。</p> <pre><old value> = 現在のノードのノード名またはノードID。ターゲットNetVaultクライアントのセレクション・ツリーに指定したタイプのノードが複数含まれている場合は、ノードIDの代わりにノード名を指定します。 <new value> = 新規ルート・ノードのノード名またはノードID。</pre>

表77. nvsetmodify

オプション	説明
-parameters	<p>パラメータ・ファイルからオプションを読み取ります。</p> <p>パラメータ・ファイルは、任意のテキスト・エディタを使用して作成できます。1行に1つのオプションとその値を指定し、オプションの前の「-」は省略します。オプションと値を区切るには、スペースまたはタブを使用します。コメントを含めるには、その行の先頭に「#」文字を付けます。</p> <p>例:</p> <pre># nvsetmodify example file setname BackSet1 type BS</pre> <p>このファイルは、次のように、-parametersオプションと併用できます。</p> <pre>./nvsetmodify -parameters example.txt</pre>
-assign	<p>変更の説明で使用する代入演算子を指定します。デフォルトの代入演算子は「=」文字です。古い値または新しい値に「=」文字が含まれている場合、このオプションを指定する必要があります。</p>
-delimit	<p>変更の説明で区切り文字として使用する文字を指定します。デフォルトの区切り文字は「:」文字です。古い値または新しい値に「:」文字が含まれている場合、このオプションを指定する必要があります。</p>
-version	<p>マシンにインストールされているNetVaultディストリビューションのビルド日付を表示します。</p>

例

- 以下のコマンドは、NetVault クライアントを「Client-A」から「Client-B」に変更するように、バックアップ・セレクション・セット「BS-Set1」を変更します。

```
nvsetmodify -setname BS-Set1 -type BS -change Tree:path:Client-A=Client-B
```

- 以下のコマンドは、プラグインを「File System」から「Data Copy」に変更するように、バックアップ・セレクション・セット「BS-Set1」を修正します。

```
nvsetmodify -setname BS-Set1 -type BS -change "Tree:path:File System=Data Copy"
```

- 以下のコマンドは、セレクション・パス「Fixed Drives\C:\work\t1\dump\」のディレクトリ「t1」を「t2」に変更するように、バックアップ・セレクション・セット「BS-Set1」を修正します。

```
nvsetmodify -setname BS-Set1 -type BS
-change "Tree@path@Fixed Drives\C:\work\t1=t2" -delimit @
```

この例では、パスにデフォルトの区切り文字である「:」が含まれているため、**-delimit** オプションを使用して「@」を区切り文字として設定しています。

- 以下のコマンドは、セレクション・パス「/work/t1/dump/a」のディレクトリ「t1」を「t2」に変更するように、バックアップ・セレクション・セット「BS-Set1」を修正します。

```
nvsetmodify -setname BS-Set1 -type BS -change "Tree:path:/work/t1=t2"
```

- 以下のコマンドは、セレクション・パス「Fixed Drives\C:\work\t1\dump\」のドライブ・ノード「C:\」を「D:\」に変更するように、バックアップ・セレクション・セット「BS-Set1」を修正します。

```
nvsetmodify -setname BackupSetName -type BS
-change "Tree@path@Fixed Drives\C:\=D:\\"-delimit @
```

この例では、新規の値 D:\ にバックスラッシュを余分に1つ追加して、最初のバックスラッシュ文字をエスケープしています。このバックスラッシュを追加しないと、D:\ という文字シーケンスは、D:\ と解釈されます。なぜなら、最初のバックスラッシュが引用符 (") のエスケープに使用されるからです。

- 以下のコマンドは、ネットワーク共有のパスを「\\Server1\」から「\\Server2\」に変更するように、バックアップ・セレクション・セット「BS-Set1」を修正します。

```
nvsetmodify -setname BackupSetName -type BS
-change "Tree@path@Network Shares\\Server1\=\\Server2\" -delimiter @
```

- 以下のコマンドは、「Fixed Drives」ノードを「Removable Drives」に変更するように、バックアップ・セレクション・セット「BS-Set1」を修正します。

```
nvsetmodify -setname BackupSetName -type BS
-change "Tree:path:Fixed Drives=Removable Drives"
```

i **メモ** : Plug-in for *FileSystem* (Windowsのみ)、およびその他のいくつかのプラグイン (Plug-in for *Consolidation*、Plug-in for *Data Copy*、Plug-in for *Databases*、および Plug-in for *Raw Devices*) には、事前定義のレベル3ノードが含まれます。これらのノードの正式名は、NetVault WebUIで取得できます。ユーザー・エラーを防ぐため、**nvsetmodify** ユーティリティでは、レベル3ノードに指定された新規の値が正しいかどうかをチェックします。これらのノードに間違っただけの値を指定すると、エラー・メッセージが表示されます。レベル3より下位のノードについては、正しいかどうか、存在するかどうかのチェックは行われません。

- 以下の変更を行うように、(Plug-in for *FileSystem* 用に作成された) リストア・セレクション・セット「RestoreSet1」を修正します。
 - ターゲット・クライアントを「WinClient1」から「WinClient2」に変更
 - ディレクトリ「C:\Mail」を「C:\MyMail」に移動
 - 「最新ファイルを上書き」リストア・オプションを設定

```
nvsetmodify -setname RestoreSet1 -type RS
-change target:client:WinClient1=WinClient2
-change options:nvfs_opt_overnew=true -change @tree@path@c:\mail=c:\MyMail
```

nvtrigger

説明

Triggered スケジュール・オプションを使用して定義および保存されているジョブをトリガします。

このユーティリティは **bin** ディレクトリにあります。

構文

```
nvtrigger [-server <server name>] [-wait] [-verbose] [-killonexit] <trigger name>
```

オプション

表78. nvjobstart

オプション	説明
-servername	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-wait	タスクが完了するまで待機します。

表78. nvjobstart

オプション	説明
-verbose	ジョブの開始および終了時に追加情報を表示します。 ジョブの開始時には、ジョブID、インスタンスID、ジョブ・タイトル、開始時刻などの詳細情報が表示されます。ジョブの終了時には、終了時刻が表示されます。
-killonexit	トリガ実行を終了してジョブを中止します。このオプションは、-waitオプションと共に使用する必要があります。
<trigger name>	トリガ名を指定します。次の例に示すとおり、ツールを呼び出す際に、このオプションを最後に指定する必要があります。 nvtrigger -server <server name> -wait -verbose -killonexit <triggername>

注意

- **nvtrigger** ユーティリティは、関連付けられているジョブが完了すると、次の終了コードとメッセージを返します。
 - 0: バックアップの完了
 - 1: バックアップが失敗した
 - 2: バックアップが警告と共に完了
 - 3: バックアップの中止
- **-wait** オプションを指定しない場合、**nvtrigger** ユーティリティは複数のジョブをサポートできます。このオプションを指定した場合、このユーティリティを使用してトリガできるのは1つのジョブだけです。この制限は、**-wait -killonexit** オプションにも適用されます。したがって、複数のジョブ定義を含むポリシー・ジョブにこのオプションを使用することはできません。
- **-wait** オプションをスクリプトで指定すると、トリガされたジョブの完了後にのみ、スクリプトに制御が戻ります。このオプションを指定しないと、トリガされたジョブが実行中であっても、スクリプトに即座に制御が戻ります。

ログ固有ユーティリティ

- [nvlogdump](#)
- [nvlogpurge](#)
- [nvreadlog](#)

nvlogdump

説明

NetVault ログをテキスト・ファイルまたはバイナリ・ファイルにダンプします。

構文

```
nvlogdump [-jobid <Job ID>] [-filename <Dump File>] [-text]
[-starttime <Start Time>] [-endtime <End Time>]
```

オプション

表79. nvlogdump

オプション	説明
-jobid	ログのエクスポートの対象となるジョブIDを指定します。
-filename	ログのエクスポート先のファイルの名前を指定します。 選択したダンプ形式に応じて、<NetVault home>\logs\dumps (Windowsの場合)または<NetVault home>/logs/dumps (Linuxの場合)の binary または text ディレクトリにダンプ・ファイルが作成されます。 -filename オプションを省略すると、NetVaultでは、指定された形式で CLI_DUMP_<YYYYMMDD>_<HHMMSS> という名前のファイルが作成されます。バイナリ・ファイルには「.nlg」という拡張子が使用されます。テキスト・ファイルには「.txt」拡張子が使用されます。
-text	ログをテキスト形式でエクスポートします。テキスト・ファイルの拡張子は「.txt」です。このオプションを省略すると、ログはバイナリ形式で出力されます。
-starttime	ログ・ダンプの開始点として使用される時刻を指定します。開始時刻の書式は、 YYYYMMDDHHMMSS です。
-endtime	ログ・ダンプの終了点として使用される時刻を指定します。終了時刻の書式は、 YYYYMMDDHHMMSS です。

注意

このユーティリティを正しく使用するには、少なくとも、**jobid** オプション、または **starttime** オプションと **endtime** オプションの組み合わせを指定する必要があります。**jobid**、**starttime**、**endtime** の各オプションを組み合わせて指定することで、特定の期間内に生成された特定のジョブのログをダンプできます。

例

- 以下のコマンドは、ジョブ ID 50 の 2014 年 8 月 1 日 20 時 33 分 04 秒からのログをバイナリ・ファイル「nvlogdump.nlg」にダンプします。

```
nvlogdump -filename c:\temp\nvlogdump -starttime 20140801203304 -jobid 50
```

nvlogpurge

説明

指定された時刻までのログ・エントリをページします。

構文

```
nvlogpurge -purgetime <End Time>
```

オプション

表80. nvlogpurge

オプション	説明
-purgetime	ログ・ページの終了点として使用される時刻を指定します。ページ時刻の書式は、YYYYMMDDHHMMSSです。

nvreadlog

説明

ログ・メッセージを表示します。

構文

```
nvreadlog [-h] [-b <days>] [-m] [-d <delimiter string>] [-o <messages>]
```

オプション

表81. nvreadlog

オプション	説明
-h	履歴ログ・メッセージを出力後、終了します。
-b	開始日を指定します。現在の日付までの日数で指定します。
-m	<p>-bオプションで指定した日数だけ前の午前0時からのログを出力します。このオプションは、-bオプションと組み合わせて使用する必要があります。</p> <p>たとえば、今日の午後3時に-b 1と指定すると、昨日の午後3時からのログが出力されます。-mオプションを指定すると、昨日の午前0時からのログ・メッセージが出力されます。</p> <p>-mオプションを指定して、-bオプションを省略する、または-b 0と指定すると、今日の午前0時からのログ・メッセージが出力されます。このコマンドを午後3時に発行した場合、15時間分のログが出力されることになります。</p>
-d	区切り文字として使用する1文字または複数の文字を指定します。たとえば、 -d の後に2つのスペースを指定すると、表示される各アイテムが2文字分のスペースで区切られます。
-o	<p>特定のメッセージを表示します。たとえば、-o failedと指定すると、failedが含まれたメッセージのみが表示されます。</p> <p>カンマを区切り文字として、複数の文字列を指定することもできます。</p>

注意

- **-h** はコマンド・オプションであるため、このコマンドのヘルプを表示するには、フル・コマンドの **-help** を使用します。

```
nvreadlog -help
```

その他のユーティリティ

- `bonedate`
- `getmachineid`
- `installplugin`
- `licenseinstall`
- `nvlicenseinfo`
- `nvmeddbcheck`
- `nvpassword`
- `nvpluginpreconfig`
- `nvpluginaccess`
- `nvpgdbpasswd`
- `nvreport`
- `nvscheddbcheck`
- `nvsendmail`
- `nvsendopmsg`
- `nvtrace`

bonedate

説明

現在のマシンで使用されている NetVault 日時を表示します。この情報は、NetVault Time サーバーとして設定されているマシンから取得されます。NetVault Time についての詳細は、『*Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド*』を参照してください。

構文

```
bonedate
```

getmachineid

説明

このユーティリティが現在実行されている NetVault サーバーまたはクライアントのマシン ID を取得します。マシン ID は、NetVault 製品の永久ライセンスを取得する際に必要です。

構文

```
getmachineid
```

installplugin

説明

サーバーまたはクライアント・マシンに、NetVault プラグインをインストールします。このユーティリティは `bin` ディレクトリにあります。

構文

```
installplugin <Full path to the .npk installation file>
```


注意

- 必ず、“**.npk**” インストール・ファイルのフル・ファイル・パスを指定します。パスにスペースが含まれている場合は、パス全体を引用符 (“”) で囲みます。

licenseinstall

説明

製品のライセンスをインストールします。このユーティリティは **bin** ディレクトリにあります。

構文

```
licenseinstall <license file in .div format>
```

nvlicenseinfo

説明

NetVault サーバーのライセンス情報を表示します。

構文

```
nvlicenseinfo
```

nvmeddbcheck

説明

メディア・データベースの構造、エンティティ、および参照の整合性を検証します。以下の内容がチェックされます。

- RAW ファイルの構造
- データベース・テーブルの整合性
- テーブル間の参照と依存性

構文

```
nvmeddbcheck List  
nvmeddbcheck Check [-v <warning level>]  
nvmeddbcheck Compact [-v <warning level>] [-f]
```

オプション

表82. nvmeddbcheck

オプション	説明
List	<p>Mediaデータベースに保存されているさまざまなレコードを一覧表示します。出力には、以下のアイテムが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none">• 新しいストリーム• セッション• 古いストリーム• メディア・アイテム• Segments• バックアップ・インデックス• リタイアしたRASセグメント• リタイアしたRASインデックス <p>このオプションは、削除するレコードを判断するときに使用できます。</p>
Check	<p>データベースのチェックを実行し、ステータスを表示します。このオプションとともに -v を使用して、表示されるメッセージの最低重要度レベルを指定することができます。</p>
-v	<p>表示されるメッセージの最低重要度レベルを指定します。-vには以下の値を指定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none">• all:すべてのメッセージ• back:バックグラウンド・メッセージ• inf:情報メッセージ• job:ジョブ・メッセージ• warn:警告• error:エラー• severe:重大なエラー <p>重要度レベルを設定すると、そのレベル以上のメッセージのみが表示されます。</p>
Compact	<p>データベース・チェックを実行し、チェック・フェーズ中に特定された不整合エントリと無効エントリを削除します。このオプションとともに -v オプションと -f オプションを使用できます。-vでは、表示されるメッセージの最低重要度レベルを指定できます。-fでは、リタイアしたRASセグメントとRASインデックスをページできます。</p>
-f	<p>リタイアしたRASセグメントとRASインデックスをMediaデータベースからページします。このオプションは、Compactオプションを選択した場合にのみ利用できます。</p>

注意

- このユーティリティを使用して、廃止されたセッション記録を確認し削除することもできます。

nvpassword

説明

このユーティリティが現在実行されているサーバー / クライアントの NetVault パスワードを変更します。このユーティリティは **<NetVault home>\bin** ディレクトリに格納されています。

構文

```
nvpassword <new password>
```

注意

- NetVault パスワードに以下の文字を含めないでください。

\ およびスペース

CLI が必要なパスワードを適切に受信するように、特殊文字をエスケープします。たとえば、パスワードが `<>&#|/'*:.-`() [] {$@?`` の場合は、次のように入力します。

Linux シェルの場合：`\<\>\&#\|/'*:.-`()\ [] {\}\$@?`

Windows コマンド・プロンプトの場合：`"<>&#|/'*:.-`() [] {$@?"`.

nvpluginpreconfig

説明

nvpluginpreconfig ユーティリティを使用すると、NetVault Plug-in for MySQL および NetVault Plug-in for SQL Server の設定をコマンドライン・インターフェイスから作成または変更できます。このユーティリティは、NetVault サーバーまたはクライアント上で実行することができます。特定のプラグインの設定についての詳細は、該当するプラグインのユーザーズ・ガイドを参照してください。

構文

NetVault Plug-in for SQL Server

```
nvpluginpreconfig --client <Client Name> --plugin <Plugin Name> --mssqlloginmode  
<Mode of Login> --mssqlusername <Username> --mssqlpassword <Password> --  
mssqlwindomain <Domain>
```

NetVault Plug-in for MySQL

```
nvpluginpreconfig --client <Client Name> --plugin <Plugin Name> --mysqlinstancename  
<MySQL Instance Name> --mysqledition <MySQL Edition> --mysqlusername <Username> --  
mysqlpassword <Password> --mysqlbasedir <MySQL Base Directory> --mysqlbindir <MySQL  
Bin Directory> --mysqldumppath <MySQldump Path> --mysqlport <TCP Port> --  
mysqlcharset <Default Character Set> --mysqlbackupmethod <MyISAM Backup Method> --  
mysqlreplication <Enable or Disable replication> --mysqlreplikationslave <True or  
False> --mysqlreplicationmaster <True or False> --mysqlbinlogindexpath <Binary Log  
Index Path> --mysqlrelaybinlogindexpath <Relay Log Index Path> --mysqlbackuppath  
<MySQL Backup Path> --mysqlsocket <Socket>
```

オプション

表83. nvpluginpreconfig

オプション	説明
--plugin	設定するプラグインを指定します。 <ul style="list-style-type: none">• mssql: 設定するPlug-in for SQL Serverを指定します。• mysql: 設定するPlug-in for MySQLを指定します。

Plug-in for SQL Serverの設定用オプション

表83. nvpluginpreconfig

オプション	説明
--mssqlloginmode	ログイン・モードを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • windows: Windowsログイン・モード。 • sqlserver: SQL Serverログイン・モード。
Plug-in for MySQLの設定用オプション	
--mysqledition	エディションを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • standard: Standardエディション • enterprise: Enterpriseエディション
--mysqlcharset	次のいずれかのデフォルトの文字セットを指定します。 latin1、big5、dec8、cp850、koi8r、hp8、latin2、swe7、ascii、ujis、sjis、hebrew、tis620、euckr、koi8u、gb2312、greek、cp1250、gbk、latin5、armscii8、utf8、ucs2、cp866、keybcs2、macce、macromn、cp852、latin7、cp1251、cp1256、cp1257、binary、geostd8、cp932
--backupmethod	次のいずれかのバックアップ方法を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • lock • dump
--mysqlreplication	レプリケーションの「有効化」または「無効化」を指定します。使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。
--mysqlreplicationslave	使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。
--mysqlreplicationmaster	使用できる値は、「TRUE」または「FALSE」です。

例

- **Plug-in for SQL Server**

```
nvpluginpreconfig --client ClientA --plugin mssql --mssqlloginmode windows --
mssqlusername administrator --mssqlpassword mypassword --mssqlwindomain
prod.com
```

- **Plug-in for MySQL**

```
nvpluginpreconfig --client ClientA --plugin mysql --mysqlinstancename
INSTANCE1 --mysqledition \ standard --mysqlusername root --mysqlpassword
mypassword \
--mysqlbasedir "C:\Program Files\MySQL\MySQL Server 4.1" \
--mysqlbindir "C:\Program Files\MySQL\MySQL Server 4.1\bin" \
--mysqldumppath "C:\Program Files\MySQL\MySQL Server 4.1\bin\mysqldump.exe" \
--mysqlport 3306 --mysqlcharset latin1 --mysqlbackupmethod lock --
mysqlreplication false \
--mysqlreplicationslave true --mysqlreplicationmaster false \
--mysqlbinlogindexpath "C:\Program Files\MySQL\MySQL Server 4.1\index" \
--mysqlrelaybinlogindexpath "C:\Program Files\MySQL\MySQL Server 4.1\relay" \
--mysqlbackuppath "C:\Program Files\MySQL\MySQL Server 4.1\backup"
```

nvpluginaccess

説明

データベース関連のユーティリティ（たとえば、Informix の「onbar」、Oracle の「rman」など）を使用する必要があるプラグイン向けに、CLI バックアップおよび CLI ベースのレポートの生成を有効にします。詳細は、該当するプラグインのユーザーズ・ガイドを参照してください。

構文

```
nvpluginaccess [-remove -client <client names>] | [-client <client name>
[-account <account name> -password <account password>]]
```

オプション

表84. nvpluginaccess

オプション	説明
-client	NetVaultクライアントの名前を指定します。
-account	このコマンドで使用するNetVaultユーザー・アカウントの名前を指定します。 指定したユーザー・アカウントには、NetVaultでのすべての権限が与えられている必要があります。
-password	ユーザー・アカウントのパスワードを指定します。

nvpgdbpasswd

説明

このユーティリティを使用して、PostgreSQL データベース・スーパーユーザーのパスワードを変更できます。（パスワードは、NetVault サーバー・ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする際に初期設定されます。）

構文

```
nvpgdbpasswd store <password>
```

```
nvpgdbpasswd change <current password> <new password>
```

オプション

表85. nvpgdbpasswd

オプション	説明
store <パスワード>	<p>pgdb.cfgファイル(NetVault設定ファイル)に指定されているPostgreSQLデータベース・スーパーユーザーのパスワードを更新します。PostgreSQLデータベース自体のスーパーユーザー・パスワードは変更されません。更新されるのは、pgdb.cfgファイルだけです。</p> <p>PostgreSQLネイティブのツール(psqlユーティリティなど)を使用してデータベース内のパスワードを変更した後、このオプションを使用して設定ファイル内のパスワードを更新できます。</p>
change <現在のパスワード> <新しいパスワード>	<p>PostgreSQL DBおよびpgdb.cfgファイルの両方のデータベース・スーパーユーザー・パスワードを変更します。</p> <p>このオプションでは、現在のパスワードと新しいパスワードの両方を指定する必要があります。</p>

注意

- PostgreSQL データベース・スーパーユーザーのパスワードに以下の文字を含めることはできません。
 \ およびスペース
CLI が必要なパスワードを適切に受信するように、特殊文字をエスケープします。たとえば、パスワードが `<>&#|/'*:.-`() [] {}$@?` の場合は、次のように入力します。
Linux シェルの場合：`\<\>\&#\|/'*:.-`()\ [] {}\$@?`
Windows コマンド・プロンプトの場合：`"<>&#|/'*:.-`() [] {}$@?"`
- スーパーユーザー・パスワードを更新する前に、NetVault サービスを停止する必要があります。

nvreport

コマンドライン・インターフェイスから通常レポートを作成および表示できます。レポート機能の使用方法についての詳細は、「[nvreport ユーティリティの使用](#)」を参照してください。

nvscheddbcheck

説明

スケジューラ・データベースの構造、エンティティ、および参照の整合性を検証します。以下の内容がチェックされます。

- RAW ファイルの構造
- データベース・テーブルの整合性
- テーブル間の参照と依存性

構文

nvscheddbcheck List

nvsheddbcheck Check [-v <warning level>

オプション

表86. nvsheddbcheck

オプション	説明
List	Schedulerデータベースに保存されているさまざまなレコードを一覧表示します。出力には、以下のアイテムが含まれています。 <ul style="list-style-type: none">• 定期ジョブ• ポリシー・ジョブ• スケジュール済みフェーズ• ジョブ・インスタンス・データ・レコード• ジョブ・チェンジ・レコード このオプションは、削除するレコードを判断するときに使用できます。
Check	データベースのチェックを実行し、ステータスを表示します。
-v	表示されるメッセージの最低重要度レベルを指定します。-vには以下の値を指定することができます。 <ul style="list-style-type: none">• all:すべてのメッセージ• back:バックグラウンド・メッセージ• inf:情報メッセージ• job:ジョブ・メッセージ• warn:警告• error:エラー• severe:重大なエラー 重要度レベルを設定すると、そのレベル以上のメッセージのみが表示されます。

nvsendmail

説明

指定したアドレスに電子メールを送信します。

構文

```
nvsendmail [-d <dest_address>] [-r <real_name>] [-s <subject>] [-f <message_file>] [-a <attach_file>] [-m] [-n]
```

オプション

表87. nvsendmail

オプション	説明
-d	特定の受信者の電子メール・アドレスを指定します。
-r	特定の受信者の実名を指定します。
-s	電子メールの件名を指定します。
-f	送信する電子メール・メッセージ・ファイルを指定します。

表87. nvsendmail

オプション	説明
-a	送信する添付ファイルを指定します。添付ファイルのフルパスを指定します。
-m	MIMEフォーマットを強制的に使用します。
-n	必要なパラメータをホスト環境から取得する通知モードを指定します。

nvsendopmsg

説明

オペレータ・メッセージを送信します。

構文

```
nvsendopmsg [-n] [-test]
```

オプション

表88. nvsendopmsg

オプション	説明
-n	環境変数から通知を送信します。
-test	テスト・メッセージを送信します。

nvtrace

説明

このユーティリティを使用すると、以下のタスクを実行できます。

- 指定したマシンのトレースが有効か無効かを表示
- 指定したクライアントのトレースの有効化
- 指定した期間のトレースの開始と停止
- すべての現在のプロセスおよび新規プロセスのトレース・ファイルの生成
- 指定したプロセスのトレース・ファイルの生成
- 指定したクライアントのトレースの無効化

構文

```
nvtrace --status [--client <client_name>]
nvtrace --enable [--client <client_name>] [--startat <YYYYMMDDHHMMSS> [--stopat <YYYYMMDDHHMMSS>]] [--process <procid>[,<procid>, ...]]
nvtrace --disable [--client <client_name>]
```


オプション

表89. nvtrace

オプション	説明
--status	指定したマシンのトレースが有効か無効かを表示します。--statusオプションは、以下のオプションと組み合わせて使用できます。 <ul style="list-style-type: none">• --client: NetVaultクライアントを指定します。クライアント名を指定しない場合、サーバーのトレースのステータスが表示されます。
--enable	指定したマシンのトレースを有効にします。--enableオプションは、以下のオプションと組み合わせて使用できます。 <ul style="list-style-type: none">• --client: NetVaultクライアントを指定します。クライアント名を指定しない場合、NetVaultサーバーのトレースが有効になります。• --startat: トレースをマシンで開始する日時を指定します。このオプションの指定時の形式はYYYYMMDDHHMMSSです。• --stopat: トレースをマシンで停止する日時を指定します。このオプションの指定時の形式はYYYYMMDDHHMMSSです。 即座にトレースを開始する場合、--startatオプションと--stopatオプションを省略できます。• --process: トレース・ファイルが必要なプロセスを指定します。指定したプロセスのトレース・ファイルを生成するために、カンマ区切りのプロセスID番号のリストを指定できます。 すべての現在のプロセスおよび新規プロセスのトレース・ファイルを生成する場合は、このオプションを省略できます。
--disable	指定したマシンのトレースを無効にします。--disableオプションは、以下のオプションと組み合わせて使用できます。 <ul style="list-style-type: none">• --client: NetVaultクライアントを指定します。クライアント名を指定しない場合、サーバーのトレースが無効になります。

nvreport ユーティリティの使用

- nvreport ユーティリティについて
- レポート・クラス
- プレーン・テキストのテンプレート・ファイル
- レポートの書式設定
- 外部レポート・ファイルの作成
- HTML テンプレート・ファイル

nvreport ユーティリティについて

nvreport ユーティリティを使用すると、コマンドライン・インターフェイスから通常レポートを作成および表示できます。これらのレポートでは、バックアップ・ジョブおよびリストア・ジョブ、ストレージ・デバイス、クライアント、メディアの使用率、および NetVault のその他の要素に関する情報を提供します。

nvreport のヘルプにアクセスするには、次のように入力します。

```
nvreport -help
```

nvreport ユーティリティでは、「テンプレート」ファイルを使用してレポート・データを出力します。テンプレート・ファイルでは、レポートのコンテンツ、レイアウト、およびフォーマットを決定します。レポート・テンプレートは、<NetVault home>\reports\templates ディレクトリにあります。

レポートを作成するテンプレート・ファイルを指定するには、次の 2 とおりの方法があります。

- **実際のファイル名を使用する** : 「-templatefile」オプションを使用して、使用する実際のテンプレート・ファイルを指定できます。このオプションでは、テンプレート・ファイルの完全なファイル・パスを指定する必要があります。
- **「ナイス・ネーム」を使用する** : 各テンプレート・ファイルには「ナイス・ネーム」として知られる代替名の値があります。NetVault WebUI で、テンプレート・ファイルにこの名前を使用します。「-templatename」オプションを使用して「ナイス・ネーム」を指定します。

テンプレート・ファイルのヘルプにアクセスするには、次のように入力します。

```
nvreport -help templatename
```

構文

```
nvreport -server <server name> -class <class name> -templatename <template name>
```

```
nvreport -server <server name> -class <class name> -templatefile <full file path>
```

オプション

表90. nvreport

オプション	説明
-server	ジョブを管理するNetVaultサーバー名を指定します。 このオプションは、リモート・サーバーがジョブを管理する場合に必要になります。ジョブを管理するのがローカル・サーバーの場合は、このオプションを省略できます。サーバー名では、大文字と小文字を区別します。
-class	レポート・クラスを指定します。クラス名では、大文字と小文字は区別されません。クラスの主な目的は、個別のレポート・コンポーネントまたはテンプレート・ファイルをグループに分類することです。これらのテンプレート・ファイルを使用して、レポートを作成します。 -class オプションを使用してクラス名が指定されている場合に、レポートを実行するには、クラスに関連付けられているデフォルトのテンプレート・ファイルを使用します。 例: nvreport -class Clients 使用可能なレポート・クラスの詳細については、「 レポート・クラス 」を参照してください。
-templatename	テンプレート・ファイルの「ナイス・ネーム」を指定します。 例: nvreport -templatename "Client Machines - cli default template" 以下の点に注意します。 <ul style="list-style-type: none">「ナイス・ネーム」にスペースが含まれている場合は、引用符(“ ”)で囲みます。テンプレート・ファイルの「ナイス・ネーム」を検索するには、テキスト・エディタでファイルを開き、「%NICENAME」という行の文字列をメモします。 詳細は、「 プレーン・テキストのテンプレート・ファイル 」を参照してください。
-templatefile	テンプレート・ファイルの名前を指定します。このオプションでは、完全なファイル・パスを指定する必要があります。 例: nvreport -templatefile C:\NetVaultBackup\reports\templates\logslidefault 以下の点に注意します。 <ul style="list-style-type: none">レポート・テンプレートは、<NetVault home>\reports\templatesディレクトリにあります。ファイル・パスにスペースが含まれている場合は、引用符で囲みます。 詳細は、「 プレーン・テキストのテンプレート・ファイル 」を参照してください。

レポート・クラス

次の表では、NetVault で使用可能なレポート・クラスについて簡単に説明します。

表91. レポート・クラス

レポート・クラス	出力
Advanced Options	すべての詳細設定セットとその詳細を表示します。
Audits	特定のユーザー・アカウントによって試行されたすべての操作、その結果(許可された場合は「Yes」、拒否された場合は「No」)、および操作を試行した日時を表示します。

表91. レポート・クラス

レポート・クラス	出力
Backup Targets	すべてのバックアップ・ターゲット・セットとその詳細を表示します。
Client Groups	すべてのクライアント・グループを一覧表示します。このレポートでは、以下が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> グループ名 グループの説明 すべての現在のクライアントがこのグループのメンバであるかどうか (「Yes」または「No」) クライアント・グループのメンバ
Clients	追加したクライアントのステータスを表示します。このレポートでは、以下が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> クライアント名 NetVaultのバージョン アクセシビリティのステータス (「Yes」または「No」) クライアントのステータス (「Up」または「Down」)
Defined Jobs	すべてのジョブ定義を表示します。このレポートでは、以下が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ジョブID ジョブ名 NetVaultクライアント名 ポリシー名 (該当する場合) プラグイン名 ジョブ・タイプ (「Backup」、「Restore」または「Report」) スケジュール・セット名 セレクション・セット名 バックアップ・ターゲット・セット名 詳細設定セット名
Drive Events	サーバーの管理対象のドライブに関連するイベントを一覧表示します。このレポートでは、以下が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 時刻 日付 ドライブ名 書き込み開始、書き込み終了などのイベント・タイプ
Drive Performance Statistics	サーバーの管理対象のすべてのドライブのパフォーマンス統計情報を表示します。このレポートでは、以下が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ドライブへのアクセス時刻 ドライブへのアクセス日 ドライブ名 ジョブID インスタンスID 平均データ転送速度 (kb/秒)

表91. レポート・クラス

レポート・クラス	出力
Drives	<p>NetVaultにアクセス可能なすべてのドライブを一覧表示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ドライブ名 • 製品名 • ベンダー名 • ドライブのステータス(オンラインまたはオフライン) • ドライブまたはライブラリがローカルに接続しているマシン • このドライブによって書き込まれたデータ • このドライブによって読み取られたデータ
Entry/Exit Ports	<p>サーバーの管理対象のすべてのライブラリ内にあるすべての入口/出口ポート(EEPort)を一覧表示します。このレポートには、入力/出力ポート内にあるメディア・アイテムの詳細も含まれます。</p>
Index Media	<p>バックアップ・ジョブのインデックス・メディアのサマリを示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ジョブ・タイトル • ジョブID • ジョブ・インスタンス • ジョブ・フェーズID • クライアント名 • バックアップ時刻 • バックアップ日 • メディア・ラベル • オフサイト • オンライン([はい]または[いいえ])
Job History	<p>指定期間に行われたジョブの概要を表示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 開始日 • 開始時刻 • ジョブID • インスタンスID • フェーズID • ジョブ名 • ジョブ・タイプ(「Backup」、「Restore」または「Report」) • ジョブの終了ステータス(「Completed」、「Completed with errors」または「Failed」) • ラン・レンジ
Libraries	<p>サーバーの管理対象のすべてのライブラリを一覧表示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ライブラリID • ライブラリ名 • ライブラリのステータス(オンラインまたはオフライン) • NetVaultサーバーの制御
Library Drives	<p>サーバーの管理対象のすべてのドライブを一覧表示します。このレポートには、ドライブ内にあるメディア・アイテムの詳細も含まれます。</p>

表91. レポート・クラス

レポート・クラス	出力
Library Slots	サーバーの管理対象のライブラリにあるすべてのスロットを一覧表示します。このレポートには、スロット内にあるメディア・アイテムの詳細も含まれています。
License Capabilities	NetVaultの使用可能なライセンスと使用ライセンスの概要を表示します。
Media	<p>サーバーの管理対象のデバイスが使用しているメディア・アイテムを一覧表示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • グループ・ラベル • メディア・ラベル • 使用可能な領域の容量 • 使用している領域の容量 • メディアのフォーマット(MTF=WindowsまたはUTF8=Linux/ UNIX) • インポートが必要かどうか(「Yes」はメディア・アイテムが「Foreign」とマークされており、オンテープ・インデックスをNetVault Databaseに読み取るためにそのメディア・アイテムをスキャンする必要があることを示す) • リカバリが必要かどうか(「Yes」はテープ上のコンテンツに問題がある可能性があると思われており、NetVaultデータベースに記録されていないインデックスをバックアップするため、そのコンテンツをスキャンする必要があることを示す) • メディア・アイテムが「使用不可」とマークされているかどうか(「使用不可」とマークされている場合は「Yes」、「使用不可」とマークされていない場合は「No」)
Media Capacities	サーバーの管理対象のライブラリおよびドライブで使用可能なメディア・アイテムのメディア容量の詳細を表示します。
Media Job Contents	<p>使用可能なメディアに保存されているすべてのバックアップ・セーブセットを一覧表示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • メディア・ラベル • グループ・ラベル • メディア・バーコード • ジョブ名 • NetVaultクライアント名 • ジョブの開始日 • ジョブの開始時刻 • ジョブのメディアに転送されたデータ量 • セーブセットの有効期限日 • セーブセットの有効期限時刻
Media Requests	<p>メディア要求の詳細を表示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • メディア要求日 • メディア要求時刻 • ジョブID • 要求のステータス

表91. レポート・クラス

レポート・クラス	出力
Media Segment Contents	<p>メディア・セグメントの概要を表示します。このレポートでは、以下が表示されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • メディア・ラベル • メディア・バーコード • ジョブ名 • NetVaultクライアント名 • バックアップ日 • バックアップ時刻 • セグメント長
Media Transfer Requests	<p>すべての転送要求を表示します。詳細には、次が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ジョブID • インスタンスID • 転送要求のタイプ(「Read」または「Write」) • 要求ID • 転送されたデータ量
NetVault Event Types	<p>すべてのイベント・タイプを表示します。</p>
NetVault Events	<p>指定期間に発生したすべてのイベントを表示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日時 • イベント名 • イベント・クラス • イベントの説明 • イベント・メッセージ
NetVault Logs	<p>すべてのログ・メッセージを表示します。NetVaultデータベースに存在するログ・エントリの数によっては、このコマンドで結果が表示されるまでに数分かかる場合があります。</p>
Notifications	<p>通知方法を設定するすべてのイベントを一覧表示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • イベント・クラス • イベント • 通知プロファイルが属すユーザー・アカウント(該当する場合) • 通知方法
Operator Messages	<p>未解決のすべてのオペレータ・メッセージを表示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • メッセージID • 日時 • 未解決(未解決の場合は「Yes」、確認済みの場合は「No」) <p>すべてのオペレータ・メッセージが確認または削除された場合、このレポートに情報は表示されません。</p>

表91. レポート・クラス

レポート・クラス	出力
Policies	<p>バックアップ・ポリシーの概要を表示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポリシー名 • ポリシー内で作成されたジョブの合計数 • ポリシーに追加されたクライアントの合計数 • ポリシーの現在のステータス: <ul style="list-style-type: none"> - OK: ポリシーのすべてのジョブが正常に実行された場合 - 警告: 1つまたは複数のジョブの完了時に警告が表示された場合 - エラー: エラーが発生した場合 • ポリシーに追加されたクライアントのリスト • 失敗したジョブに定義されているイベント • 警告を表示して終了したジョブに定義されているイベント
Policy Clients	<p>ポリシーに含まれるすべてのクライアントを一覧表示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポリシー名 • クライアント名 • ポリシーのステータス <ul style="list-style-type: none"> - OK: ポリシーのすべてのクライアントにアクセスできる場合 - エラー: エラーが発生した場合
Policy Jobs	<p>ポリシーに含まれるすべてのジョブを一覧表示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポリシー名 • ジョブ名 • バックアップ・セクション・セット名 • ジョブがアクティブであるかどうか
Privileges	<p>各ユーザーに現在付与されている権限を一覧表示します。</p>
Report Templates	<p>templates サブ・ディレクトリ (Windowsでは、<NetVault home>\reports\templates、Linuxでは、<NetVault home>/reports/templates) に保存されているすべてのレポート・テンプレート・ファイルを表示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • テンプレートのファイル名 • クラス名 • 出力タイプ (「Plain text」、 「HTML」、 または「CSV」)
Schedule Sets	<p>すべてのスケジュール・セットとその詳細を表示します。</p>
Segments	<p>バックアップ・ジョブのすべてのセグメントを一覧表示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ジョブID • インスタンスID • バイト単位のオフセット (ジョブが終了するセグメントのメディアの開始点) • バイト単位のセグメント全体のサイズ • メディア・ラベル • メディア・バーコード
Selection Options Sets	<p>すべてのバックアップ・オプション・セットとその詳細を表示します。</p>

表91. レポート・クラス

レポート・クラス	出力
Selection Sets	すべてのセレクション・セットとその詳細を表示します。
Users	すべてのNetVaultユーザーの一覧表示このレポートでは、以下が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー名 • 実際の名前 • ユーザーID番号(デフォルト・ユーザーのID番号:「Default = 0」および「Administrator = 1」) • ワークステーション • ユーザーが前回NetVaultにアクセスした日 • ユーザーが前回NetVaultにアクセスした時刻

プレーン・テキストのテンプレート・ファイル

次の表では、プレーン・テキストのテンプレート・ファイルの「ナイス・ネーム」とファイル名を示します。

表92. プレーン・テキストのテンプレート・ファイル

クラス名	テンプレート・ファイルの「ナイス・ネーム」	テンプレートのファイル名
Advanced Options	Advanced Options - cli default template	advancedoptionsclidefault
Audits	Audits - cli default template	auditclidefault
Backup Targets	Backup Targets - cli default template	backuptargetsclidefault
Client Groups	Client Groups - cli default template	groupsclidefault
Clients	Client Machines - cli default template	clientsclidefault
Defined Jobs	Defined Jobs - cli default template	jobdefinitionsclidefault
Drive Events	Drive Events - cli default template	driveeventsclidefault
Drive Performance Statistics	Drive Performance Statistics - cli default template	driveperformanceclidefault
Drives	Drives - cli default template	drivesclidefault
Entry/Exit Ports	Entry/Exit Ports - cli default template	entryexitportsclidefault
Index Media	Index Media - cli default template	indexmediacidefault
Job History	Executed Job History - cli default template	jobhistoryclidefault
Libraries	Libraries - cli default template	librariesclidefault
Library Drives	Library Drives - cli default template	librarydrivesclidefault
Library Slots	Library Slots - cli default template	libraryslotsclidefault
License Capabilities	This Server's License Capabilities - cli default template	licensecapsclidefault
Media	Media - cli default template	mediacidefault
Media Capacities	Media Capacities - cli default template	mediacapacitiesclidefault
Media Job Contents	Media Contents Query - Textual	mediajobcontentsclidefault
Media Requests	Media Requests - cli default template	mediarequestsclidefault
Media Segment Contents	Media Segment Contents Query - Textual	mediasegmentcontentsclidefault
Media Transfer Requests	Media Transfer Requests - cli default template	mediatransfersclidefault
NetVault Event Types	NVBU Event Types - cli default template	eventtypesclidefault

表92. プレーン・テキストのテンプレート・ファイル

クラス名	テンプレート・ファイルの「ナイス・ネーム」	テンプレートのファイル名
NetVault Events	NVBU Events - cli default template	eventsclicidefault
NetVault Logs	NVBU Logs - cli default template	logsclicidefault
Notifications	User's Selected Notifications - cli default template	notificationsclicidefault
Operator Messages	Operator Messages - cli default template	operatormessagesclicidefault
Policies	Policies - cli default template	policiesclicidefault
Policy Clients	Policy Clients - cli default template	policyclientsclicidefault
Policy Jobs	Policy Jobs - cli default template	policyjobsclicidefault
Privileges	Granted Privileges - cli default template	privilegesclicidefault
Report Templates	Report Templates Installed on System	reporttemplatesclicidefault
Schedule Sets	Schedule Sets - cli default template	schedulesclicidefault
Segments	Segments - cli default template	segmentsclicidefault
Selection Option Sets	Selection Option Sets - cli default template	seloptionsclicidefault
Selection Sets	Selection Sets - cli default template	selectionsclicidefault
Users	Users - cli default template	usersclicidefault

レポートの書式設定

nvreport ユーティリティには、レポートのレイアウトおよびコンテンツの書式設定を行う複数のオプションがあります。以降のセクションでは、これらのオプションの使用法の概要を説明します。

i **メモ**：他に記載のない限り、このセクションに記載されているオプションの説明は、「プレーン・テキスト」出力タイプを使用するレポート・テンプレートでオプションを使用することが前提となります。これらのテンプレートには、ファイル名に「clicidefault」または「- cli default template」が含まれています。これらのレポートは、ターミナル・セッション・ウィンドウから表示できます。

実際の名前の取得

CLI からレポートを実行して表示すると、出力に複数の列があります。「フィールド名」と呼ばれる列ヘッダは、レポートの実行に使用されるテンプレート・ファイルで設定されている列の「実際の名前」と同じでない場合があります。このセクションで説明されている書式設定オプションでは、実際の名前を使用する必要があります。

以下のいずれかの方法を使用すると、実際の名前を見つけることができます。

- [help オプションの使用](#)
- [テンプレート・ファイルの使用](#)

helpオプションの使用

以下のコマンドを入力し、定義済みレポートのクラスの有効なフィールド名のリストを取得します。

```
nvreport -help fields [class name]
```

この出力には、実際の名前、フィールド名、データ型、および説明の 4 つの列があります。

このコマンドでは、指定した定義済みレポートで使用できるすべてのフィールドが表示されます。レポートを実行したときに表示されないフィールドも含まれます。**format** オプションを使用して、これらの追加フィールドを含めることができます。詳細は、「[列の追加または削除](#)」を参照してください。

以下の手順を使用して、テンプレート・ファイルのデフォルト・フィールドを特定します。

- 1 レポートを実行して、各列のデフォルトのフィールド名をメモします。
- 2 `nvreport -help fields [Class Name]` コマンドを実行します。
- 3 リストで該当するフィールド名を見つけ、実際の名前を相互参照させます。

テンプレート・ファイルの使用

テンプレート・ファイルをテキスト・エディタで開きます。このファイルでは、**%FORMAT** 行にフィールドの実際の名前が記載されています。テンプレート・ファイルは、Windows では `<NetVault home>\reports\templates`、Linux では、`<NetVault home>/reports/templates` にあります。

テンプレート・ファイルの **%FORMAT** 行には、レポートの実行時に表示されるフィールドの実際の名前のみが含まれます。

テンプレート・ファイルのサンプル：

```
%CLASS "Media"
%NICENAME "Media - cli default template"
%FORMAT "%MEDIAGROUP %LABEL %SPACELEFT %SPACEUSED
%MEDIAFORMAT %NEEDSIMPORT %NEEDSRECOVERY %UNUSABLE"
%SORT %MEDIAGROUP+ %LABEL+
%OUTPUTTYPE 0
%HEADERNAME "Default"
%FOOTERNAME "Default"
```

format オプションの使用

ターミナル・ウィンドウでレポートが実行される場合、デフォルトでは、レポートは定義済みレイアウトで表示されます。**-format** オプションを使用すると、列に表示されている文字数の指定、改行の挿入、列の追加または削除を実行できます。以降のセクションでは、フォーマット・オプションについて説明します。

- 列の最大文字数の指定
- 改行の挿入
- 列の追加または削除

-format オプションを使用する場合は、フィールドの実際の名前を使用する必要があります。各名前の先頭には「%」記号を付ける必要があります。実際の名前に「%」記号が含まれている場合は、その名前を指定するときにエスケープ・シーケンス「%%」を使用します。また、すべての必須フィールドを構文に指定する必要があります。いずれかフィールドを構文に指定しない場合、そのフィールドは出力で表示されません。

列の最大文字数の指定

列の最大文字数を指定するには、2つのコロンとその数を実際の名前に追加します。

```
-format "%<Real Name>::<Max characters>
```

例：

```
nvreport -class "Media Requests" -format "%Date %JOBID %TRANSITION::3"
```

改行の挿入

レポート出力の各エンタリ間に改行を含めるには、**-format** オプションで指定したフィールドのリストの末尾に「%\n」を追加します。

```
-format "%<Real Name> %<Real Name> %\n
```

例：

```
nvreport -class "Media Requests" -format "%Date %Time %JOBID %TRANSITION %\n"
```

列の追加または削除

一部のテンプレート・ファイルには、**-format** オプションを使用して出力に含めることのできる追加フィールドがあります。列を追加するには、`nvreport -help field <class name>` コマンドを使用してテンプレート・ファイルで使用できるフィールドの完全なリストを取得します。各フィールドの説明列で提供されている情報を確認し、適用可能なフィールドを含めてください。必ず、フィールドの実際の名前を使用します。

以下の例では、「ドライブ」定義済みレポートを使用しています。このレポートには、デフォルト・フィールドがすべて含まれており、さらに、ドライブの書き込みエラー数が表示されます。

例：

```
nvreport -class drives -format "%DriveName %Product %Vendor %Status %DriveMachine %DriveDataWritten %DriveDataRead %DriveWriteErrors"
```

sort オプションの使用

-sort オプションを使用して選択したフィールドのエントリをソートできます。ソート式は、以下の形式で指定します。

```
-sort "[%field name] [+/-]
```

- **[field name]** : レポートをソートするフィールド。
- **[+/-]** : 出力を指定フィールドの昇順でソートする場合は「+」を、降順で出力をソートする場合は「-」を使用します。

レポートは、クラスが提供するどのフィールドでもソートできます。出力には表示されないフィールドの実際の名前も出力のソートに使用できます。

-sort オプションを使用する場合は、フィールドの実際の名前を使用する必要があります。各名前の先頭には「%」記号を付ける必要があります。実際の名前に「%」記号が含まれている場合は、その名前を指定するときにエスケープ・シーケンス「%%」を使用します。

例：

```
nvreport -class "Job History" -sort "%TITLE+"
```

「-sort」オプションでは、複数のフィールドを指定できます。出力されたレポートでは、構文のフィールド名の順に基づいてソートの優先順位が決定されます。複数のソート・フィールドを使用する場合は、すべてのフィールドを引用符（"）で囲みます。

例：

```
nvreport -class "Job History" -sort "%TITLE+ %EXITSTATUS"
```

include オプションの使用

-include オプションを使用すると、レポートのデータをフィルタリングできます。フィルタ式は、以下の形式で指定します。

-include %[field name] [operator] [constant]

- **[field name]** : フィールドの実際の名前。
- **[operator]** : これには、次のいずれかを使用できます。
 - > (より大きい)
 - >= (より大きいか等しい)
 - < (未満)
 - <= (より小さいか等しい)
 - = (等しい)
 - != (等しくない)
- **[constant]** : [field name] の値と比較する値です。たとえば、「42」というジョブ ID に割り当てられているジョブに適用されるエントリのみを含めるには、「[constant]」として「42」を指定します。

複数のフィルタ式を指定するには、「AND」および「OR」を使用します。また、引数の優先度を示すには、括弧を使用します。

例 :

- `nvreport -class "Job History" -include "%JOBDEFINITIONID = 42`
- `nvreport -class "Job History" -include "(%JOBDEFINITIONID > 50 AND %INSTANCEID < 5) OR %TYPE = restore`

定数型

表93. 定数型

定数型	説明
Timepassed	期間の値を含むフィールドを比較します。例として、バックアップ・ジョブの実行にかかる期間が挙げられます。この値は、以下の形式で指定できます。 <ul style="list-style-type: none">• HH:MM:SS• HHMMSS
Boolean	Boolean値を含むフィールドを比較します。以下は、Boolean値の例です。 <ul style="list-style-type: none">• YesまたはNo• TrueまたはFalse
Date	日付値を含むフィールドを比較します。 例: <code>nvreport -class "job history" -include "%STARTDATE >=[Date]"</code> この値は、以下の形式で指定できます。 <ul style="list-style-type: none">• YYYY/MM/DD• YYYYMMDD• now-[number value][time variable (YE = Year, MO = Month, WE = Week, DA = Date, HO = Hour, MI = Minute, SE = Second)] たとえば、「now-1YE」は1年前を示します。

表93. 定数型

定数型	説明
Daysinweek	<p>曜日を含むフィールドを比較します。</p> <p>この値は、以下の形式で指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sunday = “SU” • Monday = “MO” • Tuesday = “TU” • Wednesday = “WE” • Thursday = “TH” • Friday = “FR” • Saturday = “SA”
Daysinmonth	<p>月の特定の日を含むフィールドを比較します。複数の値を指定する場合は、区切り文字としてカンマを使用し、すべての値を引用符で囲みます。</p>
hdwmycount	<p>時間、日、週、月、および年の数(合計数)を含むフィールドを比較します。</p> <p>この値は、以下の形式で指定できます。</p> <p>[#H] [#D] [#W] [#M] [#Y]</p> <p>たとえば、「12H 2W 10M 18Y」では、18年10か月2週間12時間を示します。</p> <p>必要に応じて、各時間変数を追加したり、省略したりできます。</p>
Integer(大きな値)	<p>大きな整数値(764874497498723497など)を含むフィールドを比較します。</p>
Number	<p>数値を含むフィールドを比較します。</p> <p>例:</p> <pre>nvreport -class "job history" -include %INSTANCEID = 2</pre>
pluginscreen	N/A
selectiontree	N/A
String	<p>文字列値を含むフィールドを比較します。</p> <p>例:</p> <pre>nvreport -class "job history" -include "%EXITSTATUS !=Failed"</pre> <p>スペースを含むテキスト文字列は、引用符で囲む必要があります。</p>
Systime	<p>システム時間を含むフィールドを比較します。</p> <p>この値は、以下の形式で指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HH:MM:SS • HHMMSS (221011) • Past Time: now-[number value][time variable (YE = Year, MO = Month, WE = Week, DA = Date, HO = Hour, MI = Minute, SE = Second)] <p>たとえば、「now-30mi」は30時間前を示します。</p>

表93. 定数型

定数型	説明
Time	<p>いずれかの時間の値を含むフィールドを比較します。</p> <p>例: <code>nvreport -class "job history" -include "%STARTTIME >= [Time]"</code></p> <p>例: <code>nvreport -class "Job History" -format "%Title::25 %starttime::13 %startdate::15 %endtime::13 %enddate::10 %exitstatus::30" -include "%STARTDATE >= 'YYYYMMDD' AND %STARTDATE <= 'YYYYMMDD'"</code></p> <p>この値は、以下の形式で指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HH:MM:SS • HHMMSS (221011) • Past Time: now-[number value][time variable (YE = Year, MO = Month, WE = Week, DA = Date, HO = Hour, MI = Minute, SE = Second)] <p>たとえば、「now-12ho」は12時間前を示します。</p>
Unique	N/A
weeks_inmonth	<p>月の特定の週を含むフィールドを比較します。</p> <p>この値は、以下の形式で指定できます。</p> <p>[Week Number]: 必要な週の番号</p> <p>Lはその月の先週を意味します。たとえば、134Lでは、その月の第1、第3、第4週と先週が指定されます。</p>

title オプションの使用

レポートがコマンドラインから実行、表示された場合、出力のタイトルは、デフォルトの「CLI Report」になります。**-title** オプションを使用するとレポート・タイトルを変更できます。**-title** オプションは、以下の形式で指定します。

```
-title <NewReport Title>
```

タイトルにスペースを含めるには、値全体を引用符で囲む必要があります。「-title」オプションを使用すると、CLI 出力のレポートにラベルを付けることができますが、ファイルに出力され、CLI で表示されるレポートにラベルを付けるのにより適しています。

外部レポート・ファイルの作成

nvreport ユーティリティを使用して生成したレポート・ファイルは、**reports** ディレクトリの **output** サブ・ディレクトリ (Windows では、<NetVault home>\reports\output、Linux では、<NetVault home>/reports/output) に保存し、必要に応じて使用できます。たとえば、このようなレポート・ファイルをブラウザで開いて参照したり、電子メールの添付ファイルとして送信したりできます。外部レポート・ファイルを作成するには、以下のセクションで説明する手順を実行します。

- [テンプレート・ファイルの選択](#)
- [outputdir の指定](#)
- [appendoutput オプションの指定](#)
- [title オプションの使用](#)

テンプレート・ファイルの選択

レポート・テンプレート・ファイルには、2つのタイプがあります。

- **HTML テンプレート・ファイル**：これらのテンプレートは、NetVault WebUI で使用されます。`-outputdir` オプションを指定して、これらのテンプレートを使用すると、HTML ベースの外部ファイルを作成できます。これらのテンプレートの詳細については、「[HTML テンプレート・ファイル](#)」を参照してください。
- **プレーン・テキストのテンプレート・ファイル**：これらのテンプレートは、ターミナル・ウィンドウで出力を表示するために、CLI ユーティリティで使用されます。`-outputdir` オプションを指定して、これらのテンプレートを使用すると、プレーン・テキストの外部ファイルを作成できます。プレーン・テキストのテンプレート・ファイルには、ファイル名に「clidefault」というテキストや、「ナイス・ネーム」に「cli default file」または「textual」というテキストが含まれます。これらのテンプレートの詳細については、「[プレーン・テキストのテンプレート・ファイル](#)」を参照してください。

レポート・ファイルを作成するには、以下のオプションを使用します。

- **-templatename**：テンプレート・ファイルの「ナイス・ネーム」を指定します。
- **-templatefile**：テンプレート・ファイルの名前を指定します。このオプションでは、完全なファイル・パスを指定する必要があります。レポート・テンプレートは、`<NetVault home>\reports\templates` ディレクトリにあります。

i **メモ**：「-class」オプションを使用してレポート・ファイルを作成し、ターミナル・セッション・ウィンドウ以外で表示することは可能ですが、「-class」オプションの使用はお勧めしません。「-class」オプションは、デフォルトのテンプレート・ファイルで使用し、ターミナル・セッション・ウィンドウで表示するレポートを作成するように設計されています。「-class」オプションを使用すると、外部レポートで目的の結果を得ることができない場合があります。

outputdir の指定

出力ディレクトリは、Windows では `<NetVault home>\reports\output`、Linux では、`<NetVault home>/reports/output` にあります。

このオプションの構文は次のとおりです。

```
-outputdir <サブ・ディレクトリの名前>
```

例：

```
nvreport -templatename "Executed Job History" -outputdir "Test01"
```

以下の点に注意します。

- 「-outputdir」オプションで既存のサブ・ディレクトリを指定すると、そのサブ・ディレクトリは上書きされます。
以下のコマンドでは、「report」という名前のサブ・ディレクトリを作成し、「output.html」というレポート・ファイルをこのディレクトリに保存します。

```
nvreport -templatename "Client Groups" -outputdir report
```

別のレポートを生成すると、既存の「report」サブ・ディレクトリと「output.html」ファイルは新しいファイルで上書きされます。

```
nvreport -templatename "Defined Jobs" -outputdir report
```

既存のレポート・ファイルを上書きしない場合は、新しいディレクトリを指定するか、**-appendoutput** オプションを使用します。
- HTML レポート・テンプレートにはレイアウトにさまざまなアートワークが含まれます。HTML テンプレートを使用すると、アートワーク・ファイルは自動的に新しいサブ・ディレクトリにコピーされます。

appendoutput オプションの指定

-outputdir オプションで既存のサブ・ディレクトリが指定されると、新しいレポートが作成された場合に、上書きされます。既存のレポート・ファイルのコンテンツを保持するには、**-appendoutput** オプションを使用します。このオプションでは、新しいレポート・データを既存のレポート・ファイルに追加できます。

例：

```
nvreport -templatename "Restore Summary" -outputdir "Test01" -appendoutput
```

以下の点に注意します。

- **-appendoutput** オプションは、**-outputdir** オプションと併用する必要があります。
- このオプションを使用すると、2つの異なるタイプのテンプレートを組み合わせることができます。
- このオプションを使用すると、HTML 出力タイプとプレーン・テキスト出力タイプを組み合わせることができます。

title オプションの使用

-title オプションを **-outputdir** オプションと組み合わせて使用すると、保存したレポート・ファイルにユーザー定義のタイトルを付けることができます。このオプションの構文は次のとおりです。

```
-title <NewReport Title>
```

タイトルにスペースを含めるには、値全体を引用符で囲む必要があります。

例：

```
nvreport -templatename "Historic Jobs - By Date" -outputdir "Test01"  
-title "Job History - By Date"
```

以下の点に注意します。

- このオプションを **-outputdir** オプションと組み合わせて使用すると、任意のフォーマットのテンプレート（HTML またはプレーン・テキスト）にタイトルを追加できます。
- **-title** オプションは、**-appendoutput** オプションと組み合わせて使用すると、既存の「output.html」ファイルの末尾に追加されるレポートのタイトルとして使用されます。既存のレポートの既存のタイトルは保持されます。

HTML テンプレート・ファイル

次の表では、HTML テンプレート・ファイルの「ナイス・ネーム」とファイル名を示します。

表94. HTMLテンプレート・ファイル

テンプレートの ファイル名	ナイス・ネーム	説明
activejobs	Currently Active Jobs	<p>すべてのアクティブ・ジョブの一覧。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ジョブID • ジョブ名 • クライアント名 • ポリシー名 • 実行ステータス(たとえば、メディアに書き込み中)
alldrives	All Drives	<p>NetVaultサーバーの管理対象のすべてのドライブを一覧表示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ドライブが接続されているマシンの名前 • ドライブ名 • ドライブのステータス(オンラインまたはオフライン) • 読み取りデータ量(アクティブなジョブが存在しない場合はゼロ) • 書き込みデータ量 • 読み取りエラー数 • 書き込みエラー数 • 最終書き込み日付 • 最終読み取り日付 • 最終クリーニング日付 • 前回のクリーニング以降に書き込まれたデータ量 • 前回のクリーニング以降にドライブが使用された回数
allfailedpolicyjobs	Failed Policy Jobs	<p>指定した期間中に失敗したポリシー・ジョブのサマリ。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポリシー名 • クライアント名 • ジョブ名 • プラグイン名 • 開始日 • 開始時刻 • ラン・レンジ • ジョブ・ステータス
clientgroups	Client Groups	<p>すべてのクライアント・グループを一覧表示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • グループ名 • グループの説明 • すべての現在のクライアントがこのグループのメンバーであるかどうか(「Yes」または「No」) • クライアント・グループのメンバ

表94. HTMLテンプレート・ファイル

テンプレートの ファイル名	ナイス・ネーム	説明
clientstatuses	Client Statuses	追加したクライアントのステータスを表示します。このレポートでは、以下が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> クライアント名 NetVaultのバージョン クライアントのアクセシビリティのステータス (「Yes」または「No」) クライアントのステータス (「Up」または「Down」)
errorlogs	Recent Error Logs	指定した期間中に生成されたエラー・ログの一覧。このレポートでは、以下が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 日時 クライアント名 ジョブID インスタンスID エラー・メッセージ 警告レベル
events	NetVault Events	指定した期間中に発生したイベントの一覧。このレポートでは、以下が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 日時 イベント名 イベント・クラス イベントの説明 イベント・メッセージ
expiredofflinemedia	Expired Offline Media	期限切れオフライン・メディアの一覧。このレポートでは、以下が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> メディア・ラベル メディア・グループ・ラベル バーコード 最終読み取り/書き込み日付 オフサイト・ロケーション
failedrequests	Failed ULA Requests	指定した期間中に失敗したユーザー要求のサマリ。
fullonlinemedia	Full Online Media	フル・オンライン・ストレージ・デバイスの一覧。このレポートでは、以下が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> メディア・ラベル メディア・グループ・ラベル バーコード 最終読み取り/書き込み日付 メディア有効期限 ライブラリ名 スロット番号 オフサイト・ロケーション インポートが必要かどうか (「Yes」はメディア・アイテムが「Foreign」とマークされており、オンテープ・インデックスをNetVault Databaseに読み取るためにそのメディア・アイテムをスキャンする必要があることを示す)

表94. HTMLテンプレート・ファイル

テンプレートの ファイル名	ナイス・ネーム	説明
globalnotifications	Global Notifications	<p>グローバル通知プロファイルに含まれるイベントの一覧。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • イベント・クラス • 設定済み通知環境 • イベント • 通知方法
historicjobs	Historic Jobs - By Date	<p>指定した期間中に実行されたジョブの日付別サマリ。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 開始日時 • ラン・レンジ
historicjobsbysize	Historic Jobs - By Size	<p>指定した期間中に実行されたジョブのサイズ別サマリ。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ジョブID • ジョブ名 • インスタンスID • NetVaultクライアント名 • セレクション・セット名 • バックアップ・サイズ • ジョブ・ステータス • 開始日時 • ラン・レンジ
jobdefinitions	Defined Jobs	<p>すべてのジョブ定義を表示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ジョブID • ジョブ名 • NetVaultクライアント名 • ポリシー名 (該当する場合) • プラグイン名 • ジョブ・タイプ (「Backup」、「Restore」または「Report」) • スケジュール・セット名 • セレクション・セット名 • バックアップ・ターゲット・セット名 • 詳細設定セット名

表94. HTMLテンプレート・ファイル

テンプレートの ファイル名	ナイス・ネーム	説明
jobhistory	Executed Job History	<p>指定期間に行われたジョブの概要を表示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 開始日時 • 終了時刻 • ジョブID • インスタンスID • フェーズID • ジョブ名 • ジョブ・タイプ(「Backup」、「Restore」または「Report」) • ジョブの終了ステータス(「Completed」、「Completed with errors」または「Failed」) • ラン・レンジ
libraryblankcounts	Blank Media Items In Libraries	<p>NetVaultサーバーによって管理されているライブラリに存在するブランクのメディア・アイテムの数。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ライブラリ名 • 空メディアの数
librarycontents	Libraries' Media Contents	<p>現在オンラインのメディア・アイテムのサマリ。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ライブラリ名 • ドライブ名 • スロット番号 • メディア・ラベル • バーコード • メディア・グループ・ラベル • 使用済み領域と空き領域
logs	NetVault Logs	<p>指定した期間中に生成されたシステム・ログ。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ジョブID • ログ・クラス • 警告レベル • 日時 • ログを生成したクライアント • ログ・メッセージ

表94. HTMLテンプレート・ファイル

テンプレートの ファイル名	ナイス・ネーム	説明
mediacontentsquery	Media Contents Query	<p>個々のメディア・アイテムに格納されているデータのサマリ。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • メディア・ラベル • メディア・グループ・ラベル • バーコード • ジョブ名 • クライアント名 • プラグイン名 • 開始日時 • バックアップ・タイプ • バックアップ・サイズ • メディアの期限切れ日時
mediageneral	Media – General	<p>使用済みメディア・アイテムのサマリ。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • メディア・ラベル • バーコード • メディア・タイプ(テープまたはディスク・ファイル) • メディアのフォーマット(MTF=WindowsまたはUTF8=Linux/ UNIX) • ドライブが接続されているマシンの名前 • 使用可能な領域の容量 • 使用している領域の容量 • メディア・アイテムが「使用不可」とマークされているかどうか(「使用不可」とマークされている場合は「Yes」、「使用不可」とマークされていない場合は「No」) • メディア・アイテムが読み取り専用としてマークされているかどうか(読み取り専用としてマークされている場合はYes、読み取り専用としてマークされていない場合はNo)
mediasegmentcontentsquery	Media Segment Contents Query	<p>各セグメントに格納されているデータのサマリ。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • メディア・ラベル • バーコード • ジョブ名 • クライアント名 • プラグイン名 • バックアップ日 • バックアップ時刻 • セグメント長(バイト単位)

表94. HTMLテンプレート・ファイル

テンプレートの ファイル名	ナイス・ネーム	説明
mediautilization	Media Utilization	NetVaultサーバーによって管理されているデバイスのストレージ利用率統計情報。このレポートでは、以下が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> メディア・ラベル バーコード メディア・グループ・ラベル 使用可能な領域の容量 使用している領域の容量
notifications	Users' Selected Notifications	ユーザー通知プロファイルに含まれているすべてのイベントの一覧。このレポートでは、以下が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> イベント名 イベントの説明
offlinedevices	Offline Devices	現在オフラインのデバイスの一覧。
outstandingopmsgsgs	Outstanding Operator Messages	未確認のオペレータ・メッセージの一覧。このレポートでは、以下が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 日時 オペレータ・メッセージのテキスト すべてのメッセージが確認または削除された場合、このレポートは何も返しません。
overnight_jobs_failed	Failed Overnight Backup Jobs	失敗した夜間バックアップ・ジョブのサマリ。このレポートでは、以下が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ジョブID ジョブ名 クライアント名 ポリシー名 ジョブ・ステータス
overnight_jobs_failed_count	Count Of Failed Overnight Backup Jobs	失敗した夜間バックアップ・ジョブの総数(例:「0個のバックアップ・ジョブが失敗しました」)
overnight_jobs_successful_count	Count Of Successful Overnight Backup Jobs	成功した夜間バックアップ・ジョブの総数(例:「12個のバックアップ・ジョブが★分断後★正常に終了しました」)
overnight_jobs_total_data_stored	Count of Data Stored In Overnight Jobs	夜間ジョブで格納されたデータ量の合計(例:「約348 GBのデータが格納されました」)
overnight_jobs_warnings_count	Count Of Overnight Backup Jobs Finished With Warnings	警告が出力された夜間バックアップ・ジョブの総数(例:「1個のバックアップ・ジョブで警告が出力されました」)

表94. HTMLテンプレート・ファイル

テンプレートの ファイル名	ナイス・ネーム	説明
policiessummary	Policy Basics	<p>バックアップ・ポリシーの概要を表示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポリシー名 • ポリシー内で作成されたジョブの合計数 • ポリシーに追加されたクライアントの合計数 • ポリシーのステータス: <ul style="list-style-type: none"> - OK: ポリシーのすべてのジョブが正常に実行された場合 - 警告: 1つまたは複数のポリシー・ジョブが警告付きで完了した場合 - エラー: 1つまたは複数のポリシー・ジョブが失敗した場合 • ポリシーに追加されたクライアントのリスト • 失敗したジョブに定義されているイベント • 警告を表示して終了したジョブに定義されているイベント
restoresummary	Restore Summary	<p>すべてのリストア・ジョブのサマリ。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 開始日時 • クライアント名 • ジョブ名 • ジョブID • インスタンスID • ラン・レンジ • ジョブ・ステータス
serverlicensecapabilities	Server License Capabilities And Usage	<p>NetVaultの使用可能および使用済みライセンス。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ライセンスの説明(クライアント数、ライブラリ装置数、その他) • 使用可能なライセンス • 使用済みライセンス
serverlicenseflags	Server License Flags	<p>現在のサーバー・ライセンス・タイプで提供される機能の一覧。</p>
single_job_drives_events	Single Job's Drive Events	<p>特定のジョブで使用されたドライブの転送速度。</p>
single_job_logs	Single Job's Logs	<p>特定のジョブのログ・エントリ。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ログ・エントリの日時 • ログ・クラス • 警告レベル • ログを生成したクライアント • ログ・メッセージ

表94. HTMLテンプレート・ファイル

テンプレートの ファイル名	ナイス・ネーム	説明
single_job_media	Media Used by Single Backup	<p>特定のジョブのメディア使用量の詳細。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • バーコード • メディア・ラベル • メディア・タイプ(テープまたはディスク・ファイル) • オフサイト・ロケーション
single_job_media_transfers	Single Job's Media Transfers	<p>特定のジョブのデータ転送の詳細。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • メディア転送要求が受信された日時 • 要求されたメディア転送が開始された日時 • 要求されたメディア転送が完了した日時 • メディア転送のタイプ(読み取りまたは書き込み) • 転送されたデータ量
single_job_summary	Single Job Main Summary	<p>特定のジョブのサマリ。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ジョブID • ジョブ名 • ジョブ・タイプ(「Backup」、「Restore」または「Report」) • プラグイン名 • インスタンスID • 開始日時 • 終了日時 • ジョブ・ステータス • 転送されたデータのサイズ • 転送速度(バックアップ・ジョブのみ)
single_job_xfer_rates	Single Job's Data Transfer Rate	<p>特定のジョブのデータ転送速度。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • イベントの日時 • ドライブ名 • ドライブ・イベント
singlepolicybytecounts	Policy Totals	<p>バックアップ・ポリシーのバックアップ・サイズと転送速度。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 合計バックアップ・サイズ • 平均バックアップ・サイズ • 合計転送速度 • 平均転送速度

表94. HTMLテンプレート・ファイル

テンプレートの ファイル名	ナイス・ネーム	説明
singlepolicyclients	Policy Clients	<p>ポリシーに含まれるすべてのクライアントを一覧表示します。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポリシー名 • クライアント名 • ポリシーのステータス: <ul style="list-style-type: none"> - OK: ポリシーのすべてのジョブが正常に実行された場合 - 警告: 1つまたは複数のポリシー・ジョブが警告付きで完了した場合 - エラー: 1つまたは複数のポリシー・ジョブが失敗した場合
singlepolicyfailedjobs	Failed Jobs Within Single Policy	<p>バックアップ・ポリシーのすべての失敗したジョブの一覧。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポリシー名 • クライアント名 • ジョブ名 • プラグイン名 • 開始日 • 開始時刻 • ラン・レングス • ジョブ・ステータス
singlepolicyjobs	Defined Policy Jobs	<p>ポリシーに追加されたジョブのサマリ。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ジョブ名 • ポリシー名 • ジョブが現在アクティブであるかどうか • バックアップ・セクション・セット名 • バックアップ・オプション・セット名 • スケジュール・セット名 • ターゲット・セット名 • 詳細設定セット名
singlepolicystatus	Policy Status Information	<p>特定のポリシーのステータス。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポリシー名 • ポリシーに追加されたクライアントの数 • ポリシーに追加されたジョブの数 • 失敗したジョブ • 警告が出力されたジョブ • ポリシーのステータス
singleusersaudittrail	Single User's Audit Trail	<p>指定したユーザー・アカウントの監査ログ。</p>
userdefinedeventtypes	User-Defined Event Types	<p>すべてのユーザー定義イベントの一覧。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • イベント・クラス • イベント • 通知方法 • 設定済み通知環境(該当する場合)

表94. HTMLテンプレート・ファイル

テンプレートの ファイル名	ナイス・ネーム	説明
userdetails	User Details	<p>NetVaultユーザーの詳細。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アカウント名 • 実際の名前 • 説明 • 場所 • 連絡先情報 • 最終ログイン日時
userprivileges	ユーザー権限	個々のユーザーに与えられた権限の一覧。
usersmediausage	Quotas And Media Usage	<p>各ユーザー・アカウントの使用済みおよび割り当て済みメディア割当量のサマリ。このレポートでは、以下が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アカウント名 • メディア割当量 • 使用済みメディア

Quest は、急速に変化する企業 IT の世界にソフトウェア・ソリューションを提供します。データの急増、クラウドの拡張、ハイブリッド・データセンター、セキュリティの脅威、規制要件によって生じる課題を簡素化することができます。弊社は、Fortune 500 の 95% の企業および Global 1000 の 90% の企業など、100 か国におよぶ 130,000 社にサービスを提供するグローバル・プロバイダーです。1987 年以來、データベース管理、データ保護、ID およびアクセス管理、Microsoft のプラットフォーム管理、統合エンドポイント管理などのソリューションのポートフォリオを構築してきました。Quest により、組織は IT 管理に費やす時間を短縮し、ビジネスの革新に費やす時間を増やすことができます。詳しくは、以下を参照してください。www.quest.com

テクニカル・サポート用リソース

テクニカル・サポートは、Quest の有効な保守契約を締結している場合、または試用版を保有している場合にご利用いただけます。Quest サポート・ポータル (<https://support.quest.com/ja-jp>) にアクセスすることができます。

サポート・ポータルには、問題を自主的にすばやく解決するためのセルフヘルプ・ツールがあり、24 時間 365 日ご利用いただけます。サポート・ポータルでは次のことを実行できます。

- サービス・リクエストの送信と管理。
- ナレッジベース記事の参照。
- 製品に関するお知らせへの登録。
- ソフトウェアと技術文書のダウンロード。
- 入門ビデオの視聴。
- コミュニティ・ディスカッションへの参加。
- サポート・エンジニアとのオンライン・チャット。
- 製品に関する支援サービスの表示。